## 数学Ⅱ・B標準問題精講[三訂版] <sup>亀田隆著</sup> 演習問題の解答 PDF

#### 第1章

1-1 (1) 与式を 
$$(x^3)^2 - (y^3)^2$$
 とみると
$$x^6 - y^6$$

$$= (x^3)^2 - (y^3)^2$$

$$= (x^3 + y^3)(x^3 - y^3)$$

$$= (x+y)(x^2 - xy + y^2)(x-y)$$

$$\times (x^2 + xy + y^2)$$

$$= (x+y)(x-y)(x^2 - xy + y^2)$$

 $\times (x^2 + xy + y^2)$ 

別解 与式を 
$$(x^2)^3 - (y^2)^3$$
 とみると  $x^6 - y^6$   $= (x^2)^3 - (y^2)^3$   $= (x^2 - y^2)(x^4 + x^2y^2 + y^4)$   $= (x + y)(x - y)\{(x^2 + y^2)^2 - x^2y^2\}$   $= (x + y)(x - y)(x^2 + xy + y^2)$   $\times (x^2 - xy + y^2)$ 

$$(x-2z)^{3}+(y-2z)^{3}-(x+y-4z)^{3}$$

$$=X^{3}+Y^{3}-(X+Y)^{3}$$

$$=(X+Y)\{(X^{2}-XY+Y^{2})$$

$$-(X^{2}+2XY+Y^{2})\}$$

$$=-3XY(X+Y)$$

(2) X = x - 2z, Y = y - 2z とおくと

$$= -3(x-2z)(y-2z)(x+y-4z)$$
(3) 公式  $a^3+b^3+c^3-3abc$ 

 $=(a+b+c)(a^2+b^2+c^2-ab-bc-ca)$  を利用する.

$$x^{3}-27y^{3}+9xy+1$$

$$=x^{3}+(-3y)^{3}+1^{3}-3\cdot x\cdot (-3y)\cdot 1$$

$$=(x-3y+1)$$

$$\times (x^{2}+9y^{2}+1^{2}+3xy+3y-x)$$

$$=(x-3y+1)$$

$$\times (x^{2}+3xy+9y^{2}-x+3y+1)$$

1-2 
$$A=a+b+c$$
,  $B=a^2+b^2+c^2$ ,  $C=a^3+b^3+c^3$  とおくとき  
公式  $(a+b+c)^2=a^2+b^2+c^2$  +2 $(ab+bc+ca)$  より

$$A^2 = B + 2(ab + bc + ca)$$
  
 $\therefore ab + bc + ca = \frac{A^2 - B}{2}$   
さらに公式  $a^3 + b^3 + c^3 - 3abc$   
 $= (a + b + c)(a^2 + b^2 + c^2 - ab - bc - ca)$   
より  
 $C - 3abc = A\left(B - \frac{A^2 - B}{2}\right)$   
 $= \frac{1}{2}A(3B - A^2)$   
 $\therefore abc = \frac{1}{6}A^3 - \frac{1}{2}AB + \frac{1}{2}C$ 

 $x^3$ の項が現れるのは

問題の解答

$$5-2k=3$$
 ∴  $k=1$  のときであり、 $x^3$ の項の係数は

$$_{5}C_{1} \cdot 2^{5-1} \cdot (-1)^{1} = -5 \cdot 16 = -80$$

すべての項の係数の和は、①の右辺において x=1 とすればよいから

$$\sum_{k=0}^{5} {}_{5}C_{k}2^{5-k}(-1)^{k} = (2-1)^{5} = 1$$

(2)  $(a-b)^3(b-c)^4(c-a)^5$  の展開式の一般項は

$${}_{3}C_{l}a^{3-l}(-b)^{l} \times {}_{4}C_{m}b^{4-m}(-c)^{m}$$

$$\times {}_{5}C_{n}c^{5-n}(-a)^{n}$$

$$= {}_{3}C_{l} \cdot {}_{4}C_{m} \cdot {}_{5}C_{n} \cdot (-1)^{l+m+n}$$

$$\times a^{3-l+n}b^{4+l-m}c^{5+m-n}$$

 $\begin{pmatrix} l, & m, & n$  は  $0 \le l \le 3, 0 \le m \le 4, \\ 0 \le n \le 5 & をみたす整数 & \cdots (*) \end{pmatrix}$ 

として表すことができる.  $a^8b^4$  の項が現れるのは

$$\begin{cases} 3-l+n=8\\ 4+l-m=4\\ 5+m-n=0 \end{cases} \qquad \therefore \quad \begin{cases} n=l+5\\ m=l \end{cases}$$

(\*)に注意すると

$$(l, m, n) = (0, 0, 5)$$
  
よって展開式の  $a^8b^4$  の係数は  ${}_{3}C_{0} \cdot {}_{4}C_{0} \cdot {}_{5}C_{5}(-1)^5 = -1$ 

 $a^5b^6c$  の項が現れるのは

$$\begin{cases} 3-l+n=5\\ 4+l-m=6\\ 5+m-n=1 \end{cases} \qquad \therefore \quad \begin{cases} n=l+2\\ m=l-2 \end{cases}$$

(\*)に注意すると

$$(l, m, n) = (2, 0, 4),$$
  
 $(3, 1, 5)$ 

よって展開式の $a^5b^6c$ の係数は  ${}_3C_2 \cdot {}_4C_0 \cdot {}_5C_4(-1)^6 + {}_3C_3 \cdot {}_4C_1 \cdot {}_5C_5(-1)^9 = 15 - 4 = 11$ 

 $a^3b^4c^5$  の項が現れるのは

$$\begin{cases} 3-l+n=3\\ 4+l-m=4\\ 5+m-n=5 \end{cases} \qquad \therefore \quad \begin{cases} n=l\\ m=l \end{cases}$$

(\*)に注意すると

$$(l, m, n) = (0, 0, 0), (1, 1, 1), (2, 2, 2), (3, 3, 3) よって、 $a^3b^4c^5$ の係数は$$

よって、 $a^{\circ} \cdot c^{\circ}$  の無数は  ${}_{3}C_{0} \cdot {}_{4}C_{0} \cdot {}_{5}C_{0}(-1)^{0} + {}_{3}C_{1} \cdot {}_{4}C_{1} \cdot {}_{5}C_{1}(-1)^{3} + {}_{3}C_{2} \cdot {}_{4}C_{2} \cdot {}_{5}C_{2}(-1)^{6} + {}_{3}C_{3} \cdot {}_{4}C_{3} \cdot {}_{5}C_{3}(-1)^{9} = 1 - 60 + 180 - 40$ 

=81

2-2 (1) 多項定理より,

 $(x+2y+3z)^6$ を展開したときの一般項は

$$\frac{6!}{p!q!r!} \cdot x^{p} \cdot (2y)^{q} \cdot (3z)^{r}$$

$$= \frac{6!}{p!q!r!} \cdot 2^{q} \cdot 3^{r} \cdot x^{p} y^{q} z^{r}$$

ただし p+q+r=6,  $p \ge 0$ ,  $q \ge 0$ ,  $r \ge 0$   $x^4y^2$  の項が現れるのは, p=4, q=2, r=0 のときで, その係数は

$$\frac{6!}{4!2!0!} \cdot 2^2 \cdot 3^0 = 15 \cdot 2^2 = 60$$

 $x^3y^2z$  の項が現れるのは p=3, q=2, r=1 のときで、その係数は

$$\frac{6!}{3!2!1!} \cdot 2^2 \cdot 3^1 = 60 \cdot 2^2 \cdot 3 = 720$$

(2)  $(1+t+\cdots+t^5)(1+t+\cdots+t^5)$ × $(1+t+\cdots+t^5)$  を展開するとき,第1, 第2,第3因子の中から選ばれる項をそれぞれ  $t^a$ ,  $t^b$ ,  $t^c$  とすると,得られる単 項式は  $t^{a+b+c}$  である.ここで,

 $0 \le a$ . b.  $c \le 5$  c a.

a+b+c=4 となる (a, b, c) の組は  $\{0, 0, 4\}, \{0, 1, 3\}, \{0, 2, 2\}, \{1, 1, 2\}$ 

から作られる順列で

3+3!+3+3=15(通り)

ある. ゆえに,  $t^4$  の係数は 15 である. 同様に, a+b+c=7 となる (a, b, c) は

{0, 2, 5}, {0, 3, 4}, {1, 1, 5}, {1, 2, 4}, {1, 3, 3}, {2, 2, 3} から作られる順列で

3!+3!+3+3!+3+3=27 (通り) ある. ゆえに.  $t^7$  の係数は **27** である.

( 別解 ) 上の解答における  $t^4$  の係数は

a+b+c=4,  $0 \le a$ , b,  $c \le 5$  をみたす整数の組 (a, b, c) の個数である. これは 3 種類のものの中から重複を許して 4 個とる取り方の総数 (4 個の球と 2 本の仕切り棒の並べ方の総数) に一致するから

$$_{3}H_{4}=_{6}C_{4}=15$$

同様にして、 $t^7$ の係数は

a+b+c=7,  $0 \le a$ , b,  $c \le 5$  をみたす整数の組 (a, b, c) の個数である。条件  $0 \le a$ , b,  $c \le 5$  を無視すると $_3H_7=_9C_7=36$  (通り) あり、これらから  $\{7,0,0\}$ ,  $\{6,1,0\}$  か

あり、これらから {7, 0, 0}, {6, 1, 0}から作られる順列の総数を除けばよいから 36-(3+3!)=27

3-1 二項定理により

 $(100.1)^7 = (10^2 + 10^{-1})^7$ 

 $= (10^2)^7 + {}_{7}C_1(10^2)^6 \cdot 10^{-1} + {}_{7}C_2(10^2)^5 \cdot 10^{-2}$  $+ {}_{7}C_3(10^2)^4 \cdot 10^{-3} + {}_{7}C_4(10^2)^3 \cdot 10^{-4}$ 

 $+_7C_5(10^2)^2 \cdot 10^{-5} +_7C_6 \cdot 10^2 \cdot 10^{-6} + 10^{-7}$  $=10^{14}+7\cdot10^{11}+21\cdot10^{8}+35\cdot10^{5}$  $+35 \cdot 10^{2} + 21 \cdot 10^{-1} + 7 \cdot 10^{-4} + 10^{-7}$ 百の位と小数第4位の数字を求めるには、 波線部分を加えればよい.

$$35 \cdot 10^2 + 21 \cdot 10^{-1} + 7 \cdot 10^{-4}$$

- =3500+2.1+0.0007
- =3502.1007

よって、百の位の数字は5、小数第4位 の数字は7

(3-2) (1)  $(x_1+x_2+\cdots+x_r)^p$  は b 個 の $(x_1+x_2+\cdots+x_r)$ の積であり、展開 したときの各項はカ個の因数それぞれか ら $x_1$ ,  $x_2$ , …,  $x_r$ のうちの1個をとりそ の積をつくることにより得られる.

とくに  $x_1^{p_1}x_2^{p_2}\cdots x_r^{p_r}$  は、 $x_1$  を  $p_1$  個、 $x_2$ を $p_2$ 個、…、 $x_r$ を $p_r$ 個とった積である から、とり出した か 個の数の並べ方は同 じものを含む順列の数だけある.よって. 求める係数は

$$\frac{p!}{p_1!p_2!\cdots p_r!}$$

(2) 
$$(x_1 + x_2 + \dots + x_r)^p$$
  
 $-(x_1^p + x_2^p + \dots + x_r^p) \dots (*)$ 

を展開したときの単項式 $x_1^{p_1}x_2^{p_2}\cdots x_r^{p_r}$ は、(1)で展開した式から、 $x_1^p$ 、 $x_2^p$ 、… xxp を除いたものであるから

 $p_k$ である. また. 単項式の係数

$$\frac{p!}{p_1!p_2!\cdots p_r!}$$

は整数であり、かは素数であるから、① により  $p_k!(k=1, 2, \dots, r)$  は p と 互 いに素である. したがって. この係数は カの倍数であり、(\*) はカで割り切れる。

(3) (\*)において、 $x_k=1$  ( $k=1, 2, \dots,$ 

r) とすると(2)から

$$(\underbrace{1+1+\cdots+1}_{r \text{ fll}})^p - (\underbrace{1^p+1^p+\cdots+1^p}_{r \text{ fll}})$$

 $= r^p - r$ 

は かで割り切れる.

 $r^{p}-r=r(r^{p-1}-1)$  であり r は p で 割り切れないので、 $r^{p-1}-1$  はヵで割り 切れる.

**4-1** 二項定理を用いる.  ${}_{n}C_{0}+3{}_{n}C_{1}+3{}^{2}{}_{n}C_{2}+\cdots+3{}^{n}{}_{n}C_{n}$  $=_{n}C_{0} \cdot 3^{0} \cdot 1^{n} + _{n}C_{1} \cdot 3^{1} \cdot 1^{n-1} + _{n}C_{2} \cdot 3^{2} \cdot 1^{n-2}$  $+\cdots+{}_{n}C_{n}\cdot3^{n}\cdot1^{0}$  $=(3+1)^n$ 

 $=4^n$ 

5 
$$t=x-2$$
 とおくと  $(左辺)=(t+2)^3+1$   $=t^3+6t^2+12t+9$   $(右辺)=t^3+at^2+bt+c$  係数を比較すると  $a=6,\ b=12,\ c=9$  別解 すべての $x$  について成り立つので、左辺と右辺に  $x=2$  を代入して  $9=c$  .....①

9=c

$$(x+1)f(x+1)-(x-1)f(x-1)$$
 $=x^2+4bx+\frac{1}{3}+2c$ 
与式の右辺と比べて
 $4b=1, \ \frac{1}{3}+2c=1$ 
ゆえに、
 $b=\frac{1}{4}, \ c=\frac{1}{3}$ 
したがって、
 $f(x)=\frac{1}{6}x^2+\frac{1}{4}x+\frac{1}{3}$ 
このとき、
 $f(0)=\frac{1}{2}$ 

7-1 (1) 
$$x^3 + 2x^2 + x + 3$$
$$x^2 + 4x - 1)x^5 + 6x^4 + 8x^3 + 5x^2 + 13x + 1$$
$$\underline{x^5 + 4x^4 - x^3}$$
$$2x^4 + 9x^3 + 5x^2$$
$$\underline{2x^4 + 8x^3 - 2x^2}$$
$$x^3 + 7x^2 + 13x$$
$$\underline{x^3 + 4x^2 - x}$$
$$3x^2 + 14x + 1$$
$$\underline{3x^2 + 12x - 3}$$
$$2x + 4$$
したがって、余りは2x+4
(2)  $\alpha = \sqrt{9 - 4\sqrt{5}} = \sqrt{9 - 2\sqrt{20}}$ 

$$=\sqrt{5} - \sqrt{4} = \sqrt{5} - 2$$

$$\alpha + 2 = \sqrt{5} \quad \sharp \quad \emptyset$$

$$(\alpha + 2)^2 = 5$$

$$\therefore \quad \alpha^2 + 4\alpha - 1 = 0$$

$$(1) \xi \quad \emptyset$$

$$P(\alpha) = (\alpha^2 + 4\alpha - 1)(\alpha^3 + 2\alpha^2 + \alpha + 3)$$

$$+ 2\alpha + 4$$

$$= 2\alpha + 4 = 2(\sqrt{5} - 2) + 4 = 2\sqrt{5}$$

7-2 (1) 
$$P(x)$$
 を  $f(x)$  で割ったときの商を  $Q(x)$  とすると  $P(x)=Q(x)f(x)+cx+d$  であり  $xP(x)=xQ(x)f(x)+cx^2+dx$ 

$$= \{xQ(x)+c\}f(x) + (d-ca)x-bc$$

 $\therefore q = d - ca, r = -bc$ 

(2) (1)において  $P(x)=x^{2004}$  とおくと  $xP(x)=x^{2005}$ 

である。条件をみたすa, bが存在するならば

$$c=2,\ d=1,\ d-ca=1,\ -bc=2$$
  
となり、この式から  
 $a=0,\ b=-1$ 

このとき,

$$x^{2004}$$
= $(x^2-1)Q(x)+2x+1$   
となる. ところが, この両辺に  $x=1$  を  
代入すると

1 = 3

となり、矛盾する.

したがって、このようなa、bは存在しない。

8-1 商を 
$$Q(x)$$
 とおくと  $ax^3+bx^2+7x-2$   $=(x^2-3x+2)Q(x)+x-2$  よって  $ax^3+bx^2+6x=(x-1)(x-2)Q(x)$  この等式に  $x=1,\ 2$  を代入すると  $\begin{cases} a+b+6=0\\ 8a+4b+12=0\\ 2x^3+bx^2+6x \end{cases}$  また  $ax^3+bx^2+6x$   $ax^3+bx^2+6x$ 

$$ax^3 + bx^2 + 6x$$
  
=  $3x^3 - 9x^2 + 6x$   
=  $(x^2 - 3x + 2) \cdot 3x$   
したがって、商は  $3x$ 

8-2 
$$f(x)=(x-a)(x-2)^2$$
  $+(x-b)(x-1)^2+(x-c)x^2$  とおく、 $f(x)$  は $x$ についての $3$ 次式で、 $x^3$ の係数は $3$ である、 $f(x)$ を $(x-2)^2$  で割ると $2x-3$ が余りであるから  $f(x)=(3x+d)(x-2)^2+2x-3$  と表される。

$$f(1)=3+d+2-3=1$$
 より  $d=-1$  したがって、  $f(x)=(3x-1)(x-2)^2+2x-3$   $=3x^3-13x^2+18x-7$  一方  $f(x)=3x^3-(a+b+c+6)x^2+(4a+2b+5)x-4a-b$  なので、係数を比べて 
$$\begin{cases} a+b+c+6=13\\ 4a+2b+5=18\\ 4a+b=7 \end{cases}$$
 これらを解いて  $a=\frac{1}{4}$ ,  $b=6$ ,  $c=\frac{3}{4}$ 

- 9-1 (1)  $x^3 = x^3 1 + 1$ =  $(x-1)(x^2 + x + 1) + 1$
- より、求める余りは1
- 因数定理より、 $x^3$  に x=1 を代入し、求める余りを  $1^3=1$  としてよいが、(2)、(3)を考えて、ここで割り算を実行しておく、
  - (2) (1)のxを $x^4$  に置き換えると $x^{12} = (x^4 1)(x^8 + x^4 + 1) + 1$ よって、求める余りは1
  - (3)  $x^{13} = x \cdot x^{12}$ =  $(x^4 - 1)(x^9 + x^5 + x) + x$ よって、求める余りはx
- 9-2 (1) n=5m+r ( $m=0, 1, 2, \dots; r=1, 2, 3, 4, 5$ ) のとき

r=5 のとき

$$x^n = (x^5-1)(x の整式) + x^5$$
  
  $= (x^5-1)(x の整式) + (x^5-1) + 1$   
  $= (x^5-1)\{(x の整式) + 1\} + 1$   
よって、余りは 1  
 (2) (i)  $n=5k$  ( $k=1,2,3,\cdots$ ) のとき  
  $x^n = x^{5k} = (x^5-1)Q_1(x) + 1$   
とおける.  
  $x^{2n} = (x^n)^2$   
  $= (x^5-1)^2\{Q_1(x)\}^2$   
  $+2(x^5-1)Q_2(x) + 1$   
と  $x$  の整式  $Q_2(x)$  を用いて表せる. 同様に  $x$  の整式  $Q_2(x)$  を用いて  
  $x^{3n} = (x^n)^3$   
  $= (x^5-1)Q_3(x) + 1$   
  $x^4 = (x^n)^4$   
  $= (x^5-1)Q_4(x) + 1$   
と表せる. このとき  
  $x^4 + x^{3n} + x^{2n} + x^n$   
  $= (x^5-1)\{Q_1(x) + Q_2(x) + Q_3(x) + Q_4(x)\} + 4$   
こで、 $x^5-1$   
  $= (x-1)(x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$   
であるから、求める余りは4  
 (ii)  $n=5k+1$  ( $k=0,1,2,\cdots$ ) のとき  
 (i)と同様に考えて、 $x$  の整式  $R_1(x)$ ,  
  $R_2(x)$ ,  $R_3(x)$ ,  $R_4(x)$  を用いて  
  $x^n = (x^5-1)R_1(x) + x$   
  $x^{2n} = (x^5-1)R_2(x) + x^2$   
  $x^{3n} = (x^5-1)R_3(x) + x^3$   
  $x^4 = (x^5-1)R_4(x) + x^4$   
と表せる. このとき  
  $x^4 + x^3 + x^2 + x^4$   
 $= (x^5-1)\{R_4(x) + R_3(x) + R_2(x) + R_1(x)\} + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$   
×  $\{R_1(x) + R_2(x) + R_3(x) + R_4(x)\} + (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$   
 $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) - 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) - 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$   
  $= (x^6 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) + 1$   
  $= (x^4 + x^3 + x^$ 

$$x^8+x^6+x^4+x^2$$
  $=(x^5-1+1)x^3+(x^5-1+1)x+x^4+x^2$   $=(x^5-1)(x^3+x)+x^4+x^3+x^2+x+1-1$   $=(x^4+x^3+x^2+x+1)(x$  の整式)  $-1$  ゆえに、余りは  $-1$  (iv)  $n=5k+3$  ( $k=0,1,2,\cdots$ ) のとき (ii)の~~の部分は  $x^{12}+x^9+x^6+x^3$   $=(x^5-1+1)^2x^2+(x^5-1+1)x^4+(x^5-1+1)x+x^3$   $=(x^5-1)(x$  の整式)  $+x^4+x^3+x^2+x+1-1$   $=(x^4+x^3+x^2+x+1)(x$  の整式)  $-1$  ゆえに、余りは  $-1$  (v)  $n=5k+4$  ( $k=0,1,2,\cdots$ ) のとき 同様に、余りは  $-1$  以上より、求める余りは  $n=5k$  ( $k=1,2,3,\cdots$ ) のとき 4  $n=5k+r$  ( $k=0,1,2,\cdots$ ) のとき  $-1$ 

$$= \frac{-a(b-c) - b(c-a) - c(a-b)}{(a-b)(b-c)(c-a)}$$

$$= \frac{-ab + ca - bc + ab - ca + bc}{(a-b)(b-c)(c-a)}$$

$$= 0$$
(2) \(\frac{1}{3}\)\tag{3}\)
$$= \frac{-a^2(b-c) - b^2(c-a) - c^2(a-b)}{(a-b)(b-c)(c-a)}$$

$$= \frac{-a^2(b-c) + a(b^2-c^2) - bc(b-c)}{(a-b)(b-c)(c-a)}$$

$$= \frac{-(a^2-a(b+c) + bc)}{(a-b)(c-a)}$$

$$= \frac{-(a-b)(a-c)}{(a-b)(c-a)} = 1$$

11-1 与えられた等式は
$$\frac{a(x-2)-(2x+1)}{(2x+1)(x-2)} = \frac{d}{2x^2+bx+c}$$

$$\therefore \frac{(a-2)x-2a-1}{(2x+1)(x-2)} = \frac{d}{2x^2+bx+c}$$
さらに変形し

$$\{(a-2)x-2a-1\}(2x^2+bx+c) = d(2x+1)(x-2) \cdots$$

①の左辺の $x^3$ の係数は2(a-2)であり、右辺の $x^3$ の項はないから、

$$2(a-2)=0$$
  $\therefore$   $a=2$ 

このとき,

$$-5(2x^2+bx+c)=d(2x^2-3x-2)$$

係数を比べて

$$\begin{cases} -10 = 2d \\ -5b = -3d \\ -5c = -2d \end{cases}$$

これらを解いて

$$a=2$$
,  $b=-3$ ,  $c=-2$ ,  $d=-5$ 

#### (11-2) (右辺)

$$=\frac{A(x-2)(x-3)-(x-1)(x-3)+\frac{1}{2}(x-1)(x-2)}{(x-1)(x-2)(x-3)}$$

$$= \frac{A(x-2)(x-3)-(x-1)(x-3)+\frac{1}{2}(x-1)(x-2)}{x^3-6x^2+11x-6}$$

左辺の分母と右辺の分母が等しいから、 (左辺の分子)=(右辺の分子)である。 1=A(x-2)(x-3)-(x-1)(x-3)

$$+\frac{1}{2}(x-1)(x-2)$$
 ..... 1

①はxにどんな値を代入しても成り立つからx=1を代入すると

$$1=2A$$
  $\therefore$   $A=\frac{1}{2}$ 

このとき、確かに等式は成り立つ.

①は  $x \neq 1$ , 2, 3 を前提として導かれた等式であるが, x = 1, 2, 3 以外の3個の値に対して成立するから, ①はxについての恒等式であり, x = 1, 2, 3 を代入してもよい. ここではx = 1 を代入した.

#### **(12-1)**

$$\frac{x}{3(y+z)} = \frac{y}{3(z+x)} = \frac{z}{3(x+y)} = k$$
  
とおく、このとき  
$$x = 3(y+z)k$$

$$y=3(z+x)k$$

$$z=3(x+y)k$$

となる。これらを加えると

$$x+y+z=6(x+y+z)k$$

$$\therefore (6k-1)(x+y+z)=0$$

$$\therefore k = \frac{1}{6} \sharp t \sharp x + y + z = 0$$

(i) 
$$k = \frac{1}{6} \ \text{EtaSOII}, \begin{cases} 2x = y + z \\ 2y = z + x \\ 2z = x + y \end{cases}$$

より  $x=y=z(\pm 0)$  のときである.

(ii) x+y+z=0 のとき, y+z=-x であるから

$$\frac{x}{3(y+z)} = \frac{x}{3 \cdot (-x)} = -\frac{1}{3}$$

同じく

$$\frac{y}{3(z+x)} = \frac{y}{3\cdot(-y)} = -\frac{1}{3}$$

$$\frac{z}{3(x+y)} = \frac{z}{3\cdot(-z)} = -\frac{1}{3}$$

以上より, 
$$k=\frac{1}{6}$$
,  $-\frac{1}{3}$ 

### (12-2) $\frac{b+c}{a} = \frac{c+a}{b} = \frac{a+b}{c} = k$

とおく. このとき

$$b+c=ak$$

$$c+a=bk$$

$$a+b=ck$$

$$2(a+b+c)=(a+b+c)k$$
$$a+b+c = 0 \quad \text{if} \quad k=2$$

ゆえに.

$$b+c=2a$$
,  $c+a=2b$ ,  $a+b=2c$ 

$$\therefore a=b=c$$

$$a=b=c=l(\pm 0)$$
 とおくと

したがって.

$$\frac{(a+b+c)(ab+bc+ca)-abc}{abc}$$

$$=\frac{3l\cdot 3l^2-l^3}{l^3}=8$$

#### (13-1) $x=a^2+9$ のとき

$$\sqrt{x+6a} = \sqrt{a^2+6a+9}$$
 $=\sqrt{(a+3)^2} = |a+3|$ 
 $\sqrt{x-8a+7} = \sqrt{a^2-8a+16}$ 
 $=\sqrt{(a-4)^2} = |a-4|$ 
ゆえに、
与式= $|a+3|-|a-4|$ 
したがって、 $a \le -3$  のとき
与式= $a+3-\{-(a-4)\}=2a-1$ 
 $a \ge 4$  のとき
与式= $a+3-\{a-4\}=7$ 
(13-2)  $x \le 1$  のとき、与えられた不等式は
 $-(x-1)-2(x-3) \le 11$ 
 $\therefore -3x \le 4$ 
 $\therefore x \ge -\frac{4}{3}$ 
 $x \le 1$  とあわせると
 $-\frac{4}{3} \le x \le 1$  ……①
 $1 \le x \le 3$  のとき、与えられた不等式は  $x-1-2(x-3) \le 11$ 
 $\therefore -x \le 6$ 
 $\therefore x \ge -6$ 
 $1 \le x \le 3$  をみたす  $x$  はすべて不等式を みたす。
 $\therefore 1 \le x \le 3$  をみたす  $x$  はすべて不等式を みたす。
 $\therefore 1 \le x \le 3$  をみたす  $x \ge 11$ 
 $\therefore 3x \le 18$ 
 $\therefore x \le 6$ 
 $3 \le x$  とあわせると
 $3 \le x \le 6$ 
 $3 \le x \le 6$ 

①3-3 ② 
$$\iff$$
  $a-2 < x < a+2$  である. よって, ①をみたすどのような $x$ についても

 $\frac{b}{1+b} \ge \frac{b}{1+a+b}$ 

辺々加えると

$$\frac{a}{1+a} + \frac{b}{1+b} \ge \frac{a+b}{1+a+b}$$

(2)  $a+b \ge c$  を仮定して、(1)から

$$\frac{a+b}{1+a+b} \ge \frac{c}{1+c}$$
 を証明すればよい.

$$\frac{a+b}{1+a+b} - \frac{c}{1+c}$$

$$= \frac{a+b+ac+bc-c-ac-bc}{(1+a+b)(1+c)}$$

$$= \frac{a+b-c}{(1+a+b)(1+c)} \ge 0$$

$$(\because a+b \ge c)$$

ゆえに.

$$\frac{a+b}{1+a+b} \ge \frac{c}{1+c}$$

したがって.

$$\frac{a}{1+a} + \frac{b}{1+b} \ge \frac{c}{1+c}$$

$$(15-1) \left(x + \frac{4}{x}\right) \left(x + \frac{9}{x}\right)$$

$$= x^2 + \frac{36}{x^2} + 13$$

 $x^2 > 0$ ,  $\frac{36}{x^2} > 0$  より, 相加平均・相乗平均の大小関係から

$$x^{2} + \frac{36}{x^{2}} + 13 \ge 2\sqrt{x^{2} \cdot \frac{36}{x^{2}}} + 13$$

$$= 12 + 13 = 25$$

等号成立は

$$x^2 = \frac{36}{x^2}$$

から、 $x=\sqrt{6}$  (∵ x>0) のときである. よって、 $x=\sqrt{6}$  のとき最小値 25 をとる.

**(15-2)** 

右の計算から 
$$x^2+2$$
 商: $x^2+2$ ,  $x^2+1$ ) $x^4+3x^2+6$  余り:4  $x^4+x^2$  である.  $x^4+3x^2+6$   $2x^2+6$   $x^2+1$  4

$$=x^2+2+\frac{4}{x^2+1}=1+(x^2+1)+\frac{4}{x^2+1}$$
  
ここで $x$ が実数全体を動くとき

$$x^2+1>0$$
,  $\frac{4}{x^2+1}>0$ 

よって.

$$1 + (x^{2} + 1) + \frac{4}{x^{2} + 1}$$

$$\geq 1 + 2\sqrt{(x^{2} + 1) \cdot \frac{4}{x^{2} + 1}}$$

=1+4=5

等号成立は,

$$x^2+1=\frac{4}{x^2+1}$$

 $\therefore x^2+1=2 \ (\because x^2+1>0)$ すなわち、 $x=\pm 1$  のときである。 以上より、 $x=\pm 1$  のとき**最小値5**をとる。

16 (1) a>0, b>0 が  $abh=k^3$  (h, k は定数) をみたしながら動くときの  $a^2+b^2+h^2$  の最小値を求める.  $a^2>0$ ,  $b^2>0$  より,

 $a^2+b^2 \ge 2\sqrt{a^2b^2} = 2ab$  (∵ ab>0) ここで  $ab = \frac{k^3}{b}$  であるから,

$$a^2 + b^2 + h^2 \ge \frac{2k^3}{h} + h^2$$

であり、等号は、 $a^2=b^2$  すなわち、a=b のとき成立する. 以上より

a=b のとき、最小値  $\frac{2k^3}{h}+h^2$  をとる.

(2) a>0, b>0, h>0 が  $abh=k^3$  (k は定数) をみたしながら動くときの  $a^2+b^2+h^2$  の最小値を求める.

$$a^{2}+b^{2}+h^{2} \ge 3 \cdot \sqrt[3]{a^{2}b^{2}h^{2}}$$

$$= 3 \cdot \sqrt[3]{(abh)^{2}}$$

$$= 3 \cdot \{(k^{3})^{2}\}^{\frac{1}{3}}$$

$$= 3k^{2}$$

等号成立は  $a^2=b^2=h^2$  すなわち, a=b=h のときである.

以上より  $\alpha=b=h$  のとき, 対角線の長 さは最小となり, このとき直方体は立方体である.

17-1 コーシー・シュワルツの不等式 
$$(A^2+B^2+C^2)(X^2+Y^2+Z^2)$$
  $\geq (AX+BY+CZ)^2$  において, 
$$A = \sqrt{a} , B = \sqrt{b} , C = \sqrt{c} ,$$
  $X = \frac{p}{\sqrt{a}} , Y = \frac{q}{\sqrt{b}} , Z = \frac{r}{\sqrt{c}}$  とおくと, 
$$(a+b+c)(\frac{p^2}{q} + \frac{q^2}{b} + \frac{r^2}{c}) \geq (p+q+r)^2$$

等号の成立条件を確認しておこう.  $\sqrt{a}:\sqrt{b}:\sqrt{c}$   $=\frac{b}{\sqrt{a}}:\frac{q}{\sqrt{b}}:\frac{r}{\sqrt{c}}$ 

$$\iff \begin{cases} \sqrt{a} : \sqrt{b} = \frac{b}{\sqrt{a}} : \frac{q}{\sqrt{b}} \\ \sqrt{b} : \sqrt{c} = \frac{q}{\sqrt{b}} : \frac{r}{\sqrt{c}} \end{cases}$$

$$\Longleftrightarrow \begin{cases} \sqrt{\frac{b}{a}} p = \sqrt{\frac{a}{b}} q \\ \sqrt{\frac{c}{b}} q = \sqrt{\frac{b}{c}} r \end{cases} \Longleftrightarrow \begin{cases} aq = bp \\ br = cq \end{cases}$$

$$\iff \begin{cases} a:b=p:q\\ b:c=q:r \end{cases}$$

$$\iff a:b:c=p:a:r$$

が成立する.

17-2  $\sqrt{x} + \sqrt{y} = \frac{1}{\sqrt{2}}(\sqrt{2x}) + \sqrt{y}$ 

である.

よって、コーシー・シュワルツの不等式 から

$$\begin{split} (\sqrt{x} + \sqrt{y})^2 &= \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\sqrt{2x} + \sqrt{y}\right)^2 \\ &\leq \left(\frac{1}{2} + 1\right)(2x + y) \\ &= \frac{3}{2}(2x + y) \quad \cdots \cdot (*) \end{split}$$

等号は、 $\sqrt{2x}:\sqrt{y}=\frac{1}{\sqrt{2}}:1$  すなわち、y=4x のとき成立する. ここで、 $\sqrt{x}+\sqrt{y}>0$ 、2x+y>0、(\*) より

$$\sqrt{x} + \sqrt{y} \le \frac{\sqrt{6}}{2} \sqrt{2x + y}$$

$$\therefore \quad \frac{\sqrt{x} + \sqrt{y}}{\sqrt{2x + y}} \le \frac{\sqrt{6}}{2}$$

等号は y=4x のとき成立する. したがって、すべての正の実数 x、y に対し  $\frac{\sqrt{x}+\sqrt{y}}{\sqrt{2x+y}} \le k$  が成り立つような 実数 k は

$$\frac{\sqrt{6}}{2} \le k$$

であり、kの最小値は $\frac{\sqrt{6}}{2}$ となる.

18 
$$\frac{a^3}{x^2} + \frac{b^3}{y^2} = x \cdot \frac{a^3}{x^3} + y \cdot \frac{b^3}{y^3}$$
$$= x \left(\frac{a}{x}\right)^3 + y \left(\frac{b}{y}\right)^3$$

と変形できる. また, 関数  $f(t)=t^3$  の グラフは t>0 において下に凸である. よって,

$$(*) \ge \left(x \cdot \frac{a}{x} + y \cdot \frac{b}{y}\right)^3$$
$$= (a+b)^3$$

となり成立する.

#### 第2章

19-1 
$$(\sqrt{3}-i)^2=3-2\sqrt{3}i-1$$
  
=2-2 $\sqrt{3}i$   
より、与式は  
 $2-2\sqrt{3}i+a(\sqrt{3}+i)-b=0$   
よって、  
 $(2+a\sqrt{3}-b)+(a-2\sqrt{3})i=0$   
と変形できる。  
ここで  $a$ ,  $b$  は実数であるから、  
 $2+a\sqrt{3}-b=0$  かつ  $a-2\sqrt{3}=0$   
よって、 $a=2\sqrt{3}$ 、 $b=8$ 

$$\begin{array}{l} \boxed{19-2} \quad (1) \\ = \frac{1+3i}{(1-3i)(1+3i)} - \frac{(1-i)(3-i)}{(3+i)(3-i)} \\ = \frac{1+3i}{10} - \frac{2-4i}{10} \\ = -\frac{1}{10} + \frac{7}{10}i \\ (2) \quad (\sqrt{3}+2i)^3 = (\sqrt{3})^3 + 3(\sqrt{3})^2 \cdot 2i \\ \quad + 3 \cdot \sqrt{3} \cdot (2i)^2 + (2i)^3 \\ = 3\sqrt{3} + 18i - 12\sqrt{3} - 8i \\ = -9\sqrt{3} + 10i \end{array}$$

$$\begin{array}{l}
(20-1) \\
z + \overline{z} = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} + \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} \\
= \frac{-2}{2} = -1 \\
z\overline{z} = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} \cdot \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} \\
= \left(-\frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 1 \\
\frac{1}{z} + \frac{1}{z} = \frac{\overline{z} + z}{z\overline{z}} = \frac{-1}{1} = -1
\end{array}$$

$$(20-2)$$
  $\alpha = x+yi$   $(x, y)$  は実数かつ  $y \neq 0$ ) とする.  $\overline{\alpha} = x-yi$   $\alpha^2 = x^2-y^2+2xyi$  であるから、 $\overline{\alpha} = \alpha^2$  より

 $=2\times 2^{6}+2\cdot 2^{6}\times (w^{2})^{6}$ 

$$=4\cdot 2^6=256$$

(22-1) 重解をもつ条件は. m ≠ 0 かつ (判別式)=0 である、判別式をDとすると

$$\frac{D}{4} = 1 - m(2m - 3)$$

であるから

$$2m^2-3m-1=0$$

$$\therefore m = \frac{3 \pm \sqrt{17}}{4}$$

これは  $m \neq 0$  をみたす. 以上より,

$$m = \frac{3 \pm \sqrt{17}}{4}$$

(22-2) 与えられた 2 次方程式が虚数解 をもつための k の条件は、(判別式)<0 である. 判別式をDとすると

$$\frac{D}{4} = (k-1)^2 - (4k+1)$$

であるから

$$k^2 - 6k < 0$$

よって.

#### 0 < k < 6

**22-3** 与えられた 2 次方程式が異なる 2つの実数解をもつための kの条件は、  $k+7 \neq 0$  かつ (判別式)>0 である. 判別式をDとすると

$$\frac{D}{4} = (k+4)^2 - (k+7) \cdot 2k$$

であるから

$$-k^2-6k+16>0$$

$$(k-2)(k+8)<0$$

$$\therefore$$
  $-8 < k < 2$ 

ここでkは k=-7 である整数より  $-6 \le k \le 1$ 

よって、kの最小値は-6.

#### 最大値は1

(23-1) 解と係数の関係より

$$\alpha + \beta = 2 \Rightarrow \alpha \beta = \frac{3}{2}$$

である。これより、
$$\alpha^2+\beta^2=(\alpha+\beta)^2-2\alpha\beta$$
 
$$=2^2-2\cdot\frac{3}{2}=1$$
 
$$(\alpha-1)(\beta-1)=\alpha\beta-(\alpha+\beta)+1$$
 
$$=\frac{3}{2}-2+1=\frac{1}{2}$$

(23-2) 2つの解は $\alpha$ ,  $2\alpha$  とおける. 解と係数の関係より  $\alpha+2\alpha=6$  かつ  $\alpha\cdot 2\alpha=c$  $\exists n \downarrow b, \alpha = 2, c = 8$ 

- (23-3)  $x^2+ax+b=0$  .....(1).  $x^2 + bx + a = 0$  ……② とおく.
- ①において、解と係数の関係より

$$\begin{cases} \alpha + \beta = -a \\ \alpha \beta = b \end{cases} \dots 3$$

②において、解と係数の関係より  $(\alpha+1)+(\beta+1)=-b \qquad \dots \qquad (4)$  $(\alpha+1)(\beta+1)=a$ 

④に③を代入し、α、βを消去すると、  $\begin{cases}
-a+2=-b \\
b-a+1=a
\end{cases}$   $\therefore \begin{cases}
-a+b=-2 \\
-2a+b=-1
\end{cases}$ 

$$\therefore \begin{cases} -a+b=-2\\ -2a+b=-1 \end{cases}$$

よって. a=-1. b=-3これを①に代入して.

$$x^2 - x - 3 = 0$$

よって、正の解は  $x = \frac{1+\sqrt{13}}{2}$ 

**24-1** 与えられた方程式において. 判 別式を D. 2 解を  $\alpha$ .  $\beta$  とすると.  $\alpha > 0$ かつ  $\beta > 0$  である条件は.

$$\begin{cases} \frac{D}{4} \ge 0 \\ \alpha + \beta > 0 \\ \alpha \beta > 0 \end{cases}$$

$$\vdots \begin{cases} (a-1)^2 - (a^2 - 9) \ge 0 & \cdots (i) \\ 2(a-1) > 0 & \cdots (ii) \\ a^2 - 9 > 0 & \cdots (iii) \end{cases}$$

である.

(i)  $a \le 5$ 

(ii) l t a > 1

(iii)は a < -3 または 3 < a であるから、a の値の範囲は

#### $3 < \alpha \le 5$

また、1つの解が正、他の解が負である 条件は.

$$\alpha\beta$$
<0 ∴  $a^2-9$ <0  
したがって、 $-3$ < $a$ <3

24-2  $ax^2+bx+c=0$  ·····①,  $bx^2+cx+a=0$  ·····② とおく.

①が2つの正の解をもつためのa, b, cの条件は、

$$\begin{cases} a \neq 0 \\ (判別式) \geq 0 \\ (2 解の和) > 0 \\ (2 解の積) > 0 \end{cases}$$

$$\begin{cases} a \neq 0 \\ b^2 - 4ac \geq 0 \end{cases}$$

$$\vdots$$

$$\begin{cases} -\frac{b}{a} > 0 \end{cases} \cdots (*)$$

である. また、②が正と負の解をもつための、a, b, c の条件は

$$\begin{cases} b \neq 0 \\ (2 解の積) < 0 \end{cases}$$

$$\cdot \begin{cases} b \neq 0 \\ \frac{a}{b} < 0 \end{cases}$$
 ……(\*\*)

よって、「(\*)ならば (\*\*)」が成り立つことを示せばよい.

(\*)を仮定する.

$$-\frac{b}{a} > 0 \quad \sharp \quad b = 0$$

さらに、 $\frac{b}{a}$ <0 であるから  $\frac{a}{b}$ <0

よって、(\*\*)が成り立つ。

# 25-1 $(m-3)x^2+(5-m)x + 2(2m-7)=0$ .....(\*)

(\*)は2次方程式であるから  $m-3 \neq 0$ 

$$f(x) = x^2 - \frac{m-5}{m-3}x + \frac{2(2m-7)}{m-3}$$

とおくと

$$(*) \iff f(x) = 0$$

(\*)の解の一方が2より大きく他方が2より小さくなるための条件は, f(2)<0 である.

$$f(2) = 4 - \frac{m-5}{m-3} \cdot 2 \qquad y = f(x)$$

$$+ \frac{2(2m-7)}{m-3}$$

$$= \frac{6m-16}{m-3}$$

より

$$\frac{2(3m-8)}{m-3} < 0$$

 $\therefore 2(3m-8)(m-3) < 0$ 

$$\therefore \frac{8}{3} < m < 3$$

(\*)の異なる2つの実 数解がともに2より 大きくなるための条

y=f(x)

件は, f(x)=0 の判別式をDとすると

軸の位置: $\frac{m-5}{2(m-3)} > 2$  ……② 端点の y 座標の符号:f(2) > 0 ……③

$$(1) : \left(\frac{m-5}{m-3}\right)^2 - 4 \cdot \frac{2(2m-7)}{m-3} > 0$$

$$\therefore \frac{-15m^2 + 94m - 143}{(m-3)^2} > 0$$

$$\therefore \frac{-(3m-11)(5m-13)}{(m-3)^2} > 0$$

$$\therefore \quad \frac{13}{5} < m < \frac{11}{3} \quad (m \neq 3) \qquad \cdots \cdots \text{ } 1)'$$

$$2: \frac{m-5}{2(m-3)} - 2 > 0$$

$$\therefore \frac{-(3m-7)}{2(m-3)} > 0$$

$$\therefore (3m-7)(m-3) < 0$$

$$\therefore \quad \frac{7}{3} < m < 3 \qquad \qquad \cdots \cdots 2$$

$$3: \frac{6m-16}{m-3} > 0$$

$$\therefore 2(3m-8)(m-3)>0$$

$$\therefore m < \frac{8}{3}$$
 ‡ t t  $3 < m$  .....3'

①', ②', ③' より 
$$\frac{13}{5} < m < \frac{8}{3}$$

$$= (-4|k-1|)^2 - 8(8k^2 - 4k + 1)$$
  
= 16(k-1)^2 - 8(8k^2 - 4k + 1)

$$=-48k^2+8$$

より、実数解をもつための k の条件は

$$-48k^2 + 8 \ge 0 \qquad \therefore \quad k^2 - \frac{1}{6} \le 0$$

$$\text{$\sharp \circ \tau$, } -\frac{\sqrt{6}}{6} \leq k \leq \frac{\sqrt{6}}{6}$$

(2) f(x)

 $=8x^2-8|k-1|x+8k^2-4k+1$  とおく. f(x)=0 が異なる2つの実数解をもつ とき、2つの解が0と1の間にあるため の k の条件は、y = f(x) のグラフの端 点のy座標の符号と軸の位置に着目し

$$\begin{cases} f(0) > 0 \\ f(1) > 0 \\ 0 < \frac{|k-1|}{2} < 1 \end{cases}$$

$$\begin{cases} 8k^2 - 4k + 1 > 0 & \cdots \\ 0 & \cdots \end{cases}$$

$$\begin{array}{l}
\vdots \\
8k^2 - 4k + 1 > 0 \\
8k^2 - 4k - 8|k - 1| + 9 > 0 \cdots 2 \\
0 < |k - 1| < 2 \cdots 3
\end{array}$$

であるから、
$$-\frac{\sqrt{6}}{6}$$
< $k$ < $\frac{\sqrt{6}}{6}$  のとき

①. ②. ③が成り立つことを示せばよい.

$$f(0) = 8\left(k - \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{1}{2} > 0$$

より①はつねに成り立つ.

また、
$$-\frac{\sqrt{6}}{6}$$
< $k$ < $\frac{\sqrt{6}}{6}$  において、

|k-1|=1-k であるから,

$$f(1)=8k^2+4k+1$$

$$= 8\left(k + \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{1}{2} > 0$$

より②が成り立つ.

$$0 < |k-1| = 1 - k < 2$$

より③も成り立つ. 以上より証明された.

(26-1) 解と係数の関係から

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma = -3 \\ \alpha \beta + \beta \gamma + \gamma \alpha = -4 \\ \alpha \beta \gamma = -2 \end{cases}$$

$$\begin{array}{ll} (1) & \frac{1}{\alpha} + \frac{1}{\beta} + \frac{1}{\gamma} \\ & = \frac{\beta \gamma + \gamma \alpha + \alpha \beta}{\alpha \beta \gamma} = \frac{-4}{-2} = 2 \end{array}$$

(2) 
$$\frac{1}{\alpha^{2}} + \frac{1}{\beta^{2}} + \frac{1}{\gamma^{2}}$$

$$= \frac{\beta^{2} \gamma^{2} + \gamma^{2} \alpha^{2} + \alpha^{2} \beta^{2}}{\alpha^{2} \beta^{2} \gamma^{2}}$$

$$= \frac{(\alpha \beta + \beta \gamma + \gamma \alpha)^{2} - 2\alpha \beta \gamma (\alpha + \beta + \gamma)}{(\alpha \beta \gamma)^{2}}$$

$$= \frac{(-4)^{2} - 2(-2)(-3)}{(-2)^{2}} = 1$$

(26-2) (1) a, b, c は f(x)=0 の解 であるから.

$$x^{3}-Ax^{2}+Bx-1$$
= $(x-a)(x-b)(x-c)$ 
= $x^{3}-(a+b+c)x^{2}$ 
+ $(ab+bc+ca)x-abc$ 

これはxについての恒等式であるから、 係数を比較すると

$$\begin{cases}
-A = -(a+b+c) \\
B = ab+bc+ca \\
-1 = -abc
\end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases}
a+b+c=A \\
ab+bc+ca=B
\end{cases}$$

 $\sharp t$ , abc=1

(2) 方程式 g(x)=0 についての解と 係数の関係と、(1)の結果から、

$$P = -\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}\right)$$

$$= -\frac{bc + ca + ab}{abc} = -B$$

$$Q = \frac{1}{a} \cdot \frac{1}{b} + \frac{1}{b} \cdot \frac{1}{c} + \frac{1}{c} \cdot \frac{1}{a}$$

$$=\frac{c+a+b}{abc}=A$$

$$R = -\frac{1}{a} \cdot \frac{1}{b} \cdot \frac{1}{c} = -\frac{1}{abc} = -1$$
(3)  $f(x) = g(x)$  より,
 $x^3 - Ax^2 + Bx - 1$ 
 $= x^3 + Px^2 + Qx + R$ 
(2)の結果から
 $x^3 - Ax^2 + Bx - 1$ 
 $= x^3 - Bx^2 + Ax - 1$ 
 $\therefore A = B$ 
したがって,
 $f(x) = x^3 - Ax^2 + Ax - 1$ 
 $= (x-1)\{x^2 - (A-1)x + 1\}$  …(\*)
これより、方程式  $f(x) = 0$  は  $x = 1$  を
解としてもつ.

(4) (\*)より、方程式 f(x)=0 の 3 つの解が実数であるための必要十分条件は、 $x^2-(A-1)x+1=0$ が 2 つの実数解をもつことである。 すなわち  $(A-1)^2-4 \ge 0$ 

$$\therefore A \leq -1, 3 \leq A$$

ab=2,  $a^3+b^3=6$ 

 $t^2 - 6t + 8 = 0$ 

tab = (t-2)(t-4) = 0

となる a, b を求めればよい.

 $a^3b^3=8$  であるから  $a^3$ ,  $b^3$  は 2 次方程式

(27-1) (1) 
$$\omega^3-1=0$$
 であるから  $(\omega-1)(\omega^2+\omega+1)=0$   $\omega-1\neq 0$  より、 $\omega^2+\omega+1=0$  よって、 $\omega^2+\omega=-1$  (2)  $(x+a\omega+b\omega^2)(x+a\omega^2+b\omega)$   $=x^2+\{(\omega+\omega^2)a+(\omega+\omega^2)b\}x$   $+\omega^2(a+b\omega)(a\omega+b)$   $=x^2-ax-bx+a^2+b^2-ab$  よって、(与式の右辺)  $=(x+a+b)(x^2+a^2+b^2-ax-bx-ab)$   $=x^3-3abx+a^3+b^3$   $=($ 与式の左辺) となり、等式が成立する。(3) (2)より、

の解である。よって、
$$(a, b) = (\sqrt[3]{4}, \sqrt[3]{2}), (\sqrt[3]{2}, \sqrt[3]{4})$$
 したがって、
$$x^3 - 6x + 6 = (x + \sqrt[3]{4} + \sqrt[3]{2})(x + \sqrt[3]{4}\omega + \sqrt[3]{2}\omega^2)$$
 
$$(x + \sqrt[3]{4}\omega^2 + \sqrt[3]{2}\omega)$$
 であるから、求める方程式の解は、
$$x = -\sqrt[3]{4} - \sqrt[3]{2}, -\sqrt[3]{4}\omega - \sqrt[3]{2}\omega^2,$$
 
$$-\sqrt[3]{4}\omega^2 - \sqrt[3]{2}\omega$$

(27-2) (1) 
$$u = \sqrt[3]{\sqrt{\frac{28}{27}} + 1}$$
,  $v = -\sqrt[3]{\sqrt{\frac{28}{27}} - 1}$  とおく.  $u + v = \alpha$ 

$$u+v=\alpha$$

$$u^{3}+v^{3}=\left(\sqrt{\frac{28}{27}}+1\right)-\left(\sqrt{\frac{28}{27}}-1\right)=2$$

$$uv=\left(\sqrt[3]{\sqrt{\frac{28}{27}}+1}\right)\cdot\left(-\sqrt[3]{\sqrt{\frac{28}{27}}-1}\right)$$

$$=-\sqrt[3]{\frac{28}{27}-1}=-\frac{1}{3}$$

$$(x+x)^{3}=x^{3}+x^{3}+2xy(x+x)$$

 $(u+v)^3 = u^3 + v^3 + 3uv(u+v)$  であるから、α は、

$$\alpha^3 = 2 + 3\left(-\frac{1}{3}\right)\alpha$$

をみたす.

したがって、 $\alpha$ は、整数を係数とする 3次方程式

$$x^3 + x - 2 = 0$$

の解である。

(2) 
$$x^3+x-2=0$$
 を解くと  $(x-1)(x^2+x+2)=0$   $\therefore$   $x=1$ ,  $\frac{-1\pm\sqrt{7}i}{2}$ 

であり、 $\alpha$  は実数なので、 $\alpha=1$  となる. すなわち、 $\alpha$  は整数1である.

$$\begin{array}{l} \textbf{28-1} \quad (x+2)(x+3)(x-4)(x-5) - 44 \\ = (x+2)(x-4) \times (x+3)(x-5) - 44 \\ = (x^2 - 2x - 8)(x^2 - 2x - 15) - 44 \\ = (x^2 - 2x)^2 - 23(x^2 - 2x) + 120 - 44 \\ = (x^2 - 2x)^2 - 23(x^2 - 2x) + 76 \end{array}$$

(28-2) (1) 
$$X = x + \frac{1}{x}$$
  
 $\iff x^2 - Xx + 1 = 0$ 

$$f(x) = x^2 - Xx + 1$$

とおくと、Xは f(x)=0 をみたすxに 対応して決まるから、Xの値がとり得る 範囲を求めるには f(x)=0 をみたす実 数xが存在するためのXの条件を求めれ ばよい。

f(0)=1 であるから、f(x)=0 の判別式をDとおくと、この条件は

x<0 のとき

 $X \leq -2$ 

*x*>0 のとき

$$\left\{ \begin{aligned} & \| \mathbf{y} \| \mathbf{x} \| \mathbf{X}^2 - \mathbf{4} & \ge 0 \\ & y = f(x) \ \mathcal{O} \mathbf{y} & \exists \mathbf{y} \mathbf{y} \mathbf{0} \mathbf{y} \mathbf{0} \mathbf{y} \mathbf{0} \end{aligned} \right.$$

∴ *X* ≥ 2

(2) 
$$x^4 + ax^3 - x^2 + ax + 1 = 0$$
 .....

x=0 は①の解でないから,①の両辺を $x^2$ で割ると.

$$x^{2} + ax - 1 + \frac{a}{x} + \frac{1}{x^{2}} = 0$$

$$x^{2} + \frac{1}{x^{2}} + a\left(x + \frac{1}{x}\right) - 1 = 0$$

$$\left(x + \frac{1}{x}\right)^{2} + a\left(x + \frac{1}{x}\right) - 3 = 0$$

$$1 > 7, \quad X^{2} + aX - 3 = 0 \qquad \dots \dots 2$$

 $g(X) = X^2 + aX - 3 \quad \text{2.}$ 

①が x>0 において 2 つの実数解 (重解を含む)をもつ条件は、(1)より②が  $X \ge 2$  の範囲に 1 つだけ解をもつことである.

$$g(0) = -3 < 0$$

であるから、求める条件は

$$g(2) \leq 0$$
  $\therefore 2a+1 \leq 0$ 

すなわち, 2a≦−1 である.

①が x < 0 において 2つの実数解 (重解を含む)をもつ条件は、(1)より②が  $X \le -2$  の範囲に 1 つだけ解をもつことである。

$$g(X) = (X+2)(X-\frac{3}{2})$$

である.  $X \le -2$  または  $X \ge 2$  に注意 すると g(X) = 0 の解は X = -2 であり、(1)で等号の成り立つときである. このとき

$$f(x) = x^2 + 2x + 1 = (x+1)^2$$

f(x)=0 の解は、x=-1 (重解) となる.

#### 29-1 $z^3+az+b=0$

a, bが実数であり, z=1+i が解であるから, z=1-i もこの方程式の解である. z+z=2, zz=2

であり、もう1つの解を $\alpha$ とおくと、

$$\begin{cases} z + \overline{z} + \alpha = 0 \\ z - \overline{z} + z\alpha + \alpha z = a \\ z - \overline{z} - b \end{cases}$$

が成り立つから

$$\alpha = -2$$

$$a = z\overline{z} + \alpha(z + \overline{z}) = 2 - 2 \cdot 2 = -2$$
  
$$b = (-1) \cdot 2 \cdot (-2) = 4$$

これより、他の2つの解は、1-i、-2

#### (29-2) 整数係数の 4 次方程式

f(x)=0 の虚数解の1つを

p+qi(p, q は実数,  $q \neq 0$ ) とすると, p-qi も解となる.

また、2つの整数解を m、n とすると、 $x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + 1$ 

$$=(x-m)(x-n)(x^2-2px+p^2+q^2)$$

係数を比較して,

$$a = -(m+n+2p)$$
 ·····①

$$b = mn + 2(m+n)p + p^2 + q^2$$
 .....2

$$c = -\{2mnp + (m+n)(p^2 + q^2)\} \cdots 3$$

$$1 = mn(p^2 + q^2) \qquad \cdots \qquad (4)$$

a, b, c, m, n は整数であるから①より、2p は整数、②より、 $p^2+q^2$  は正の整数である。

④より,

$$mn=1 \cdots 5, p^2+q^2=1 \cdots 6$$

$$5 \downarrow b$$
,  $m=n=\pm 1$  ..... $7$ 

また、⑥と  $q \ne 0$  より、-1 であるから、<math>2p が整数であることも用いて、2p = -1、0、1 ……⑧

⑥, ⑦, ⑧を①, ②, ③に代入し, 求める (a. b. c) は.

$$(a, b, c)$$
=(-1, 0, -1), (3, 4, 3), (-2, 2, -2), (2, 2, 2), (-3, 4, -3), (1, 0, 1)

29-3 yi(y は実数で  $y \neq 0$ ) が、x の 方程式  $x^5 + x^4 + ax^3 + bx^2 + cx + d = 0$  の解となる条件は、

$$y^5i+y^4-ay^3i-by^2+cyi+d=0$$
  
 $\therefore (y^4-by^2+d)+y(y^4-ay^2+c)i=0$   
よって、 $\begin{cases} y^4-by^2+d=0 \\ y^4-ay^2+c=0 \end{cases}$ であり

$$\begin{cases} (a-b)y^2 = c - d & \cdots \\ y^4 - ay^2 + c = 0 & \cdots \end{aligned}$$

と同値である.

a = b であれば、①をみたす実数yの個数は2以下となる。

a=b,  $c \neq d$  であれば、①をみたす実数 y は存在しない。

よって、①かつ②をみたす実数  $y(y \neq 0)$  が 4 個存在する条件は、

a=b, c=d であって、かつ

②をみたす実数  $y(y \neq 0)$  が 4 個存在する .....(\*)

ことである. さらに(\*)は、t の 2 次方程式

$$t^2 - at + c = 0$$

が異なる 2 個の正の実数解をもつことと同値であり、そのためのa, c の条件はa>0, c>0,  $a^2-4c>0$ となる. したがって、求める条件は次のようになる.

$$\begin{cases} a = b, & c = d \\ a > 0, & c > 0 \\ a^2 - 4c > 0 \end{cases}$$

#### 30-1 与式を変形して

$$2(x^2+x-2)+(x+1)(x+a)i=0$$

x, a は実数であるから, これは

$$\begin{cases} x^2 + x - 2 = 0 & \dots \\ (x+1)(x+a) = 0 & \dots \end{cases}$$

と同値である.

①
$$it (x+2)(x-1)=0$$

$$\therefore$$
  $x=1, -2$ 

であるから 「①かつ②」

$$\iff \begin{cases} x=1 \\ 2(a+1)=0 \end{cases} \sharp \text{tit } \begin{cases} x=-2 \\ -(a-2)=0 \end{cases}$$

$$\iff \begin{cases} x=1 \\ a=-1 \end{cases} \sharp \text{tit } \begin{cases} x=-2 \\ a=2 \end{cases}$$

$$\downarrow \text{tits} \exists z \in A = -1, 2$$

30-2 純虚数解を ai(aは実数で a ≠ 0)とおく.

x=ai を与式に代入して

$$(1+i)(-a^2)+(k+i)ai+3-3ki=0$$
  
 $2 + k + 0$ 

 $(-a^2-a+3)+(-a^2+ka-3k)i=0$ a、k は実数であるから

$$\begin{cases}
-a^2 - a + 3 = 0 & \dots \\
-a^2 + ka - 3k = 0 & \dots \end{aligned}$$

①-② より

$$-(1+k)a+3+3k=0$$

$$(k+1)(3-a)=0$$

$$\therefore a=3 \text{ $t$th } k=-1$$

a=3 は①をみたさない.

k=-1 のとき、①、②は一致し、①の判別式 D=1+12=13>0 であるから a は

0 でない実数である.

$$\therefore k = -1$$

(30-3) 
$$\frac{z^3}{z^2} = \frac{-8i}{2(1+\sqrt{3}i)} \sharp \emptyset$$
$$z = \frac{-4i}{1+\sqrt{3}i} = \frac{-4i(1-\sqrt{3}i)}{(1+\sqrt{3}i)(1-\sqrt{3}i)}$$
$$= -\sqrt{3} - i$$

#### 第3章

(2) 
$$AC = \frac{m}{m+n}AB$$
,

$$AD = \frac{m}{m-n}AB \ \sharp \ \emptyset$$

$$\frac{1}{AC} + \frac{1}{AD}$$

$$= \frac{m+n}{m} \cdot \frac{1}{AB} + \frac{m-n}{m} \cdot \frac{1}{AB} = \frac{2}{AB}$$

よって、
$$\frac{1}{AC} + \frac{1}{AD} = \frac{k}{AB}$$
 をみたす  $k$ 

の値は、k=2(3) Rの座標を  $(\alpha, \beta)$  とすると

$$\begin{cases} \frac{\alpha+\alpha}{2} = 2 \\ \frac{b+\beta}{2} = 1 \end{cases} \quad \therefore \quad \begin{cases} \alpha = 4-a \\ \beta = 2-b \end{cases}$$

よって、Rの座標は (4-a, 2-b)

(32) (1) Cの座標を  $(\alpha, \beta)$  とすると  $\begin{cases} AC^2 = AB^2 \\ BC^2 = AB^2 \end{cases}$  より  $\begin{cases} (\alpha - 1)^2 + (\beta + 2)^2 = 2^2 + (-4)^2 \\ (\alpha + 1)^2 + (\beta - 2)^2 = 2^2 + (-4)^2 \end{cases}$   $\vdots \begin{cases} \alpha^2 + \beta^2 - 2\alpha + 4\beta = 15 \\ \alpha^2 + \beta^2 + 2\alpha - 4\beta = 15 \end{cases}$  ……①

$$(1)-(2) \sharp \emptyset \quad \alpha=2\beta$$

①に代入して  $5\beta^2=15$   $\beta=\pm\sqrt{3}$  C は第 1 象限の点であるから, $\beta>0$  であり

$$\beta = \sqrt{3}$$

よって、Cの座標は $(2\sqrt{3},\sqrt{3})$ 

(2) 正方形の中心を C(α, β) とする ヒ

$$AC = \frac{AB}{\sqrt{2}}$$
 かつ  $BC = \frac{AB}{\sqrt{2}}$  より

$$\begin{cases} (\alpha - p)^2 + (\beta - q)^2 = \frac{(p+q)^2 + (q-p)^2}{2} \\ (\alpha + q)^2 + (\beta - p)^2 = \frac{(p+q)^2 + (q-p)^2}{2} \end{cases}$$

$$\vdots \begin{cases} \alpha^2 + \beta^2 - 2p\alpha - 2q\beta = 0 & \cdots \cdots \\ \alpha^2 + \beta^2 + 2q\alpha - 2p\beta = 0 & \cdots \cdots & 2 \end{cases}$$
① ① より  $(p+q)\alpha + (q-p)\beta = 0$ 
(i)  $p \neq q$  のとき、 $\beta = \frac{p+q}{p-q} \cdot \alpha$ 
これを①に代入すると
$$\frac{2(p^2 + q^2)}{(p-q)^2} \cdot \alpha^2 - 2 \cdot \frac{p^2 + q^2}{p-q} \cdot \alpha = 0$$

$$\vdots \quad \alpha = 0 \quad p-q$$

$$\alpha = 0, p-q$$

$$\therefore (\alpha, \beta) = (0, 0)$$

$$\sharp t : (b-q, b+q)$$

(ii) p=q のとき.

A $\neq$ B  $\downarrow$ b  $p+q\neq0$   $\tau$ bb,  $\alpha=0$ このとき①は  $\beta^2-2q\beta=0$ 

$$(\alpha, \beta) = (0, 0) \text{ $\sharp$ th } (0, 2q)$$

(ii)は(i)に含まれるので、中心Cの座標は (0, 0) または (p-q, p+q)

(33-1)(1) 2つの直線①, ②が直交す る条件は

$$(1-4k)\cdot 3 + 2\cdot (k-3) = 0$$

$$\therefore k = -\frac{3}{10}$$

2つの直線①、②が一致する条件 は

$$(1-4k):2=3:(k-3)$$

$$(1-4k)(k-3)=6$$

$$4k^2 - 13k + 9 = 0$$

$$4k - 9(k - 1) = 0$$

$$\therefore k=1, \frac{9}{4}$$

$$(33-2) (1) \begin{cases} a_1 : b_1 = a_2 : b_2 \\ a_1 : b_1 : c_1 \neq a_2 : b_2 : c_2 \end{cases}$$

$$\downarrow \emptyset \quad
\begin{cases}
a_1b_2 - b_1a_2 = 0 \\
a_1c_2 - c_1a_2 \neq 0
\end{cases}$$

(2)  $a_1:b_1:c_1=a_2:b_2:c_2$ 

(3) ①と②が1点で交わる ←⇒①と②が平行でない

であるから、 $a_1b_2-b_1a_2 \neq 0$ 

(4)  $a_1a_2+b_1b_2=0$ 

$$\begin{array}{ccc}
34 & ax+by+c=0 & & \cdots \\
bx+cy+a=0 & & \cdots \\
\end{array}$$

$$cx + ay + b = 0$$
 .....3

まず、① ※②、② ※③、③ ※①、すなわち  $ac-b^2 \neq 0$ ,  $ab-c^2 \neq 0$ ,  $bc-a^2 \neq 0$  $\cdots \cdot (4)$ 

が必要である.

次に、④のもとで①と②の交点を求める、

$$1 \times c - 2 \times b \downarrow 0$$

$$(ac-b^2)x+c^2-ab=0$$

 $\widehat{1} \times b - \widehat{2} \times a \downarrow \emptyset$ 

$$(b^2-ac)y+bc-a^2=0$$

④より  $ac-b^2 \neq 0$  なので①と②の交点 の座標は

これが③の上にある条件は

$$c \cdot \frac{ab - c^{2}}{ac - b^{2}} + a \cdot \frac{a^{2} - bc}{b^{2} - ac} + b = 0$$

$$a^{3} + b^{3} + c^{3} - 3abc = 0$$

$$(a + b + c)(a^{2} + b^{2} + c^{2})$$

$$-ab-bc-ca)=0$$

$$\frac{1}{2}(a+b+c)\{(a-b)^2+(b-c)^2$$

$$+(c-a)^2$$
=0

3 直線は一致しないので、a=b=c では a+b+c=0 である. 逆に $\lceil a+b+c=0 \rceil$  かつ $\lceil a=b=c \rceil$  で ない」とき

$$ac - b^{2} = ac - (-a - c)^{2}$$

$$= -a^{2} - ac - c^{2} = -\left(a + \frac{c}{2}\right)^{2} - \frac{3}{4}c^{2}$$

 $a+\frac{c}{2}=0$  かつ c=0 とすると a=c=0

このとき b=0 であり a=b=c でな い」ことに反する. したがって.

 $ac-b^2 \neq 0$  は成り立つ.

同様に  $ab-c^2 \neq 0$ ,  $bc-a^2 \neq 0$  であり、 ④をみたす。

よって、求める条件は

 $\lceil a+b+c=0 \rceil$  かつ  $\lceil a=b=c$  でない c=-a-b を⑤に代入すると. 交点の 座標は(1.1)

35 放物線上の点  $P(t, -t^2+4t-3)$ と直線 x-y+2=0 との距離 h は

よって、hは  $t=\frac{3}{2}$  のとき、最小値  $\frac{11}{4\sqrt{2}} = \frac{11\sqrt{2}}{8}$   $\approx 2.5$ .

(36) (1) 4x-3y=14 .....(1) x-2y=1 .....(2) x-7y=16 .....(3) とする.

①と②、②と③、③と①の交点の座標は それぞれ

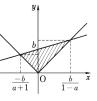
(5, 2), (-5, -3), (2, -2)である. これらをすべてx軸方向に-2. u軸方向に2だけ平行移動すると

(3, 4), (-7, -1), (0, 0)となるので、求める三角形の面積は

$$\frac{1}{2}|3\boldsymbol{\cdot} (-1) \!-\! (-7)\boldsymbol{\cdot} 4| \!=\! \frac{25}{2}$$

(2)  $y = |x| \ge$  $y = ax + b \ (b > 0)$ が2点で交わるため の条件は -1 < a < 1 であり.

交点のx座標は



$$x = \frac{-b}{a+1}, \frac{b}{1-a}$$

である.よって.上図の斜線部分の面積 SIL

$$S = \frac{1}{2}b\left|\frac{-b}{a+1}\right| + \frac{1}{2}b\left|\frac{b}{1-a}\right|$$
$$= \frac{b^2}{2}\left(\frac{1}{a+1} + \frac{1}{1-a}\right) = \frac{b^2}{1-a^2}$$

S=4 1 b  $b^2=4(1-a^2)$ 

**37** 点(X, Y) が求める直線上の点 であるための条件は



$$\frac{|2X+Y-3|}{\sqrt{2^2+1^2}} = \frac{|X-2Y+1|}{\sqrt{1^2+(-2)^2}}$$

 $\therefore 2X+Y-3=\pm(X-2Y+1)$ よって、求める直線の方程式は

$$x+3y-4=0$$
,  $3x-y-2=0$ 

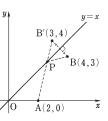
(38-1) P(a, b) とおくと、RとPは直 線 y=x に関して対称なので R(b, a)RはQをx軸方向に1だけ平行移動した 点であるから Q(b-1, a)

PとQは直線 y=2x に関して対称ゆえ、

$$\begin{cases} \frac{a+b}{2} = 2 \cdot \frac{a+(b-1)}{2} \\ 2 \cdot \frac{b-a}{a-(b-1)} = -1 \end{cases} \therefore \begin{cases} a+b=2 \\ a-b=1 \end{cases}$$

$$\therefore a = \frac{3}{2}, b = \frac{1}{2} \qquad \therefore P\left(\frac{3}{2}, \frac{1}{2}\right)$$

(38-2) (1) 2点 A. B は直線 y=x に関して同 じ側にある。Bを y=x に関して対 称移動した点は. B'(3, 4) である.



AP+PB が最小となる点Pは直線 AB′ と直線 y=x の交点である. 直線 AB' の方程式は,

$$y=4(x-2)$$

これと y=x の交点を求めて,

$$P\left(\frac{8}{3}, \frac{8}{3}\right)$$

(2) 最小値は

$$\overline{AB'} = \sqrt{1^2 + 4^2} = \sqrt{17}$$

39-1 kについて整理して

(2x+y-1)k+x+4y+3=0これがすべてのkに対して成立する条件は、

$$\begin{cases} 2x+y-1=0\\ x+4y+3=0 \end{cases}$$

 $\therefore x=1, y=-1$ 

したがって、kがどのような値であっても定点(1, -1)を通る.

39-2 (m, n)  $\neq$  (0, 0) として m(2x-y-1)+n(3x+2y-3)=0 ……① は P を 通る 直線の 方程式である.

(1) ①が (-1, 1) を通るとき、-4m-4n=0 ∴ m=-n ( $\pm 0$ ) ①に代入して、n(x+3y-2)=0  $n \pm 0$  より x+3y-2=0

(2) ①は

と変形できる.

①  $n^{3}$  2x-3y=0 に平行な条件は 2(-m+2n)+3(2m+3n)=0  $\therefore$  4m+13n=0  $\therefore$   $m=-\frac{13}{4}n$  ( $\neq 0$ )

① に代入して整理すると n(14x-21y-1)=0

n = 0 より 14x - 21y - 1 = 0

(3) ① が x+3y=0 に垂直な条件は (2m+3n)+3(-m+2n)=0 ∴ m=9n ( $\neq 0$ )

① に代入して、n(21x-7y-12)=0 $n \neq 0$  より 21x-7y-12=0

**40** *x* について整理すると

 $2x^2+(3y+a)x+y^2+y+b=0$  ……① これが 2 直線を表す条件は、①の左辺が x, y の 1 次式に因数分解できること、すなわち

①の判別式 = $(3y+a)^2-4\cdot2\cdot(y^2+y+b)$ = $y^2+2(3a-4)y+a^2-8b$  がyについて完全平方式となることである。この条件は、 $\frac{D_y}{4}$ =0 であり  $(3a-4)^2-(a^2-8b)=0$   $\therefore 8a^2-24a+16+8b=0$ 

よって.  $b = -a^2 + 3a - 2$ 

42 P(x, y) について PA<sup>2</sup>+PB<sup>2</sup>+PC<sup>2</sup> ={(x-3)<sup>2</sup>+(y-4)<sup>2</sup>}+{(x+5)<sup>2</sup>+y<sup>2</sup>} +{(x-5)<sup>2</sup>+y<sup>2</sup>} =3x<sup>2</sup>-6x+3y<sup>2</sup>-8y+75 =3(x-1)<sup>2</sup>+3 $\left(y-\frac{4}{3}\right)^2+\frac{200}{3}$  PA<sup>2</sup>+PB<sup>2</sup>+PC<sup>2</sup>= $k^2$ , すなわち  $3(x-1)^2+3\left(y-\frac{4}{3}\right)^2=k^2-\frac{200}{3}$  これが円を表すための条件は、 $k^2-\frac{200}{3}>0$  ∴  $k>\frac{10\sqrt{6}}{3}$ 

43 (1)  $C_k$  の方程式を変形して  $\left(x + \frac{3k}{2}\right)^2 + \left(y + \frac{k-2}{2}\right)^2$   $= \left(\frac{3k}{2}\right)^2 + \left(\frac{k-2}{2}\right)^2 + 6k + 4$  さらに (右辺)  $= \frac{5}{2}(k^2 + 2k + 2)$ 

 $= \frac{5}{2} \{ (k+1)^2 + 1 \} > 0$ 

であるから、 $C_k$  は円を表している. この円の中心を(X, Y) とすると

$$X = -\frac{3k}{2}, \quad Y = -\frac{k-2}{2}$$

点 (X, Y) の軌跡は、これをみたす実数 k が存在するような点 (X, Y) の集合であるから

$$Y = \frac{1}{3}X + 1 \quad \therefore \quad y = \frac{1}{3}x + 1$$

(2)  $C_k$  の方程式を k について整理すると

$$x^2+y^2-2y-4+k(3x+y-6)=0$$
 .....(\*)

すべての C<sub>k</sub> が通る点は

$$\begin{cases} x^2 + y^2 - 2y - 4 = 0 \\ 3x + y - 6 = 0 \end{cases}$$

をみたす (x, y) を座標にもつ点である. これを解くと

$$\begin{cases} x=1 \\ y=3 \end{cases}, \begin{cases} x=2 \\ y=0 \end{cases}$$

よって、求める点は (1,3),(2,0)

(3) (\*)をみたす*k*が存在しない,すなわち

$$\begin{cases} x^2 + y^2 - 2y - 4 \neq 0 \\ 3x + y - 6 = 0 \end{cases}$$

をみたす (x, y) を座標にもつ点である. よって、求める点は

直線 3x+y-6=0 上の 2点 (1, 3), (2, 0) を除くすべての点.

$$2x^{2}-6x+2y^{2}+10y=1 \text{ if }$$

$$\left(x-\frac{3}{2}\right)^{2}+\left(y+\frac{5}{2}\right)^{2}=9$$

と変形できる.

中心  $A\left(\frac{3}{2}, -\frac{5}{2}\right)$ の x+2y=1 に関す

る対称点を A'(a, b) とすると

$$\begin{cases} \frac{3+2a}{4} + \left(-\frac{5}{2} + b\right) = 1\\ \frac{b+\frac{5}{2}}{a-\frac{3}{2}} \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) = -1 \end{cases}$$

$$\therefore a = \frac{33}{10}, b = \frac{11}{10}$$

中心 A', 半径 3 の円が求める円であり、この円の方程式は

$$\left(x-\frac{33}{10}\right)^2+\left(y-\frac{11}{10}\right)^2=9$$

44-2 求める接線を 3x-4y+c=0 とおく.  $x^2+y^2=1$  と接する条件は、中心 (0, 0) との距離が 1 であることより、

$$\frac{|c|}{\sqrt{3^2 + (-4)^2}} = 1 \qquad \therefore \quad c = \pm 5$$
$$\therefore \quad 3x - 4y \pm 5 = 0$$

(44-3) y=x+1 を円の方程式に代入して整理すると、

$$2x^2+(2a+1)x+1=0$$

 $D=(2a+1)^2-8$  とおくと, D=0 となる a は

$$2a+1=\pm 2\sqrt{2} \qquad \therefore \quad a=\frac{-1\pm 2\sqrt{2}}{2}$$

Dの符号より, 共有点の個数は,

$$a<\frac{-1-2\sqrt{2}}{2},\; \frac{-1+2\sqrt{2}}{2}< a$$
 のとき

$$2$$
個,  $a=\frac{-1\pm2\sqrt{2}}{2}$  のとき  $1$ 個,

$$\frac{-1-2\sqrt{2}}{2}$$
 <  $a$  <  $\frac{-1+2\sqrt{2}}{2}$  のとき

0 個

(別解) 円の中心  $\left(\frac{1-a}{2}, -\frac{a}{2}\right)$ と直線 x-y+1=0 の距離

$$\frac{\left|\frac{1-a}{2} + \frac{a}{2} + 1\right|}{\sqrt{1^2 + (-1)^2}} = \frac{3}{2\sqrt{2}}$$

と半径

$$\sqrt{a + \left(\frac{1-a}{2}\right)^2 + \left(-\frac{a}{2}\right)^2} = \sqrt{\frac{a^2}{2} + \frac{a}{2} + \frac{1}{4}}$$
を比較してもない。

$$\frac{a^2}{2} + \frac{a}{2} + \frac{1}{4} > \frac{9}{8}, = \frac{9}{8}, < \frac{9}{8}$$

それぞれに対して, 共有点の個数は2個, 1個, 0個である.

$$\begin{array}{c} \textbf{45} \quad x^2 + y^2 - 2x - 4y - 4 = 0 \text{ if } \\ (x-1)^2 + (y-2)^2 = 9 \end{array}$$

と変形できる.

この円の中心 (1, 2) と直線 x-y-1=0 の距離は

$$\frac{|1-2-1|}{\sqrt{1^2+(-1)^2}} = \frac{2}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}$$

よって、切りとる弦の長さは、

$$2\sqrt{9-(\sqrt{2})^2}=2\sqrt{7}$$

**46** A, B における接線の方程式は それぞれ

$$2x+4y=20, 4x-2y=20$$
  
連立して、 $x=6, y=2$   
∴  $(6, 2)$ 

47 (1) 円の中心(0, 0)と直線の距離が1(半径)より小さいことから

$$\frac{1}{\sqrt{a^2+b^2}} < 1 \quad \therefore \quad \boldsymbol{a}^2 + \boldsymbol{b}^2 > 1$$

(2)  $P(p_1, p_2)$ ,  $Q(q_1, q_2)$  とおくと, P, Q は ax+by=1 上の点であるから  $\begin{cases} ap_1+bp_2=1 & \dots \\ aq_1+bq_2=1 \end{cases}$ 

P, Qにおける接線はそれぞれ  $p_1x+p_2y=1$ ,  $q_1x+q_2y=1$  ところで①は、これら 2 直線が点 (a, b)

を通ることを示している. よって、Rの座標は (a, b)

48-1 2円の中心間の距離は  $\sqrt{(2+1)^2+(2+2)^2}=5$  なので、求める条件は、

|*R*-4|>5 または *R*+4<5 *R*>0 もふまえると

0 < R < 1, 9 < R

(48-2) (1)  $C_1$ ,  $C_2$  は 2 点で交わるから,  $C_1$ ,  $C_2$  の方程式を辺々ひいて,

6x - 4y = 2

求める直線の方程式は

$$3x-2y=1$$

(2) 
$$(x-1)^2 + (y-3)^2 - 4 + k(3x-2y-1) = 0$$

は $C_1$ と $C_2$ の2交点を通る図形の方程式である.

これが点(3.1)を通るとき

$$4+4-4+k(9-2-1)=0$$
 ∴  $k=-\frac{2}{3}$  このとき

 $3\{(x-1)^2+(y-3)^2-4\}$ 

$$-2(3x-2y-1)=0$$

$$3x^2+3y^2-12x-14y+20=0$$

$$3(x-2)^2+3\left(y-\frac{7}{3}\right)^2=\frac{25}{3} (>0)$$

これは円である.よって、求める円の方程式は

$$(x-2)^2 + \left(y - \frac{7}{3}\right)^2 = \left(\frac{5}{3}\right)^2$$

50 直線 ABを x 軸とし、 線分 AB の中点 Oを通りこれに 垂直な直線を y 軸とする。

2点 A, B の座標をそれぞれ A(-a, 0), B(a, 0) (a>0) とし, P(x, y) とする

$$PA : PB = m : n$$

は

$$PA^2 : PB^2 = m^2 : n^2$$

$$\begin{array}{ll} \therefore & \{(x+a)^2\!+y^2\!\} : \{(x-a)^2\!+y^2\!\} \\ &= \!m^2 : n^2 \end{array}$$

$$-2(m^2+n^2)ax+(m^2-n^2)a^2=0$$
  
と変形でき  $m \ne n$  であるから  
 $m^2-n^2 \ne 0$  であり

$$x^{2}+y^{2}-\frac{2(m^{2}+n^{2})}{m^{2}-n^{2}}ax+a^{2}=0$$

$$\therefore \left(x-\frac{m^{2}+n^{2}}{m^{2}-n^{2}}\cdot a\right)^{2}+y^{2}=\frac{4m^{2}n^{2}}{(m^{2}-n^{2})^{2}}\cdot a^{2}$$

と変形できる。よって、求める軌跡は

点 
$$\left(\frac{m^2+n^2}{m^2-n^2}\cdot a, \ 0\right)$$
を中心とし、

$$\left| \frac{2mn}{m^2 - n^2} \cdot a \right|$$
 を半径とする円である.

上の円の方程式で y=0 とおいて、x軸 との交点の座標を求めると

$$x = \frac{m^2 + n^2}{m^2 - n^2} \cdot a + \frac{2mn}{m^2 - n^2} \cdot a = \frac{m + n}{m - n} \cdot a,$$

$$x = \frac{m^2 + n^2}{m^2 - n^2} \cdot a - \frac{2mn}{m^2 - n^2} \cdot a = \frac{m - n}{m + n} \cdot a$$
 となる.

点 $\left(\frac{m-n}{m+n}\cdot a, 0\right)$  は線分 AB を m:n に

点 $\left(\frac{m+n}{m-n}\cdot a, 0\right)$  は線分 AB を m:n に 外分している.

よって、Pの軌跡はこれらの点を直径の 両端とする円である.

$$\begin{array}{ccc}
51-1 & y=tx & & \cdots \\
 & y=(t+1)x-t & & \cdots \\
\end{array}$$

を同時にみたす実数 t が存在するための x, yの条件を求める.

- ①を t についての方程式とみると x=0 のとき、①をみたす t が存在す る条件は y=0 であり、このとき、①、
- ②をみたす実数 t が t=0 として存在す る.

 $x \neq 0$  のとき、①をみたす t の値は  $t = \frac{y}{r}$ 

これが2もみたすためのx, yの条件は  $y = \left(\frac{y}{x} + 1\right)x - \frac{y}{x}$ 

 $\therefore y = x^2 \text{ in } x \neq 0$ 

以上まとめて、Pの軌跡は、放物線  $y=x^2$  の全体.

 $(x-t)^2+y^2=t^2$  .....(1).

y=tx ……② を同時にみたす正の実数 t が存在するためのx, y の条件を求め る.

- ②を t についての方程式とみると x=0 のとき、②をみたす t が存在す る条件は y=0 であり、このとき、①は tの値にかかわらず成立.
- よって. (x, y)=(0, 0) は条件をみたす.  $x \neq 0$  のとき、②をみたす t の値は

$$t = \frac{y}{x}$$

これが①もみたす x, y の条件は

$$\left(x - \frac{y}{x}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{y}{x}\right)^2$$
 :  $x^2 - 2y + y^2 = 0$ 

 $\therefore x^2+(y-1)^2=1 \Rightarrow x\neq 0$ 

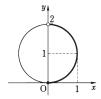
 $\pm t$ , t>0  $\pm 0$   $\frac{y}{r}>0$ 

 $\therefore xy > 0$ 以上まとめて

 $\mathbb{H} x^2 + (y-1)^2 = 1$ 

の x>0 の部分

および原点. 図示すると右図.



(52-1) 弦PQは 点 A(2, 4) を通る

$$A(2, 4)$$
を通るから、直線 PQ の方程式は $a(x-2)+b(y-4)=0$  ( $a^2+b^2 \neq 0$ ) ......①

とおけて、このとき PQの中点Mを通 る直線 OM の方程式は

$$bx-ay=0$$
 ·····② となる.

- ②を同時にみたす実数 a. b  $(a^2+b^2 \neq 0)$  が存在するための x. y の条 件を求める.
- ②を ya=bx として a についての方程 式とみると
  - (i) y=0 のとき、「①かつ②」は a(x-2)-4b=0bx=0
  - (r) x=0  $0 \ge 3$ , a + 2b = 0りは任意

であり、これをみたす a,  $b(a^2+b^2 \neq 0)$ は存在する.

よって、(x, y)=(0, 0) は適する.

- (イ)  $x \neq 0$  のとき. a(x-2)=0b=0
- (a)  $x \neq 2$  のとき, a = b = 0 となるが,  $a^2+b^2 \neq 0$  をみたさないので適さない.
  - (b) x=2 のとき. 「a は任意 b=0

これをみたす a,  $b(a^2+b^2 \neq 0)$  は存在す

るので、(x, y)=(2, 0) は適する.

(ii)  $y \neq 0$  のとき、②をみたすaの値

$$i \sharp \quad a = b \cdot \frac{x}{y}$$

このとき①は 
$$b \cdot \frac{x}{y}(x-2) + b(y-4) = 0$$

: 
$$b\{x(x-2)+y(y-4)\}=0$$
 .....3

であり、
$$a^2+b^2 = 0$$
 は  $b^2 \left\{ \left( \frac{x}{y} \right)^2 + 1 \right\} = 0$ 

したがって  $b \neq 0$  ……④ である.

 ④を同時にみたすりが存在するよう x y の条件は

$$x(x-2)+y(y-4)=0$$
  
 $\therefore (x-1)^2+(y-2)^2=5 (y \neq 0)$ 

(i). (ii)をまとめると

$$(x-1)^2+(y-2)^2=5$$

(別解) つねに  $OM \perp AM$  であるから. MはO, Aを直径の両端とする円周上を 動く

このとき、直線 PQ は点Aを通る直線の すべてを動くから、弦 PQ の中点である Mも上の円周上すべてを動く、

この円の方程式は(標問41の→研究参 昭)

$$x(x-2)+y(y-4)=0$$
  
 $\therefore (x-1)^2+(y-2)^2=5$ 

(52-2) P(b,  $\sqrt{3}b^2$ ), Q(a,  $\sqrt{3}a^2$ )  $\geq$ おくと、Rの座標 (x, y) は

$$x = \frac{p+q}{2}$$
 ...(1),  $y = \frac{\sqrt{3}}{2}(p^2+q^2)$  ...(2)

また、∠POQ=90° より

$$(OP の傾き) \times (OQ の傾き) = -1$$

$$\therefore \quad \sqrt{3} \, p \cdot \sqrt{3} \, q = -1$$

$$\therefore pq = -\frac{1}{3} \qquad \dots (3)$$

 ②. ③を同時にみたす実数 b. q が存 在するためのx, y の条件を求める.

①, ③をみたす p, qは

$$t^2 - 2xt - \frac{1}{3} = 0$$

の2解であり、判別式をDとすると

$$\frac{D}{4} = x^2 + \frac{1}{3} > 0$$

であるから、*p*、*q* はつねに実数である. p, q が①, ③をみたすという条件のもと で②を変形して

$$y = \frac{\sqrt{3}}{2} \{ (p+q)^2 - 2pq \}$$

$$y = \frac{\sqrt{3}}{2} \left\{ (2x)^2 - 2\left(-\frac{1}{3}\right) \right\}$$

$$\therefore$$
 放物線  $y=2\sqrt{3}x^2+\frac{1}{\sqrt{3}}$ 

$$(53) X = \frac{2x}{x^2 + y^2}, Y = \frac{2y}{x^2 + y^2} \downarrow 0,$$

$$X^2 + Y^2 = \frac{4}{x^2 + y^2}$$

$$\therefore x = \frac{2X}{X^2 + Y^2}, y = \frac{2Y}{X^2 + Y^2}$$

円弧①を表す式に代入して.

$$\left(\frac{2X}{X^2+Y^2}\right)^2 + \left(\frac{2Y}{X^2+Y^2}\right)^2 = 1,$$

$$0 \le \frac{2X}{X^2 + Y^2} \le 1, \ 0 \le \frac{2Y}{X^2 + Y^2} \le 1$$

$$\therefore X^2 + Y^2 = 4,$$

$$0 \leq X \leq 2$$
,

$$0 \le Y \le 2$$

....(1) 線分②を表す式に代入して,

$$\frac{2Y}{X^2 + Y^2} = 1, \quad 0 \le \frac{2X}{X^2 + Y^2} \le 1$$

$$X^2 + (Y-1)^2 = 1,$$
  
$$0 \le X.$$

$$(X-1)^2 + Y^2 \ge 1$$
,

 $X^2 + Y^2 \neq 0 \cdots (2)'$ 

線分③も同様に, 
$$(X-1)^2+Y^2=1$$
.

 $0 \leq Y$ .

$$X^2 + (Y-1)^2 \ge 1$$
,

$$X^2 + Y^2 \neq 0 \cdots (3)'$$

よって、点Qのえがく図形は上図の①′.

②', ③' のようになる.

$$54$$
  $a = x + y$ 

$$b = xy$$

$$x^2+y^2+2x+2y=1$$

①, ②, ③を同時にみたす実数 *x*, *y* が存 在するための a. b の条件を求める.

$$x$$
,  $y$  は  $t^2-at+b=0$  の実数解である

から  $D \ge 0$   $\therefore$   $a^2 - 4b \ge 0$   $\cdots (4)$ x. yが③をみたすための条件は  $(x+y)^2-2xy+2(x+y)=1$ 

 $\therefore a^2 - 2b + 2a = 1$ 

④, ⑤より、求める図形の方程式は

$$b \le \frac{a^2}{4}$$
,  $b = \frac{1}{2}a^2 + a - \frac{1}{2}$  である. 両端の  $a$  座標は  $1 = \frac{1}{2}a^2 + a - \frac{1}{2}a^2$ 

$$\frac{1}{2}a^2 + a - \frac{1}{2} = \frac{a^2}{4}$$

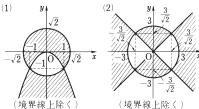
を解いて  $a=-2\pm\sqrt{6}$ よって、図のようになる.

(55) (1)  $x^2 = -y \ge x^2 + y^2 = 2$  if 2点(±1. −1)で交わり、下図の斜線部 分を得る.

(2) 与えられた不等式は 
$$(x^2+y^2-9)(y+x)(y-x)<0$$
と変形できる.

 $x^2+y^2=9$  は、 $y=\pm x$  と、4点  $\left(\pm\frac{3}{\sqrt{2}}, \pm\frac{3}{\sqrt{2}}\right)$  (複号任意) で交わり,

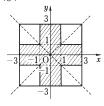
下図の斜線部分を得る.



56 条件(i). (ii)は  $|x| \leq |y|$  のとき.  $|x| \le 1$  かつ  $|y| \le 3$  $|x| \ge |y|$  のとき.  $|x| \le 3$  かつ  $|y| \le 1$ 

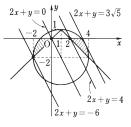
である. これを図 示すると、右図を 得る. 境界線上を 含む. よって

面積=62-4×22 =20



57-1 右図 の斜線部分 (境界線上含 む) が D であ 2

k=2x+y  $\hbar^{\varsigma}$ 最大になるの



y = -2x + kが円  $(x-1)^2+(y+2)^2=9$  と x>0 にお いて接するときで、円の中心と直線の距 離を考えると

$$\frac{|2-2-k|}{\sqrt{2^2+1^2}}=3$$

また、直線 y=-2x+k が (x, y)=(-2, -2), (0, 0), (2, 0)\$ 通るときの kの値を求めると、順に k = -6, 0, 4となるので

 $-6 \le k \le 0, \ 4 \le k \le 3\sqrt{5}$ 

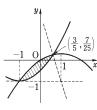
**(57-2)**  $-5 \le 3x + y \le 5$  $-5 \le x - 3y \le 5$ をみたす点の集合 は右図の斜線部分 (境界線上含む)で ある.

 $x^2-10x+y^2=(x-5)^2+y^2-25$ は、 点 A(5.0) から最も遠い点 (-2.1) において最大. 最も近い点(2.-1)にお いて最小となる.

(57-3) (1)  $x^2-2x+3y=0$ ,  $x^2 + 2x - 2y - 1 = 0$ 

これより、最大値 25、最小値 -15

は 2 点  $\left(\frac{3}{5}, \frac{7}{25}\right)$ , (-1, -1) で交わり, 2 つの不等式を同時にみたす領域は右図の斜線部分 (境界線上含む) である.



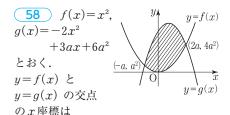
(2) 
$$\frac{y+1}{x-1}$$
 は、 2点  $(x, y)$ ,  $(1, -1)$ 

を結ぶ直線の傾きであり、図より、

$$x=y=-1$$
 のとき傾きは最大となり,  $x=\frac{3}{5},\ y=\frac{7}{25}$  のとき傾きは最小となる.

したがって,

最大値 
$$0 (x=y=-1)$$
 最小値  $-\frac{16}{5} \left(x=\frac{3}{5}, \ y=\frac{7}{25}\right)$ 



$$x^2 = -2x^2 + 3ax + 6a^2$$

$$\therefore 3(x^2-ax-2a^2)=0$$

$$\therefore 3(x+a)(x-2a)=0$$

$$\therefore x = -a, 2a$$

領域Dは上図の斜線部分となる. 境界も含む。

x+y=k とおく. 直線 y=-x+k と放物線 y=g(x) が接するのは  $-x+k=-2x^2+3ax+6a^2$  すなわち

 $2x^2-(3a+1)x+k-6a^2=0$  が重解をもつときであり、判別式を  $D_1$  とすると、 $D_1=0$  である。

$$(3a+1)^2-4\cdot 2(k-6a^2)=0$$

$$\therefore k = \frac{1}{8}(57a^2 + 6a + 1)$$

このとき接点のx座標は $x = \frac{3a+1}{4}$  である.

 $-a \le \frac{3a+1}{4} \le 2a$  をみたす a は  $a \ge \frac{1}{5}$  であり、この範囲では直線が放物線に接するとき k は最大となる。

 $0 < a \le \frac{1}{5}$  のときは、直線が点  $(2a, 4a^2)$  を通るとき、k は最大となる.

よって、最大値は

$$\begin{cases} \frac{1}{8} (57\alpha^2 + 6\alpha + 1) & \left(\alpha \ge \frac{1}{5} \text{ のとき}\right) \\ 2\alpha + 4\alpha^2 & \left(0 < \alpha \le \frac{1}{5} \text{ のとき}\right) \end{cases}$$

直線 y=-x+k と放物線 y=f(x) が 接するのは

 $-x+k=x^2$  ∴  $x^2+x-k=0$  が重解をもつときであり、判別式を  $D_2$  とすると、 $D_2=0$  である.

$$1+4k=0$$
 :  $k=-\frac{1}{4}$ 

接点のx座標は  $x=-\frac{1}{2}$  である.

 $-a \le -\frac{1}{2} \le 2a$  をみたすa は  $a \ge \frac{1}{2}$  であり、この範囲では直線が放物線に接するときk は最小となる。

 $0 < a \le \frac{1}{2}$  のときは、直線が点 $(-a, a^2)$  を通るとき、k は最小となる。

よって、最小値は

$$\left\{egin{array}{ll} -rac{1}{4} & \left(a\! \ge\! rac{1}{2} 
ight. & {
m O}$$
 උප්  $\left(a\! \ge\! rac{1}{2} 
ight. & {
m O}$  උප්  $\left(a\! \ge\! rac{1}{2} 
ight. & {
m O}$  උප්  $\left(a\! \ge\! rac{1}{2} 
ight. & {
m O}$  උප්  $\left(a\! \ge\! rac{1}{2} 
ight)$ 

(59-1) (1) 
$$F(x, y)$$
  
= $(3y-x+1)^2+(x-2)^2+2$   
 $x, y$  はすべての実数値をとるから 
$$\begin{cases} 3y-x+1=0\\ x-2=0 \end{cases}$$

 $x=2, y=\frac{1}{2}$  のとき, 最小値 2 をとる.

(2) xを固定し、F(x, y) を y につい ての2次関数とみる.

 $3 \le x \le 5$  より、F(x, y) のグラフの軸  $y=\frac{x-1}{2}$  の位置は

$$\frac{2}{3} \le \frac{x-1}{3} \le \frac{4}{3}$$

最大値について.

軸は定義域  $0 \le y \le 1$  の中点より右側に あるから、最大値はF(x, 0)である. ついで、xを動かす。

$$F(x, 0) = (-x+1)^{2} + x^{2} - 4x + 6$$

$$= 2x^{2} - 6x + 7$$

$$= 2\left(x - \frac{3}{2}\right)^{2} + \frac{5}{2}$$

であるから, F(x, 0) は x=5 のとき最 大値 27 をとる.

最小値について

$$(i) \quad \frac{2}{3} \leq \frac{x-1}{3} \leq 1 \quad \checkmark$$

 $(3 \le x \le 4)$  のとき

最小値は

$$(3 \le x \le 4)$$
 のとき  
最小値は  
 $F\left(x, \frac{x-1}{3}\right)$ である。  $\frac{x-1}{3}$ 

 $F(x, \frac{x-1}{2}) = (x-2)^2 + 2$ 

ついで、xを動かすと $F\left(x, \frac{x-1}{2}\right)$ は x=3 のとき最小値3をとる.

(ii) 
$$1 \le \frac{x-1}{3} \le \frac{4}{3} (4 \le x \le 5)$$
 のとき

最小値はF(x, 1)である.

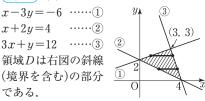
$$F(x, 1)$$
=  $(4-x)^2 + x^2 - 4x + 6$   
=  $2x^2 - 12x + 22$   
=  $2(x-3)^2 + 4$ 



ついで、xを動かすとF(x, 1)は x=4のとき最小値6をとる.

(i), (ii)より 最小値 3

#### **59-2**) (1)



(2)  $F(x, y) = x^2 - y^2$  とおく. yを固定するとき, xの動く範囲は

$$\begin{cases} 0 \leq y \leq 2 \text{ Obs.} & 4 - 2y \leq x \leq 4 - \frac{y}{3} \\ 2 \leq y \leq 3 \text{ Obs.} & 3y - 6 \leq x \leq 4 - \frac{y}{3} \end{cases}$$

最大値について.

F(x, y)は  $x=4-\frac{y}{3}$  のとき最大とな る.

$$\begin{split} F\Big(4-\frac{y}{3}, & y\Big) = \Big(4-\frac{y}{3}\Big)^2 - y^2 \\ & = -\frac{8}{9}y^2 - \frac{8}{3}y + 16 \end{split}$$

ついで、yを動かすと $F\left(4-\frac{y}{3}, y\right)$ は y=0 のとき**最大値 16** をとる. 最小値について.

(i)  $0 \le y \le 2$  のとき

F(x, y) は x=4-2y のとき最小とな る.

$$F(4-2y, y) = (4-2y)^2 - y^2$$
  
=  $3y^2 - 16y + 16$ 

ついで、yを動かすとF(4-2y, y)は y=2 のとき最小値 -4 をとる.

(ii)  $2 \le y \le 3$  のとき

F(x, y) は x=3y-6 のとき最小とな

$$F(3y-6, y) = (3y-6)^{2} - y^{2}$$

$$= 8y^{2} - 36y + 36$$

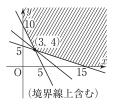
$$= 8\left(y - \frac{9}{4}\right)^{2} - \frac{9}{2}$$

ついで、yを動かすとF(3y-6, y)は  $y = \frac{9}{4}$  のとき最小値  $-\frac{9}{2}$  をとる.

(i), (ii)より 最小値 
$$-\frac{9}{2}$$

(60-1) P, Q ₹  $n \approx x g, y g$ とるとすると、条 件より

 $x \ge 0$ ,  $y \ge 0$ ,  $2x+y \ge 10$ ,  $x+3y \ge 15$ 

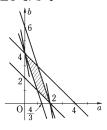


これらをすべてみたす領域において. 2x+3y を最小にするには、x=3. y=4 とすればよい (上図参照). これより、Pを3g、Qを4gとればよ

(60-2) y = ax + b において, x=1 のとき、 $2 \le y \le 4$ x=3 のとき、 $4 \le y \le 6$  よって

 $\begin{cases} 2 \leq a + b \leq 4 \end{cases}$  $|4 \le 3a + b \le 6$ これは右図の斜線 部分となる(境界 を含む).

く. 最小費用は18円



x=6 のときの生 産量を k とすると

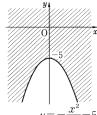
6a+b=kb = -6a + k

傾き -6 の直線と上図の領域が共有点を もつときを調べて.

(a, b)=(0, 4) で最小値4トン (a, b)=(2, 0) で最大値 12 トン

**61** *a* について整理して.  $a^2 + xa - (y+5) = 0$ 

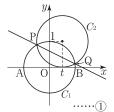
これをみたす実数 aが存在する条件 は.



$$x^2 + 4(y+5) \ge 0$$

$$\therefore y \ge -\frac{x^2}{4} - 5$$

図示すると図の斜線 部分を得る. ただし, 境界線上の点を含む. (62) (1) AB を直径とする円を  $C_1$ とし、 $C_1$ を弦 PQに関して対称 移動した円を C<sub>2</sub> とする.



 $C_1: x^2+y^2=1$ 

 $C_2$  は点 (t, 0) で x 軸と接するから、

 $C_2: (x-t)^2+(y-1)^2=1$  .....(2)  $C_1$ .  $C_2$  の交線が直線 PQ であるから、求 める直線の方程式は、①-②より

#### $2tx+2y-t^2-1=0$

(2) 弦 PQ が通過する範囲は、直線 PQが通過する範囲と半円の周および内

 $x^2 + y^2 \le 1$  かつ  $y \ge 0$ との共通部分である.

まず. tが-1から1まで動くときの直 線 PQ が通過する範囲を求める.

点(x, y)が直線PQが通過する範囲内 の点であるための条件は、(x, y) に対し て、(1)の方程式をみたす  $t(-1 \le t \le 1)$ が存在することである.

$$f(t) = t^2 - 2xt + 1 - 2y$$
  
とおき.

f(t)=0  $ho -1 \le t \le 1$  f(t)=0が存在する ·····(\*)

ためのx, yの条件を求める。f(t)のグ ラフの軸 t=x が定義域  $-1 \le t \le 1$  の 中にあるか否かで場合分けする.

(i)  $x \leq -1$  のとき,

$$(*) \iff \begin{cases} f(-1) \leq 0 \\ f(1) \geq 0 \end{cases}$$
$$\therefore \begin{cases} 2x - 2y + 2 \leq 0 \\ -2x - 2y + 2 \geq 0 \end{cases}$$

 $\therefore x+1 \le y \le -x+1$ 

(ii)  $-1 \le x \le 1$  のとき、

$$(*) \Longleftrightarrow egin{cases} (判別式) \geq 0 \\ \lceil f(-1) \geq 0 \end{bmatrix}$$
 または  $f(1) \geq 0$ 」

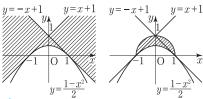
$$\begin{array}{l} \vdots \\ \begin{cases} x^2 - (1-2y) \geqq 0 \\ \lceil 2x - 2y + 2 \geqq 0 \end{cases} \\ \lessapprox \not z : \sharp \\ -2x - 2y + 2 \geqq 0 \end{bmatrix} \\ \vdots \\ \begin{cases} y \geqq \frac{1-x^2}{2} \\ \lceil y \leqq x + 1 \end{cases} \end{cases} \\ \not z \iff \exists x \implies \exists x \iff \exists$$

(iii)  $1 \le x$  のとき,

$$(*) \iff \begin{cases} f(-1) \ge 0 \\ f(1) \le 0 \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} 2x - 2y + 2 \ge 0 \\ -2x - 2y + 2 \le 0 \end{cases}$$

これを図示すると、左下図の斜線部分となり、③との共通部分をとると、右下図の斜線部分となる。これが求める範囲である、境界も含む。



**金**3より

 $0 \le y^2 \le 1 - x^2$  ∴  $-1 \le x \le 1$  であり、先にxの範囲を絞っておけば、(i)、(ii)の考察は不要である.

#### (別解) 1. (1)の式を

$$y = \frac{t^2}{2} - xt + \frac{1}{2}$$

として、xを固定し、tが $-1 \le t \le 1$ を動くときのyの動く範囲を調べてもよい.

$$g(t) = \frac{t^2}{2} - xt + \frac{1}{2}$$
$$= \frac{1}{2}(t - x)^2 - \frac{x^2}{2} + \frac{1}{2}$$

とおく. ③より  $-1 \le x \le 1$  としてよいから、軸 t = x は定義域  $-1 \le t \le 1$  の範囲にある. よって、y の動く範囲は $g(x) \le y \le \max\{g(-1), g(1)\}$ 

$$\therefore \frac{1-x^2}{2} \le y \le \max\{x+1, -x+1\}$$

であり、これが表す領域は、前段の左図の $-1 \le x \le 1$  の部分である。③との共通部分をとると、前段の右図を得る。

2. 直線族  $2tx+2y-t^2-1=0$  ……④ は  $t^2-2xt-2y+1=0$ 

$$(t-x)^2 - x^2 - 2y + 1 = 0$$

と変形される. ここで、曲線

 $x^2+2y-1=0$  ……⑤ を考えて、④と

⑤を連立すると

 $(t-x)^2=0$   $\therefore$  x=t (重解) よって、④は⑤上の y=-x+1 y=x+1 点  $\left(t,\ \frac{1-t^2}{2}\right)$  にお ける接線である。 t は  $-1 \le t \le 1$  の 範囲を動くから④

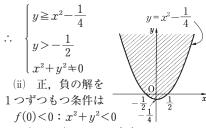
は右図のように動く. ③との共通部分を とると、解答の図を得る.

**63-1** a について整理して、 $a^2 - (2y+1)a + x^2 + y^2 = 0$  これをみたす正の数 a が少なくとも 1 つ存在する条件を調べる.

$$f(a) = a^2 - (2y+1)a + x^2 + y^2$$
  
とおく.

(i) 2つの正の実数解 (重解を含む) をもつ条件は.

| 判別式: 
$$(2y+1)^2 - 4(x^2 + y^2) \ge 0$$
  
|  $f(a)$  のグラフの対称軸:  $\frac{2y+1}{2} > 0$   
|  $f(0) > 0$ :  $x^2 + y^2 > 0$ 



これをみたすx, y は存在しない.

(iii) 0と正の解をもつ条件は、

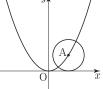
#### 410 演習問題の解答63~66

$$\begin{cases} f(0) = 0: x^2 + y^2 = 0\\ f(a) \text{ のグラフの対称軸}: \frac{2y+1}{2} > 0 \end{cases}$$

$$\therefore x=y=0$$

以上より、円*C*の存在領域を図示すると 前ページの図のようになる. ただし,境 界線上の点を含む.

**63-2** A(t,  $at^2$ ) を中心としx軸に接する円Cの内部を表す不等式は $(x-t)^2+(y-at^2)^2$ 



 $\therefore$   $(1-2ay)t^2-2xt+x^2+y^2<0$ どの円Cの内部にも含まれない点の集合を求めるには、

 $<(at^2)^2$ 

どの t に対しても

 $(1-2ay)t^2-2xt+x^2+y^2 \ge 0$  ……① が成り立つための x, y の条件を求めればよい。

(i) 1-2ay=0 のとき

$$(1) \iff -2xt + x^2 + \left(\frac{1}{2a}\right)^2 \ge 0$$

であるから、条件をみたすx、y は

$$(x, y) = \left(0, \frac{1}{2a}\right)$$
 のみである.

(ii)  $1-2ay \neq 0$  のとき、①の左辺=0 とした 2 次方程式の判別式をDとすると求める条件は

$$\begin{cases} 1-2ay>0\\ D\leq 0 \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} 1-2ay>0\\ x^2-(1-2ay)(x^2+y^2)\leq 0 \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} y<\frac{1}{2a} \quad (\because \quad a>0)\\ -y^2+2ay(x^2+y^2)\leq 0 \end{cases}$$

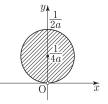
$$\therefore \begin{cases} y<\frac{1}{2a}\\ 2ay\left(x^2+y^2-\frac{y}{2a}\right)\leq 0 \end{cases}$$

$$y > 0, a > 0 \ \ \,$$
  $\downarrow b$ 

$$\begin{cases} 0 < y < \frac{1}{2a} \\ x^2 + \left(y - \frac{1}{4a}\right)^2 \le \left(\frac{1}{4a}\right)^2 \end{cases}$$

となる.

以上(i), (ii)を図示 すると右図の斜線 部分となる. 境界 は原点以外をすべ て含む.

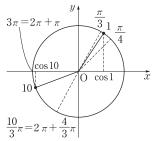


#### 第4章

**64-1**  $\frac{\pi}{4}$ <1< $\frac{\pi}{3}$  より、1は第1象限の角である。

また、
$$3\pi < 10 < \frac{10}{3}\pi = 2\pi + \frac{4}{3}\pi$$
  
より、 $10$  は第  $3$  象限の角である.  
したがって

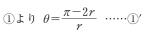
#### ∴ cos10 < cos1



#### (64-2) (1) $l=r\theta$

$$r\theta + 2r = \pi$$
 ·····(1)

$$S = \frac{1}{2}r^2\theta$$
 .....2



これを②に代入して.

$$S = \frac{1}{2}r(\pi - 2r)$$

(3) ①'をみたす $\theta$ が存在するためのrの条件は  $0<\frac{\pi-2r}{\pi}<2\pi$ 

$$\sharp h = \frac{\pi}{2(\pi+1)} < r < \frac{\pi}{2}$$
 .....(2)

(\*)の範囲でSの最大を考えればよい.

$$S = -\left(r - \frac{\pi}{4}\right)^2 + \frac{\pi^2}{16}$$

は  $r=\frac{\pi}{4}$  ((\*)をみたす) のとき最大となり,

$$S = \frac{\pi^2}{16}$$

また、①'と 
$$r=\frac{\pi}{4}$$
 から  $\theta=2$ 

以上より、
$$r=\frac{\pi}{4}$$
、 $\theta=2$ 、 $S=\frac{\pi^2}{16}$ 

(4) 円錐の高さをh, 底面の半径をaとする.

$$2\pi a = r\theta = \frac{\pi}{2} \quad \text{if } n = \frac{1}{4}$$

$$\therefore h = \sqrt{\left(\frac{\pi}{4}\right)^2 - \left(\frac{1}{4}\right)^2}$$

$$= \frac{\sqrt{\pi^2 - 1}}{4}$$

よって、求める円錐の体積は

$$\frac{1}{3} \cdot \pi \left(\frac{1}{4}\right)^2 \cdot \frac{\sqrt{\pi^2 - 1}}{4} = \frac{\pi \sqrt{\pi^2 - 1}}{192}$$

**65** 回転数は無視して、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ 、

$$\frac{3}{2}\pi < \beta < 2\pi$$
 としてよい.

$$\sin \alpha = \frac{3}{5}, \frac{1}{2} < \frac{3}{5} < \frac{\sqrt{2}}{2} \downarrow 0$$

$$\sin\frac{\pi}{6} < \sin\alpha < \sin\frac{\pi}{4}$$

$$\therefore \quad \frac{\pi}{6} < \alpha < \frac{\pi}{4} \qquad \qquad \cdots \cdots \boxed{1}$$

$$\cos \beta = \frac{5}{13}, \ 0 < \frac{5}{13} < \frac{1}{2} \ \sharp \ \emptyset$$

$$\cos\frac{3}{2}\pi < \cos\beta < \cos\frac{5}{3}\pi$$

$$\therefore \quad \frac{3}{2}\pi < \beta < \frac{5}{3}\pi \qquad \qquad \cdots \cdots 2$$

①, ②より 
$$\frac{5}{3}\pi < \alpha + \beta < \frac{23}{12}\pi$$

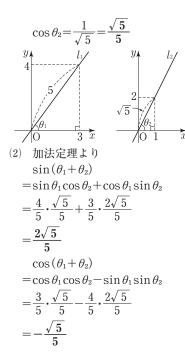
よって、 $\alpha+\beta$ は第4象限の角である.

**66** (1)  $\theta_1$  は直線  $l_1: y = \frac{4}{3}x$  が x 軸と作る鋭角であるから

$$\sin \theta_1 = \frac{4}{5}$$
,  $\cos \theta_1 = \frac{3}{5}$ 

 $\theta_2$  は直線  $l_2$ : y=2x が x 軸と作る鋭角 であるから

$$\sin\theta_2 = \frac{2}{\sqrt{5}} = \frac{2\sqrt{5}}{5}$$



(68) 
$$\tan \theta = t$$
 とおくと、 $\sin 2\theta = \frac{2t}{1+t^2}$  なので 
$$\frac{2t}{1+t^2} = -\frac{4}{5}$$
  $\therefore$   $2t^2 + 5t + 2 = (t+2)(2t+1) = 0$   $\therefore$   $t = -2$ ,  $-\frac{1}{2}$  .....①  $\cos 2\theta = \frac{1-t^2}{1+t^2}$  なので 
$$\frac{1-t^2}{1+t^2} = -\frac{3}{5}$$
  $\therefore$   $3(1+t^2) = -5(1-t^2)$   $\therefore$   $t = \pm 2$  .....② を同時にみたす  $t$  の値は、 $t = -2$ 

よって  $\tan \theta = -2$  (別解)  $\sin 2\theta < 0$ ,  $\cos 2\theta < 0$  より  $2\theta$  は

第3象限の角であり

$$\pi + 2n\pi < 2\theta < \frac{3}{2}\pi + 2n\pi$$
 (n は整数)

$$\frac{\pi}{2} + n\pi < \theta < \frac{3}{4}\pi + n\pi$$

$$\therefore \tan \theta < 0$$

$$\tan 2\theta = \frac{\sin 2\theta}{\cos 2\theta} = \frac{-\frac{4}{5}}{-\frac{3}{5}} = \frac{4}{3}$$

$$- \pi, \tan 2\theta = \frac{2\tan \theta}{1 - \tan^2 \theta} \text{ $\frac{1}{5}$} = \frac{4}{3}$$

$$\therefore \tan \theta = t (<0) \text{ $\frac{1}{5}$} = \frac{4}{3}$$

$$\therefore 2t^2 + 3t - 2 = 0$$

$$\therefore (2t - 1)(t + 2) = 0$$

$$t < 0 \text{ $\frac{1}{5}$} = \frac{4}{3}$$

$$\therefore 2t^2 + 3t - 2 = 0$$

$$\therefore (2t - 1)(t + 2) = 0$$

$$t < 0 \text{ $\frac{1}{5}$} = \frac{4}{3}$$

$$\frac{1}{5} = \frac{1}{5}$$

$$\frac{1}{5} = \frac{4}{3}$$

$$\frac{1}{5} = \frac{1}{5}$$

$$\frac{1}{$$

71 (1) 右辺を加法定理で展開,整理すると

 $2\sin(x+y) \ge \sin 2x + \sin 2y$ 

(等号は x=y のとき成立)

$$y = \frac{3}{2}\cos 2x - \frac{\sqrt{3}}{2}\sin 2x$$

$$= \sqrt{3} \sin\left(2x + \frac{2}{3}\pi\right)$$
$$\therefore \quad a = \sqrt{3}, \quad b = \frac{2}{3}\pi$$

(2) (1)より、求める周期は、  $\frac{2\pi}{2} = \pi$ 

$$\frac{72}{\cos^2\theta + \cos\theta - (1 - \cos^2\theta) = 0}$$

$$\cos^2\theta + \cos\theta - \frac{3}{4} = 0$$

$$\left(\cos\theta - \frac{1}{2}\right) \left(\cos\theta + \frac{3}{2}\right) = 0$$

$$-1 \le \cos\theta \le 1 \quad \text{lift} \quad \cos\theta = \frac{1}{2}$$

$$\text{lift} \quad \cos\theta = \frac{\pi}{3} + 2n\pi \quad (n \text{ lixx})$$

$$(2) \quad (1 - \sin^2\theta) + \sin\theta = \frac{5}{4}$$

$$\sin^2\theta - \sin\theta + \frac{1}{4} = 0$$

$$\left(\sin\theta - \frac{1}{2}\right)^2 = 0 \quad \therefore \quad \sin\theta = \frac{1}{2}$$

$$\text{lift} \quad \frac{5}{6}\pi + 2n\pi \quad (n \text{ lixx})$$

(3)  $1+\sin\theta+\cos\theta+\frac{\sin\theta}{\cos\theta}=0$   $\sin\theta+\cos\theta+\cos\theta(\sin\theta+\cos\theta)=0$   $(\sin\theta+\cos\theta)(1+\cos\theta)=0$  $\therefore \tan\theta=-1, \cos\theta=-1$ 

 $\therefore \tan \theta = -1, \cos \theta = -1$   $(\because \cos \theta = 0)$ 

よって、 $\theta = \frac{3}{4}\pi + n\pi$  または  $\pi + 2n\pi$  (nは整数)

73 (1) 
$$\cos\left(x + \frac{\pi}{3}\right) + \cos x = \sqrt{3}$$
  
 $\therefore 2\cos\left(x + \frac{\pi}{6}\right)\cos\frac{\pi}{6} = \sqrt{3}$   
 $\therefore \cos\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = 1$   $\therefore x + \frac{\pi}{6} = 2n\pi$ 

$$x=-\frac{\pi}{6}+2n\pi(n$$
は整数)

(2) 和を積に直す公式によって両辺を 変形すると

 $2\sin 2x\cos x + \sin 2x$ 

 $=2\cos 2x\cos x + \cos 2x$ 

 $(2\cos x+1)\sin 2x = (2\cos x+1)\cos 2x$  $(2\cos x+1)(\sin 2x - \cos 2x) = 0$ 

 $\therefore 2\cos x + 1 = 0$ 

 $\pm t \sin 2x = \cos 2x$ 

 $2\cos x + 1 = 0$  のとき,  $\cos x = -\frac{1}{2}$ 

$$\therefore x = \pm \frac{2}{3} \pi + 2n\pi (n \text{ は整数})$$

 $\sin 2x = \cos 2x \text{ O } \ge 3$ ,  $\tan 2x = 1$ ( $\because \cos 2x \ne 0$ )

$$\therefore x = \frac{\pi}{8} + \frac{n}{2}\pi (n \text{ は整数})$$

よって、解は  $x=\pm \frac{2}{3}\pi + 2n\pi$ 

### $\frac{\pi}{8} + \frac{n}{2}\pi (n$ は整数)

(3) 与式を変形して,

 $\sqrt{3}\cos x - \sin x = 1 \text{ is } \cos x \neq 0$   $\frac{\sqrt{3}}{2}\cos x - \frac{1}{2}\sin x = \frac{1}{2}$ 

$$\therefore \cos\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = \frac{1}{2}$$

 $0 \le x < 2\pi$  かつ  $\cos x \ne 0$  より

$$x = \frac{\pi}{6}$$

#### 74 (1) 2式を

 $(2\sin x)^2 + (2\cos x)^2 = 4$  に代入して  $3\sin^2 y + (1-\cos y)^2 = 4$ 

 $\therefore 3(1-\cos^2 y)+1-2\cos y+\cos^2 y=4$ 

 $\therefore \cos y (\cos y + 1) = 0$ 

$$\therefore \begin{cases} \cos y = 0 \\ \cos x = \frac{1}{2} \end{cases} \sharp \text{th} \begin{cases} \cos y = -1 \\ \cos x = 1 \end{cases}$$

 $2\sin x = \sqrt{3} \sin y$  に注意して

$$\begin{cases} x = \pm \frac{\pi}{3} + 2m\pi \\ y = \pm \frac{\pi}{2} + 2n\pi \end{cases}$$
 (複号同順)
$$\begin{cases} x = 2m\pi \\ y = (2n+1)\pi \\ (m, n は整数) \end{cases}$$

(2) 第1式は 
$$2\sin\frac{x+y}{2}\cos\frac{x+y}{2}$$

$$=2\sin\frac{x+y}{2}\cos\frac{x-y}{2}$$

$$\therefore 4\sin\frac{x+y}{2}\sin\frac{x}{2}\sin\frac{y}{2} = 0$$
$$x+y=2l\pi, x=2m\pi, y=2n\pi$$

(l, m, n は整数)  $x=2m\pi$  のとき、第2式は

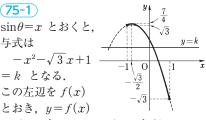
 $\cos y = 1 + \cos y$  で不成立.  $y = 2n\pi$  のと きも同じ.

$$x+y=2l\pi$$
 のとき、第2式より  
 $1=\cos x+\cos(2l\pi-x)$   
 $\cos x=\cos y=\frac{1}{2}$ 

$$\therefore x = \pm \frac{\pi}{3} + 2m'\pi,$$
$$y = \mp \frac{\pi}{2} + 2n'\pi$$

(複号同順、 m'、 n' は整数)

<del>(75-1)</del>  $\sin\theta = x \ \forall \exists \forall \xi$ 与式は  $-x^2 - \sqrt{3}x + 1$ =k となる. この左辺を f(x)



のグラフと y=k のグラフとが  $-1 \le x \le 1$  で交わるような k の範囲を 求めればよい.

$$f(x) = -\left(x + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 + \frac{7}{4}$$

これと上図より  $-\sqrt{3} \leq k \leq \frac{7}{4}$ 

(75-2) 与えられた方程式は2倍角の公 式により

 $1-2\sin^2 x + 4a\sin x + a - 2 = 0$  ···(\*) と変形される.

 $\sin x = X$  とおくと、(\*)は

$$2X^2 - 4aX - a + 1 = 0 \qquad \cdots$$

となる.  $0 \le x \le \pi$  より、①の解が、 0≤*X*<1 においてただ1つの解をもつ

ような a の値を求めればよい (①が

X=1 を解にもつとき  $a=\frac{3}{5}$  である.

このとき、①の解は X=1、 $\frac{1}{5}$  となり、

(\*)は異なる3つの解をもち不適).

- (i) X=0 のとき、①より a=1このとき、①の解は X=0、2. よって、 (\*)の解は、x=0、 $\pi$ となり適する.
- (ii) ①が 0<X<1 に 1 つだけ解を もつ条件は、①の左辺を f(X) とおくと

(7) 
$$f(0)f(1) < 0$$
  
 $\therefore (-a+1)(2-4a-a+1) < 0$   
 $\therefore \frac{3}{5} < a < 1$ 

または

(イ) ①の判別式 D=0 かつ f(x) のグラフの軸の位置: 0 < a < 1 をみたすことである. D=0  $\downarrow b$  $4a^2-2(-a+1)=0$ (2a-1)(a+1)=0 $0 < \alpha < 1 \pm 0$  $a = \frac{1}{2}$ 

(i), (ii) 
$$\sharp$$
 b,  $\alpha = \frac{1}{2}$ ,  $\frac{3}{5} < \alpha \le 1$ 

(2) (i) 
$$0 < x \le \frac{\pi}{2}$$
  $\emptyset \ge \frac{\pi}{2}$   $\sin x > \cos x$   $\sin x - \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x - \frac{\pi}{4}\right) > 0$   $-\frac{\pi}{4} < x - \frac{\pi}{4} \le \frac{\pi}{4}$   $\Rightarrow 0 < x - \frac{\pi}{4} \le \frac{\pi}{4}$   $\Rightarrow \frac{\pi}{4} < x \le \frac{\pi}{2}$ 

(ii) 
$$\frac{\pi}{2} < x < \pi$$
 のとき

$$\sin x > -\cos x$$

$$\sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) > 0$$

$$\frac{3}{4}\pi < x + \frac{\pi}{4} < \frac{5}{4}\pi \quad \text{if } 0$$

$$\frac{3}{4}\pi < x + \frac{\pi}{4} < \pi$$

$$\frac{\pi}{2} < x < \frac{3}{4}\pi$$

(i), (ii)をまとめて

$$\frac{\pi}{4} < x < \frac{3}{4}\pi$$

(3)  $\cos 5x > \cos x$  を変形すると  $-2\sin 3x \sin 2x > 0$ 

$$\therefore \begin{cases} \sin 3x > 0 \\ \sin 2x < 0 \end{cases} \text{ $\sharp \text{th}$ $} \begin{cases} \sin 3x < 0 \\ \sin 2x > 0 \end{cases}$$

 $0 < x < \pi$   $\downarrow$   $\downarrow$ 

 $\begin{cases} 0 < 3x < \pi & \text{it } 2\pi < 3x < 3\pi \\ \pi < 2x < 2\pi \end{cases}$ 

または

$$\begin{cases} \pi < 3x < 2\pi \\ 0 < 2x < \pi \end{cases}$$

$$\therefore \quad \frac{\pi}{3} < x < \frac{\pi}{2}, \quad \frac{2}{3}\pi < x < \pi$$

(4)  $\sin^2 2x + 6 \sin^2 x \le 4$  を変形して  $4 \sin^2 x \cos^2 x + 6 \sin^2 x - 4 \le 0$   $2 \sin^2 x (1 - \sin^2 x) + 3 \sin^2 x - 2 \le 0$   $2 \sin^4 x - 5 \sin^2 x + 2 \ge 0$ 

 $\therefore$   $(2\sin^2 x - 1)(\sin^2 x - 2) \ge 0$ ここで、 $|\sin x| \le 1$  より  $\sin^2 x - 2 < 0$  であるから

$$2\sin^2 x - 1 \le 0$$

$$\therefore -\frac{1}{\sqrt{2}} \le \sin x \le \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$0 \le x \le 2\pi \quad \text{$\downarrow$ } 0$$

$$0 \le x \le \frac{\pi}{4}, \quad \frac{3}{4}\pi \le x \le \frac{5}{4}\pi,$$

$$\frac{7}{4}\pi \le x \le 2\pi$$

77 (1) 
$$y = (1 - \cos^2 x) + \cos x + 1$$
  
=  $-(\cos x - \frac{1}{2})^2 + \frac{9}{4}$ 

 $-1 \le \cos x \le 1$  ゆえ、 $\cos x = \frac{1}{2}$  で最大、 $\cos x = -1$  で最小となる.

## 最大值 $\frac{9}{4}$ ,最小值 0

(2)  $\cos x = X$ ,  $\sin x = Y$  とおくと,  $0 \le x \le \frac{2}{3}\pi$  より, X, Yは

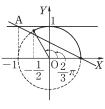
$$X^2 + Y^2 = 1$$
,  $-\frac{1}{2} \le X \le 1$ ,  $Y \ge 0$ 

....(1)

をみたす.

$$-y = \frac{\sin x - 1}{\cos x + 1}$$

 $=\frac{Y-1}{X-(-1)}$ より、-yは点 A(-1, 1)と点 (X, Y)を通る直線の傾きである.



点 (X, Y) は①を みたすので、図より -y のとり得る値の 範囲は

$$\frac{0-1}{1+1} \le -y \le \frac{1-1}{0+1}$$

$$\therefore \quad -\frac{1}{2} \leq -y \leq 0 \qquad \therefore \quad 0 \leq y \leq \frac{1}{2}$$

よって、最小値 0、最大値  $\frac{1}{2}$ 

②解)  $t=\tan\frac{x}{2}$  とおくと,与式は

$$\frac{1-\sin x}{1+\cos x} = \frac{1-\frac{2t}{1+t^2}}{1+\frac{1-t^2}{1+t^2}} = \frac{1}{2}(t-1)^2$$
 0  $\leq x \leq \frac{2}{3}\pi$  より 0  $\leq \frac{x}{2} \leq \frac{\pi}{3}$  であり、 $t$  のとり得る値の範囲は 0  $\leq t \leq \sqrt{3}$ 

よって、
$$f(x) = \frac{1-\sin x}{1+\cos x} = \frac{1}{2}(t-1)^2$$
 は

 $0 \le t \le \sqrt{3}$  の範囲で

$$\begin{cases} t=1 \left(x=\frac{\pi}{2}\right) \text{ のとき, 最小値 0} \\ t=0 (x=0) \text{ のとき, 最大値 } \frac{1}{2} \end{cases}$$

$$\begin{array}{l} (\overline{\textbf{78-1}}) & \sin x + \sin y \\ = 2 \sin \frac{x+y}{2} \cos \frac{x-y}{2} \\ x+y = \frac{2}{3}\pi \text{ is } 0 \\ & \frac{x+y}{2} = \frac{\pi}{3}, \ \frac{x-y}{2} = x - \frac{\pi}{3} \\ & \text{is } 0 \text{ is } 0 \\ & \sin x + \sin y = \sqrt{3} \cos \left(x - \frac{\pi}{3}\right) \end{array}$$

$$\sin x + \sin y = \sqrt{3} \cos \left( x - \frac{\pi}{3} \right)$$
である

 $\sharp \mathcal{L}, \ 0 \leq x \leq \frac{\pi}{2} \ \sharp \ \emptyset,$ 

$$-\frac{\pi}{3} \le x - \frac{\pi}{3} \le \frac{\pi}{6} \text{ is on }$$

$$\sqrt{3} \cos\left(x - \frac{\pi}{2}\right) \ge \frac{\sqrt{3}}{2}$$

(等号は 
$$x-\frac{\pi}{3}=-\frac{\pi}{3}$$
, すなわち  $x=0$  のとき成立)

以上より、最小値は  $\frac{\sqrt{3}}{2}$ 

$$78-2 f(x) = 2\sin^2 x - 4\sin x \cos x + 5\cos^2 x = 1 - \cos 2x - 2\sin 2x + \frac{5}{2}(1 + \cos 2x) = \frac{7}{2} + \frac{3}{2}\cos 2x - 2\sin 2x$$

$$\left[ \left( \frac{3}{2} \right)^2 + (-2)^2 = \frac{25}{4} = \left( \frac{5}{2} \right)^2 \text{ tines} \right]$$
$$= \frac{7}{2} + \frac{5}{2} \cos(2x + \alpha)$$

$$\left[\cos\alpha = \frac{3}{5}, \sin\alpha = \frac{4}{5}\right]$$

よって、f(x) のとり得る値の範囲は

$$\frac{7}{2} - \frac{5}{2} \le f(x) \le \frac{7}{2} + \frac{5}{2}$$
$$1 \le f(x) \le 6$$

これより、最大値6、最小値1

79 (1) 
$$\sin x + \cos x = t$$
 とおくと  $\sin x \cos x = \frac{t^2 - 1}{2}$ 

$$y = (\sin x + \cos x)^{3} - 3\sin x \cos x$$

$$\times (\sin x + \cos x) + 4\sin x \cos x$$

$$= t^{3} + \frac{t^{2} - 1}{2}(-3t + 4)$$

$$= -\frac{1}{2}t^{3} + 2t^{2} + \frac{3}{2}t - 2$$

$$\begin{array}{ccc} (2) & t = \sin x + \cos x \\ & = \sqrt{2} \, \sin \left( x + \frac{\pi}{4} \right) \\ & \& \, \emptyset \, , \quad -\sqrt{2} \le t \le \sqrt{2} \\ & y \, \& \, t \, で微分すると \end{array}$$

$$y' = -\frac{3}{2}t^2 + 4t + \frac{3}{2}$$
$$= -\frac{1}{2}(t-3)(3t+1)$$

よって、増減表は次のようになる.

	,			-	
t	$-\sqrt{2}$		$-\frac{1}{3}$		$\sqrt{2}$
y'		_	0	+	
y	$\frac{4-\sqrt{2}}{2}$	7	$-\frac{61}{27}$	7	$\frac{4+\sqrt{2}}{2}$

これより

最大值  $\frac{4+\sqrt{2}}{2}$ , 最小值  $-\frac{61}{27}$ 

80 △ABC が存在する A
⇔
$$b^2 = a^2 + c^2 - 2ac\cos\theta$$
をみたす  $c$  (>0)
が存在する

を示す.

 $b^2 = a^2 + c^2 - 2ac\cos\theta$  は余弦定理である. ( $\leftarrow$ の証明)

$$b^2 = a^2 + c^2 - 2ac\cos\theta$$

$$\sharp \theta \cos \theta = \frac{a^2 + c^2 - b^2}{2ac}$$

$$0 < \theta < \pi$$
 \$ 0  $-1 < \frac{a^2 + c^2 - b^2}{2ac} < 1$ 

•••••(\$

a>0, b>0, c>0 より, (\*)を変形すると

$$-2ac < a^2 + c^2 - b^2 < 2ac$$

$$\therefore \begin{cases} b^2 < (a+c)^2 \\ (a-c)^2 < b^2 \end{cases}$$

$$\therefore |a-c| < b < a+c$$

よって, *a*, *b*, *c* を 3 辺とする △ABC が存在する.

$$\begin{array}{l} {\bf 81-1} & (1) & \sin A + \sin B + \sin C \\ = 2 \sin \frac{A}{2} \cos \frac{A}{2} \\ & + 2 \sin \frac{B+C}{2} \cos \frac{B-C}{2} \\ & \left[ \frac{B+C}{2} = 90^{\circ} - \frac{A}{2} \ \ \% \ \grave{\lambda} \, \right] \\ = 2 \cos \frac{A}{2} \left( \cos \frac{B+C}{2} + \cos \frac{B-C}{2} \right) \\ = 4 \cos \frac{A}{2} \cos \frac{B}{2} \cos \frac{C}{2} \\ (2) & \sin B + \sin C - \sin A \end{array}$$

$$=2\sin\frac{B+C}{2}\cos\frac{B-C}{2}$$

 $-2\sin\frac{A}{2}\cos\frac{A}{2}$ 

$$=2\cos\frac{A}{2}\left(\cos\frac{B-C}{2}-\cos\frac{B+C}{2}\right)$$

$$=4\cos\frac{A}{2}\sin\frac{B}{2}\sin\frac{C}{2}$$

よって. 与えられた式は

$$4 \cdot \cos^2 \frac{A}{2} \cdot 2 \cos \frac{B}{2} \sin \frac{B}{2} \cdot 2 \cos \frac{C}{2} \sin \frac{C}{2}$$

 $=3\sin B\sin C$ 

 $\therefore 4\cos^2\frac{A}{2}\sin B\sin C = 3\sin B\sin C$ 

 $\sin B > 0$ ,  $\sin C > 0$   $\downarrow b$ 

$$4\cos^2\frac{A}{2} = 3$$

となる.  $0<\frac{A}{2}<90^{\circ}$  に注意すると

$$\cos\frac{A}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

よって、A=60° の三角形

(81-2) 
$$2\cos\frac{A}{2}\cos\frac{B}{2} + 2\cos\frac{C}{2}\cos\frac{D}{2}$$
  
= 2

$$\therefore \cos \frac{A+B}{2} + \cos \frac{A-B}{2} + \cos \frac{C+D}{2} + \cos \frac{C-D}{2} = 2$$

$$\frac{A+B}{2} + \frac{C+D}{2} = 180^{\circ} \text{ $\sharp$ } \text{$\flat$},$$

$$\cos\frac{A+B}{2} + \cos\frac{C+D}{2} = 0$$

$$\cos\frac{A-B}{2} \le 1, \cos\frac{C-D}{2} \le 1 \ \mathcal{C},$$

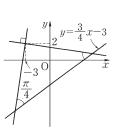
$$\cos \frac{A-B}{2} + \cos \frac{C-D}{2} = 2 \ \ \% \ \grave{\lambda},$$

$$\cos\frac{A-B}{2} = \cos\frac{C-D}{2} = 1$$

$$\therefore$$
  $A=B$ ,  $C=D$  すなわち,  $A=B$  の等脚台形.

82-1 求める 直線は2本ある. その傾きを $m_1$ ,  $m_2(m_1>m_2)$ と すると,  $m_1>\frac{3}{4}$ 

ゆえ, tan の加 法定理より



$$\frac{m_1 - \frac{3}{4}}{1 + \frac{3}{4}m_1} = \tan\frac{\pi}{4}$$

$$\therefore \frac{4m_1-3}{4+3m_1}=1$$

$$m_1=7$$

したがって、 $m_1m_2=-1$  より、

$$m_2 = -\frac{1}{7}$$

ゆえに, 求める直線の方程式は

$$y=7(x+3)+2$$
,  $y=-\frac{1}{7}(x+3)+2$ 

$$\therefore y = 7x + 23, y = -\frac{1}{7}x + \frac{11}{7}$$

**82-2** 絵の上端をA, 下端をB, 眼の位置を Pとする. 絵の真下で, Pと同じ高さの点をO とする.

また  $\angle APO = \alpha$ ,  $\angle BPO = \beta$ ,  $\angle APB = \theta$ , OP = x m とする.

$$\tan \theta = \tan (\alpha - \beta) = \frac{\tan \alpha - \tan \beta}{1 + \tan \alpha \tan \beta}$$
$$\tan \alpha = \frac{3.2}{r}, \ \tan \beta = \frac{1.8}{r}$$

であるから,

$$\tan \theta = \frac{3.2 - 1.8}{x + \frac{3.2 \times 1.8}{x}}$$

である. いま

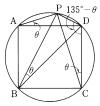
であり、等号成立は  $x = \frac{3.2 \times 1.8}{x}$  から

x=2.4 のときである.

このとき  $\tan\theta$  は最大となり  $\theta$ も最大となる。これより、求める位置は、壁から 2.4 m

(別解) → 研究 と同じようにして解くこともできる。

**83** (1) ∠ABP = 45° − θ, △ABP, △PCD の外接円の 半径は1だから,正 弦定理から



$$\frac{PA}{\sin(45^{\circ} - \theta)}$$

$$= \frac{PB}{\sin(90^\circ + \theta)} = 2,$$

$$\frac{PC}{\sin(135^{\circ} - \theta)} = \frac{PD}{\sin \theta} = 2$$

$$\therefore PA = 2\sin(45^{\circ} - \theta)$$

$$= \sqrt{2}(\cos \theta - \sin \theta)$$

$$PB = 2\sin(90^{\circ} + \theta) = 2\cos\theta$$

$$PC = 2\sin(135^{\circ} - \theta)$$

$$=\sqrt{2}(\cos\theta+\sin\theta)$$

 $PD=2\sin\theta$ 

- (2)  $PA^2 + PB^2 + PC^2 + PD^2$
- $=2(\cos\theta-\sin\theta)^2+4\cos^2\theta$  $+2(\cos\theta+\sin\theta)^2+4\sin^2\theta$
- $=8(\cos^2\theta+\sin^2\theta)=8$
- (3)  $PA^4 + PB^4 + PC^4 + PD^4$
- $=4(\cos\theta-\sin\theta)^4+16\cos^4\theta$  $+4(\cos\theta+\sin\theta)^4+16\sin^4\theta$
- $=24(\cos^4\theta+2\sin^2\theta\cos^2\theta+\sin^4\theta)$
- $=24(\cos^2\theta+\sin^2\theta)^2=24$

**84** (1) OP=OQ ゆえ, OはPQの 垂直二等分線上にあり, それはRSの垂 直二等分線でもあるから,

$$OS = OR$$

よって、△OSR は正三角形.

したがって OS=SR=PQ,

PQ=AB-2PA だから

$$\angle POQ = 60^{\circ} - 2\theta$$

- $\therefore OS=PQ=2\sin(30^{\circ}-\theta)$   $(tetilor, 0^{\circ}<\theta<30^{\circ})$
- (2) PからOAにおろした垂線PHの長さはOP $\sin\theta$ = $\sin\theta$ だから.

 $SP=2\sin\theta$  (::  $\angle PSA=30^{\circ}$ )  $2\pi$ 

□PQRS=RS·SP

= $4\sin(30^{\circ}-\theta)\sin\theta$ = $2\{\cos(30^{\circ}-2\theta)-\cos 30^{\circ}\}\le 2-\sqrt{3}$ 等号は  $30^{\circ}-2\theta=0$ , すなわち  $\theta=15^{\circ}$ のとき.

これより、 $\theta$ = $15^\circ$  のとき、面積は最大値 $2-\sqrt{3}$  をとる。

### 第5章

**85** (1)

(i) 
$$\frac{2^{3x} + 2^{-3x}}{2^x + 2^{-x}} = \frac{2^{6x} + 1}{2^{2x}(2^{2x} + 1)}$$
$$= \frac{3^3 + 1}{3(3+1)} = \frac{28}{3 \cdot 4} = \frac{7}{3}$$

(別解) 
$$\frac{2^{3x} + 2^{-3x}}{2^x + 2^{-x}} = 2^{2x} - 2^x \cdot 2^{-x} + 2^{-2x}$$
$$= 3 - 1 + \frac{1}{3} = \frac{7}{3}$$

(ii) 
$$\log_{3\sqrt{3}} 81\sqrt{3} = \frac{\log_3 3^4 \cdot 3^{\frac{1}{2}}}{\log_3 3 \cdot 3^{\frac{1}{2}}}$$

$$=\frac{9}{2} \div \frac{3}{2} = 3$$

(iii) 
$$-\log_2(\sqrt{2}+1) = \log_2(\sqrt{2}+1)^{-1}$$
  
=  $\log_2 \frac{1}{\sqrt{2}+1} = \log_2(\sqrt{2}-1)$ 

$$\therefore 2^{-\log_2(\sqrt{2}+1)} = 2^{\log_2(\sqrt{2}-1)} = \sqrt{2} - 1$$

(iv) 
$$(\log_2 3 + \log_8 3)(\log_3 2 + \log_9 2)$$
  
 $= \left(\frac{\log 3}{\log 2} + \frac{\log 3}{3\log 2}\right) \left(\frac{\log 2}{\log 3} + \frac{\log 2}{2\log 3}\right)$   
(底は 10 とし、省略する)  
 $= \frac{\log 3}{\log 2} \cdot \frac{\log 2}{\log 3} \left(1 + \frac{1}{3}\right) \left(1 + \frac{1}{2}\right)$ 

$$= \frac{4}{3} \cdot \frac{3}{2} = 2$$
(2)  $3^x = 5^y = a$  から  $x \log 3 = y \log 5 = \log a$  (底は 10 とし、省略する)

第2式が成立することから  $x \neq 0$ ,  $y \neq 0$  であり,  $\log a \neq 0$  であるから

$$\frac{1}{x} = \frac{\log 3}{\log a}, \quad \frac{1}{y} = \frac{\log 5}{\log a}$$

これらを第2式に代入して

$$\frac{\log 3}{\log a} + \frac{\log 5}{\log a} = 2$$

$$\therefore 2\log a = \log 3 + \log 5 = \log 15$$

$$\therefore \log a = \log \sqrt{15} \qquad \therefore \quad a = \sqrt{15}$$

86 (1) 
$$2^{x+2}-2^{-x}+3=0$$
  
 $4 \cdot (2^x)^2 + 3 \cdot 2^x - 1 = 0$   
 $(2^x+1)(4 \cdot 2^x-1) = 0$ 

$$2^{x} > 0$$
 \$\( \text{l} \) ,  $2^{x} = 2^{-2}$   
\$\therefore \quad x = -2\$

このとき, 与式は

$$\log_{10}(x+3)(x-6) = \log_{10}10$$

$$(x+3)(x-6)=10$$

$$x^2-3x-28=0$$

$$(x-7)(x+4)=0$$

x > 6  $\emptyset$   $\lambda$ , x = 7

(3) 
$$x^{2\log_{10}x} = \frac{1}{100}x^5$$
 .....(1)

真数は正ゆえ,x>0

このとき、①の両辺の10を底とする対数をとって

$$2(\log_{10} x)^2 = 5\log_{10} x - 2$$

$$\therefore$$
  $(2\log_{10}x-1)(\log_{10}x-2)=0$ 

$$\therefore \log_{10} x = \frac{1}{2}, 2$$

$$\therefore x = \sqrt{10}, 100$$

これは x>0 をみたす.

(4) 
$$3^x = X$$
,  $3^y = Y$  とおくと, 2式は  $X - Y = 18$ .  $XY = 3^5$ 

$$Y=X-18$$
 を  $XY=3^5$  に代入して

$$X^2 - 18X - 3^5 = 0$$

$$(X+9)(X-27)=0$$

87 (1) 
$$(2^x)^2 - 4 \le 2(4 \cdot 2^x - 8)$$
  
 $(2^x)^2 - 8 \cdot 2^x + 12 \le 0$ 

$$(2^x-2)(2^x-6) \le 0$$

$$\therefore 2 \leq 2^x \leq 6$$

$$1 \le x \le \log_2 6$$

 $(2) \quad \log_2 x + \log_2(x-1) \le 1$ 

真数>0 ゆえ, x>1

このとき, 与式は

$$\log_2 x(x-1) \le \log_2 2$$

$$\therefore x(x-1) \leq 2$$

$$\therefore (x-2)(x+1) \leq 0$$

 $x+1>0 \ \emptyset \ \lambda, \ x\leq 2$ 

$$\therefore 1 < x \le 2$$

(3) 
$$\log_{\frac{1}{2}} x^2 < (\log_{\frac{1}{2}} x)^2$$

真数>0 ゆえ, x>0

このとき, 与式は

$$2\log_{\frac{1}{2}}x < (\log_{\frac{1}{2}}x)^2$$

$$\log_{\frac{1}{2}} x (\log_{\frac{1}{2}} x - 2) > 0$$

$$\log_{\frac{1}{2}} x < 0$$
,  $\log_{\frac{1}{2}} x > 2$ 

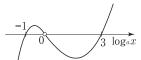
$$\therefore x > 1, 0 < x < \frac{1}{4}$$

(4) x, a はともに真数でともに底だから, x>0, x=1; a>0, a=1 このとき, 与式の底をa にそろえると

$$\log_a x - \frac{3}{\log_a x} > 2$$

$$\therefore \frac{(\log_a x + 1)(\log_a x - 3)}{\log_a x} > 0$$

$$\therefore \log_a x(\log_a x + 1)(\log_a x - 3) > 0$$



$$\therefore$$
  $-1 < \log_a x < 0$ ,  $3 < \log_a x$ 

$$\therefore \log_a \frac{1}{a} < \log_a x < \log_a 1,$$

 $\log_a a^3 < \log_a x$ 

ゆえに

$$1 < x < \frac{1}{\alpha}, \ 0 < x < \alpha^3$$

$$a>1$$
 のとき、 $\frac{1}{a}< x<1$ 、 $a^3< x$ 

(5) 真数>0 ゆえ,

x>0 かつ  $\log_2 x-1>0$ 

$$\therefore x>2$$

このとき、与式は

 $\log_9(\log_2 x - 1) \le \log_9 9^{\frac{1}{2}} \sharp \emptyset$ 

$$\log_2 x - 1 \leq 3$$

$$\log_2 x \leq 4$$

$$\therefore x \leq 2^4 = 16$$

$$\therefore 2 < x \le 16$$

88  $1 < a < b < a^2$  より、底a の対数 をとると  $1 < \log_a b < 2$  このとき

$$\log_b a = \frac{1}{\log_a b} \sharp b$$

$$\frac{1}{2} < \log_b a < 1$$

$$\log_a \frac{a}{b} = 1 - \log_a b \ \sharp \ \emptyset$$

$$-1 < \log_a \frac{a}{b} < 0$$

$$\log_b \frac{b}{a} = 1 - \frac{1}{\log_a b} \sharp \emptyset$$

$$0 < \log_b \frac{b}{a} < \frac{1}{2}$$

$$\therefore \log_a \frac{a}{b} < \log_b \frac{b}{a} < \log_b a < \log_a b$$

<mark>90-1</mark> 29<sup>100</sup> は 147 桁なので 146≦log<sub>10</sub>29<sup>100</sup><147

 $\therefore 1.46 \le \log_{10} 29 < 1.47$ 

 $33.58 \le \log_{10} 29^{23} < 33.81$ 

よって、2923は34桁

$$90-2 \quad 1.25 = \frac{5}{4} = \frac{10}{2^3}$$

$$\therefore \log_{10}(1.25)^n = n(1 - 3\log_{10}2) 
= n(1 - 3 \times 0.3010) 
= n \times 0.0970$$

(1.25)<sup>n</sup> の整数部分が3桁となるのは

$$2 \le n \times 0.097 < 3$$
  $\therefore \frac{2}{0.097} \le n < \frac{3}{0.097}$ 

 $\therefore 20.6 \dots \leq n < 30.9 \dots$ 

よって、nは整数なので  $21 \le n \le 30$ 

$$(90-3)$$
 6.25=25÷4=10<sup>2</sup>×2<sup>-4</sup>

$$\log_{10}(6.25)^n = n(2 - 4\log_{10}2)$$

$$= n(2 - 4 \times 0.3010)$$

$$= n \times 0.796$$

 $(6.25)^n$  の整数部分が 6 桁ゆえ,  $5 \le n \times 0.796 < 6$ 

 $\therefore$  6.2 < n < 7.5

nは自然数なので、n=7 である.

$$\left(\frac{1}{8}\right)^7 = 2^{-21}$$

$$\log_{10}\left(\frac{1}{8}\right)^7 = -21 \times 0.3010$$

=-7+0.679

よって、 $\left(\frac{1}{8}\right)^7$ は小数第7位に初めて0でない数字が現れる。

(90-4) (1) 
$$x = \left(\frac{6}{7}\right)^{50}$$
 とおく.

$$\begin{array}{l} \log_{10} x = 50(\log_{10} 2 + \log_{10} 3 - \log_{10} 7) \\ = 50(0.3010 + 0.4771 - 0.8451) \\ = -3.35 = -4 + 0.65 \end{array}$$

よって,**小数第4位**に初めて0でない数字が現れる.

(2) 
$$\log_{10} 5 = \log_{10} \frac{10}{2} = 1 - 0.3010 = 0.6990,$$

$$\log_{10} 4 = 2 \times 0.3010 = 0.6020$$

$$\log_{10} 4 < 0.65 < \log_{10} 5$$

よって、小数第4位に現れる数字は4

#### 第6章

91-1 (1) 
$$\frac{2x^2-x-1}{x^2+2x-3}$$

$$= \frac{(x-1)(2x+1)}{(x-1)(x+3)} = \frac{2x+1}{x+3} \to \frac{3}{4} (x \to 1)$$
(2)  $\frac{\sqrt{x^2-x+1}-(x+1)}{x}$ 

$$= \frac{(x^2-x+1)-(x+1)^2}{x(\sqrt{x^2-x+1}+x+1)}$$

$$= \frac{-3}{\sqrt{x^2-x+1}+x+1}$$

$$\to -\frac{3}{2} (x \to 0)$$
(3)  $x^3(\sqrt{x^2+\sqrt{x^4+1}}-\sqrt{2}x)$ 

$$= \frac{x^3(x^2+\sqrt{x^4+1}-2x^2)}{\sqrt{x^2+\sqrt{x^4+1}}+\sqrt{2}x}$$

$$= \frac{x^3(\sqrt{x^4+1}-x^2)}{\sqrt{x^2+\sqrt{x^4+1}}+\sqrt{2}x}$$

$$= \frac{x^3(x^4+1-x^4)}{(\sqrt{x^2+\sqrt{x^4+1}}+\sqrt{2}x)(\sqrt{x^4+1}+x^2)}$$

$$= \frac{1}{(\sqrt{1+\sqrt{1+\frac{1}{x^4}}}+\sqrt{2})(\sqrt{1+\frac{1}{x^4}}+1)}$$

$$\to \frac{1}{4\sqrt{2}} (x \to \infty)$$
(91-2) 与武が成立するためには  $\lim_{x\to 1} (x^3+3ax^2+b)=0$ 
 $\therefore b=-3a-1$   $\dots$ ①
であることが必要、①のとき
た辺= $\lim_{x\to 1} \frac{x^3+3ax^2-3a-1}{x-1}$ 

(91-3) 第1式が成立するためには.  $\lim_{x \to a} (ax^3 + bx^2 + cx + d) = 0$  $\therefore a+b+c+d=0 \cdots (1)$ であることが必要. ①のとき、第1式の左辺  $= \lim_{x \to 1} \frac{a(x^3 - 1) + b(x^2 - 1) + c(x - 1)}{(x + 2)(x - 1)}$  $=\frac{3a+2b+c}{3}$  $\therefore \quad \frac{3a+2b+c}{3} = 1$ 同様にして、第2式から -8a+4b-2c+d=0であることが必要で  $\frac{12a-4b+c}{-3}=4$ .....(4) 与えられた条件は、①かつ③のもとで、 ②かつ④であることと同値である。すな わち. ①. ②. ③. ④を連立させて. a=-1, b=1, c=4, d=-492-1  $f(x)=x^3$   $\downarrow h$   $f'(x)=3x^2$  $\lim_{h \to 0} \frac{f(1+2h)-f(1)}{h}$  $=\lim_{h\to 0} \frac{f(1+2h)-f(1)}{2h} \times 2$  $= f'(1) \times 2 \quad (:: h \to 0 \text{ or } \geq 2h \to 0)$  $=3 \times 2 = 6$ 92-2  $\lim_{h\to 0} \frac{f(a+2h)-f(a-3h)}{h}$  $= \lim_{h \to 0} \frac{f(a+2h) - f(a)}{h}$  $+\lim_{h\to 0}\frac{f(a)-f(a-3h)}{h}$  $= \lim_{h \to 0} \frac{2\{f(a+2h) - f(a)\}}{2h}$  $+\lim_{h\to 0} \frac{3\{f(a-3h)-f(a)\}}{-3h}$ =2f'(a)+3f'(a) $(: h \to 0 \text{ Obs } 2h \to 0, -3h \to 0)$ =5 f'(a) = 5b

92-3 
$$F(x)=af(x)-xf(a)$$
,  $G(x)=ag(x)-xg(a)$  とおく.  $F(a)=0$ ,  $G(a)=0$  また  $G'(a)=ag'(a)-g(a) = 0$  なので  $\lim_{x \to a} \frac{F(x)}{G(x)}$   $=\lim_{x \to a} \frac{\{F(x)-F(a)\} \div (x-a)}{\{G(x)-G(a)\} \div (x-a)} = \frac{F'(a)}{G'(a)}$   $=\frac{af'(a)-f(a)}{ag'(a)-g(a)}$  この結果は数学皿でロピタルの定理として一般化される.

94 (1) f(x) を  $(x-1)^2$  で割った商を g(x) とすると、余りは1次以下だから。

$$f(x)=(x-1)^2g(x)+p(x-1)+q$$
 .....(1)

とおくことができる.

これをxで微分して

$$f'(x) = 2(x-1)g(x) + (x-1)^2 g'(x) + p$$
  
.....(2

①, ②から f(1)=q, f'(1)=p よって, f(x) を  $(x-1)^2$  で割った余りは

$$f'(1)(x-1)+f(1)$$

は, f(x) は  $(x-1)^2$  で割り切れることが必要である。それは(1)から

$$\mathop{\,{\rm \hat{p}}}\nolimits = 0: f'(1)(x-1) + f(1) = 0$$

$$\therefore f'(1)=0 かつ f(1)=0$$

と言い換えられる.

$$f(1)=0: a+b+c+4=0$$
 .....3

$$f'(1)=0:5a+4b+c=0$$
 ......

このとき, ①は

$$f(x) = (x-1)^2 g(x)$$

であり,

$$L = \lim_{x \to 1} g(x) = g(1)$$

②から

$$f''(x)=2g(x)+4(x-1)g'(x) + (x-1)^2g''(x)$$

与えられた条件は③, ④のもとで⑤であることと同値であるから,

③, ④, ⑤を解いて

$$a = -2, b = 4, c = -6$$

よって, x=t における接線は  $y=(3t^2+2t)(x-t)+t^3+t^2-1$ 

$$y = (3t^2 + 2t)x - 2t^3 - t^2 - 1$$

これが原点を通る条件は

$$2t^3+t^2+1=0$$

$$(t+1)(2t^2-t+1)=0$$

t は実数ゆえ,t=-1

よって、求める直線は y=x

(2) y'=2x より,  $y=x^2$  の x=t に おける接線は

 $y=2t(x-t)+t^2$  ∴  $y=2tx-t^2$ これが、(1, 1) における接線と直交する 条件は

$$2t \cdot (y')_{x=1} = 4t = -1$$
 :  $t = -\frac{1}{4}$ 

よって、求める直線の方程式は

$$y = -\frac{1}{2}x - \frac{1}{16}$$

( ) 別解) 先に傾きを求めて、判別式を利用して y 切片を決めてもよい。

**96** 2 曲線 y=f(x), y=g(x) が x=t で接線を共有するとすれば

$$\begin{cases} f(t) = g(t) \\ f'(t) = g'(t) \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} t^3 - 3t^2 + 3t + 2 = t^2 - kt + 4 \\ 3t^2 - 6t + 3 = 2t - k \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} t^3 - 4t^2 + 3t - 2 = -kt & \cdots \\ k = -3t^2 + 8t - 3 & \cdots \\ \end{cases}$$

①, ②より

$$t^3 - 4t^2 + 3t - 2 = t(3t^2 - 8t + 3)$$

$$t^3-2t^2+1=0$$

$$(t-1)(t^2-t-1)=0$$

$$\therefore t=1, \frac{1\pm\sqrt{5}}{2}$$

ゆえに、②から、

$$t=1$$
 のとき、 $k=2$ 

$$t=\frac{1\pm\sqrt{5}}{2}$$
 のとき

$$k = -3(t^{2} - t - 1) + 5t - 6$$

$$= 5 \cdot \frac{1 \pm \sqrt{5}}{2} - 6 = \frac{-7 \pm 5\sqrt{5}}{2}$$

$$\therefore k = 2, \frac{-7 \pm 5\sqrt{5}}{2}$$

97 (1)  $y = x^3 - ax$ 

点 $P(c, c^3-ac)$  における①の接線 $T_P$ の方程式は

$$y=(3c^2-a)(x-c)+(c^3-ac)$$
  
∴  $y=(3c^2-a)x-2c^3$  ······2

②を連立して

$$x^3 - 3c^2x + 2c^3 = 0$$

$$\therefore (x-c)^2(x+2c)=0$$

$$\therefore x=c, -2c$$

c=-2c のとき、c=0 で Q=P.

 $c \neq -2c$  のとき、Q $\neq$ P で

$$Q(-2c, -8c^3 + 2ac)$$

以上より  $Q(-2c, -8c^3+2ac)$ 

(2) 題意より Q $\neq$ P で  $c\neq$ 0. 点Qに おける①の接線 To の傾きは

$$3(-2c)^2 - a = 12c^2 - a$$

よって.

 $T_P \perp T_0 \iff (3c^2 - a)(12c^2 - a) = -1$ 

 $\therefore 36c^4 - 15ac^2 + a^2 + 1 = 0 \quad \cdots \quad (3)$ 

 $c^2 = t$  とおくと、t > 0 で③は

$$36t^2 - 15at + a^2 + 1 = 0$$
 .....

④の判別式を D とすれば

$$D=9(9a^2-16)$$

また、④の2つの解の積は正なので、④ は0を解にもたない。④の異なる正の解 の個数は

 $a \le 0$  または D < 0 のとき 0個

a>0. D=0 のとき

1個

a>0. D>0 のとき

2個

よって、③の異なる実数解の個数、すな わち、求める点Pの個数は

$$\left( lpha \! < \! rac{4}{3} 
ight.$$
 のとき  $0$  個

$$\left\{\alpha = \frac{4}{3} \text{ のとき } 2$$
 個

$$a>\frac{4}{3}$$
 のとき 4個

98 
$$C: y = x^2$$
 ..... 1  $y' = 2x$ 

点  $A(a, a^2)$  において、曲線 C の接線と 直交する直線の方程式は

$$2a(y-a^2) = -(x-a)$$

これと①を連立して

$$2a(x^2-a^2)=-(x-a)$$

$$(x-a)(2ax+2a^2+1)=0$$

$$\therefore b = -\frac{2a^2+1}{2a} (a \neq 0) \quad \cdots \quad (2)$$

(1) a=1 のとき

$$b = -\frac{3}{2}$$

このとき、 直線 AB の傾きを m. 点Bにおける接線

の傾きを m'とす

$$m = -\frac{1}{2}, m' = -3$$

$$\therefore \tan \theta = \left| \frac{m - m'}{1 + mm'} \right|$$

$$= \left| \frac{-\frac{1}{2} - (-3)}{1 + \left(-\frac{1}{2}\right)(-3)} \right| = 1$$

(2) ②から

$$|b| = \frac{2a^2 + 1}{2|a|} = |a| + \frac{1}{2|a|}$$
$$\ge 2\sqrt{|a| \cdot \frac{1}{2|a|}} = \sqrt{2}$$

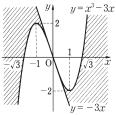
等号は  $|a|=\frac{1}{2|a|}$  すなわち、 $2a^2=1$  ゆえに、 $a=\pm\frac{1}{\sqrt{2}}$  のとき成り立つから、 $b=\mp\sqrt{2}$  のとき |b| は最小である. このとき  $m=\mp\frac{1}{\sqrt{2}}$ 、 $m'=\mp2\sqrt{2}$  (複号同順)

$$\therefore \tan \theta = \left| \frac{m - m'}{1 + mm'} \right| = \frac{2\sqrt{2} - \frac{1}{\sqrt{2}}}{1 + 2}$$
$$= \frac{3}{3\sqrt{2}} = \sqrt{\frac{1}{2}}$$

99 曲線上の点 $(t, t^3-3t)$  における接線は

$$y=(3t^2-3)(x-t)+t^3-3t$$
 $\therefore y=3(t^2-1)x-2t^3$ 
これが点  $(a, b)$  を通るための条件は、
 $b=3(t^2-1)a-2t^3$ 
 $\therefore 2t^3-3at^2+3a+b=0$  ……①

3次関数のグラフでは、接点が 異なれば接線も 異なるので、点 (*a*, *b*) から曲線 に3本の接線が ひけるためには



①が異なる3つの実数解をもつことが必要十分.

そこで、①の左辺を f(t) とおくと  $f'(t)=6t^2-6at=6t(t-a)$ 

極値が異符号である条件を求めればよく, それは

$$f(0)f(a) < 0$$
  
∴  $(3a+b)(-a^3+3a+b) < 0$   
よって、求める存在範囲は  
 $(3x+y)(y-x^3+3x) < 0$   
であり、図の斜線部分となる。ただし、  
境界は含まず、 $y=-3x$  は

 $y=x^3-3x$  に原点 (変曲点) で接する.

100  $(x+2)^2$ ,  $(x-2)^2$  で f(x) を 割ったときの等しい余りを ax+b とおくと, f(x)-ax-b は,  $x^4$  の係数が 1 の 4 次式で,  $(x+2)^2$ ,  $(x-2)^2$  で割り切れる. したがって

$$f(x)-ax-b=(x+2)^2(x-2)^2$$

$$f(x)=(x+2)^2(x-2)^2+ax+b$$

$$f'(x) = 2(x+2)(x-2)^2 + (x+2)^2 \cdot 2(x-2) + a$$

$$f(x)$$
 が  $(x-1)^2$  で割り切れる条件は

$$f(1) = f'(1) = 0$$

$$\therefore \begin{cases} 9+a+b=0 \\ 6-18+a=0 \end{cases}$$

$$\therefore$$
  $a=12$ ,  $b=-21$ 

∴  $f(x)=(x+2)^2(x-2)^2+12x-21$ 直線 y=12x-21 は、曲線 y=f(x) と x=-2、 x=2 で接するから、求める直 線は y=12x-21

101  $f'(x) = 3ax^2 - 2x + (a-2)$  これが負にならない条件を求めればよい. それは

$$a>0$$
 ·····①  $\Rightarrow$ 

判別式 $\leq 0: 1-3a(a-2)\leq 0$  ·····②

②を整理して

$$3a^2 - 6a - 1 \ge 0$$

$$\therefore \left(a - \frac{3 + 2\sqrt{3}}{3}\right) \left(a - \frac{3 - 2\sqrt{3}}{3}\right) \ge 0$$

①とあわせると、求める条件は

$$a \ge \frac{3 + 2\sqrt{3}}{3}$$

 $\begin{array}{ll} ( \boxed{ 02-1 }) & y = x^4 - 4(a-1)x^3 + 2(a^2-1)x^2 \\ & y' = 4x^3 - 12(a-1)x^2 + 4(a^2-1)x \\ & = 4x\{x^2 - 3(a-1)x + (a^2-1)\} \end{array}$ 

y' の符号が正から負に変わるxが存在するためのaの条件を求める. xが十分小さいときは負,十分大きいときは正だから,y' が異なる3つのxで0になることが必要十分である. そのためには,2次方程式

$$x^2-3(a-1)x+(a^2-1)=0$$
が  $0$  でない、かつ、たがいに異なる  $2$  つの実数解をもつ条件を求めればよい.この条件は 判別式> $0$  である.

判別式=
$$9(a-1)^2-4(a^2-1)$$
  
= $(a-1)\{9(a-1)-4(a+1)\}$   
= $(a-1)(5a-13)$ 

なので、a < 1 または  $\frac{13}{5} < a$  である. これと  $a^2 - 1 \neq 0$  から、

$$a < -1, -1 < a < 1, \frac{13}{5} < a$$

**102-2** 
$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{1}{3}ax^3 + \frac{1}{2}bx^2 + 2x$$

 $f'(x)=x^3+ax^2+bx+2$  ……① f(x) は x=-2 で極値をとるから f'(-2)=0. さらに, f(x) は f'(c)=0 (c = -2) であるが x=c では極値をとらないから

$$f'(x) = (x+2)(x-c)^{2}$$

$$= x^{3} + (2-2c)x^{2} + (c^{2}-4c)x + 2c^{2}$$
.....(2)

# ①, ②の係数を比較して a=2-2c, $b=c^2-4c$ , $2=2c^2$ 以上より, c=1 のとき, a=0, b=-3 c=-1 のとき, a=4, b=5

103-1) 
$$f(x)=x^3+ax^2+2x-2a$$
  
 $f'(x)=3x^2+2ax+2$  より、 $f(x)$   
が 2 つの異なる極値をもつ条件は  
 $f'(x)=0$  の 判別式>0  
 $a^2-6>0$  ……①

である.

f(x) を f'(x) で割ると,

$$f(x) = f'(x) \left( \frac{x}{3} + \frac{a}{9} \right) + \frac{2(6-a^2)}{9} x - \frac{20a}{9}$$

ここで、f'(x)=0 の解を  $\alpha$ 、 $\beta$  とすれば、 $\alpha+\beta=-\frac{2a}{3}$ 、 $f'(\alpha)=f'(\beta)=0$  ゆえ、

$$f(\alpha) + f(\beta) = \frac{2(6-a^2)}{9} (\alpha + \beta) - \frac{40a}{9}$$
$$= -\frac{4}{27}a(6-a^2) - \frac{40}{9}a$$
$$= -\frac{4}{27}a(36-a^2)$$

 $f(\alpha)+f(\beta)=0$  となる条件は、①とあわせると  $a=\pm 6$ 

①3-2 
$$f(x)=3x^3+ax^2+bx+c$$
  
 $f'(x)=9x^2+2ax+b$   
 $\alpha$ ,  $\beta$ は  $f'(x)=0$  の異なる2つの実数  
解であるから

$$a^2-9b>0$$
  
である。このとき,条件(1)より  $\frac{\alpha+\beta}{2}=0$ ,  $\frac{f(\alpha)+f(\beta)}{2}=1$ 

∴ 
$$a=0$$
,  $f(\alpha)+f(\beta)=2$   
このとき,

$$f(x)=3x^3+bx+c$$
 (b<0)  
であり、 $f(x)$ を

$$f'(x)=9x^2+b$$
 で割ると

$$f(x) = f'(x) \cdot \frac{x}{3} + \left(\frac{2b}{3}x + c\right)$$

$$\therefore f(\alpha) + f(\beta) = \frac{2b}{3}(\alpha + \beta) + 2c$$

であり、2c=2

$$b < 0$$
 より  $\alpha < \beta$  とすれば

$$\alpha = -\frac{\sqrt{-b}}{3}, \ \beta = \frac{\sqrt{-b}}{3}$$

ゆえ, 条件(2)と

$$|f(\alpha) - f(\beta)| = \left| \frac{2b}{3} (\alpha - \beta) \right|$$
$$= \left| -\frac{4b}{9} \sqrt{-b} \right|$$
$$= \frac{4}{9} (\sqrt{-b})^3$$

から

$$\frac{4}{9}\sqrt{(-b)^3} = \frac{4}{9}$$

$$\therefore b = -1$$

$$a = 0, b = -1, c = 1$$

**103-3** (1)  $\alpha$ ,  $\beta$  は極値を与える x の 値だから.

$$f'(x) = 0$$

$$\therefore 3x^2+2ax+b=0$$

の2つの解である. 解と係数の関係から

$$\alpha + \beta = -\frac{2a}{3}$$
,  $\alpha\beta = \frac{b}{3}$ 

$$\therefore a = -\frac{3}{2}(\alpha + \beta), b = 3\alpha\beta$$

(2)  $f(\gamma)=f(\alpha)=k$  とおくと, 方程式 f(x)-k=0 は  $x=\alpha$  を重解,  $\gamma$  を他の解としてもち, f(x) の  $x^3$  の係数は 1 だから

$$f(x)-k=(x-\alpha)^2(x-\gamma)$$

$$\therefore f'(x)=2(x-\alpha)(x-\gamma)+(x-\alpha)^2$$

$$=(x-\alpha)(3x-2\gamma-\alpha)$$

 $f'(\beta) = 0$  で  $\alpha \neq \beta$  ゆえ、 $3\beta = 2\gamma + \alpha$ 

$$\therefore 2(\gamma - \beta) = \beta - \alpha$$

$$\therefore \quad (\gamma - \beta) : (\beta - \alpha) = 1 : 2$$

104 (1)  $f(x)=3x^2-ax^3$  より、  $f'(x)=6x-3ax^2=3x(2-ax)$   $a \le 0$  のとき、 $f'(x)\ge 0$  (0  $\le x \le 2$ ) より、最小値 f(0)=0 となり不適.

 $0 < a \le 1$  のとき,  $\frac{2}{a} \ge 2$  ゆえ,

$$f'(x) = 3ax \left(\frac{2}{a} - x\right) \ge 0 \ (0 \le x \le 2)$$
 で、  
やはり最小値  $f(0) = 0$  となり不適.

a > 1  $0 \ge 3$ ,  $0 < \frac{2}{a} < 2$  1 1 1 1

$$\begin{array}{c|ccccc} x & 0 & \cdots & \frac{2}{a} & \cdots & 2 \\ \hline f'(x) & + & 0 & - & \\ \hline f(x) & 0 & 2 & & \searrow \\ \hline \end{array}$$

上の表のように増減するから、最小値が -4である条件は

$$f(2) = -4$$

$$\therefore 12 - 8a = -4$$

$$\therefore a=2 (a>1 \ \epsilon \lambda t + t)$$

(2) (1)より、 $f(x)=3x^2-2x^3$  の最大値 M は

$$f\left(\frac{2}{a}\right) = f(1) = 1$$

105 y = f(x) のグラフは次図の破線のようになり

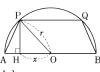
$$t \le x \le t+1$$
 ( $-3 \le t \le 3$ ) における  $f(x)$  の最大値  $g(t)$  は  $-3 \le t \le -1$  のとき;  $g(t) = f(t+1)$   $t \le 0 \le t+1$  すなわち

 $-1 \le t \le 0$  のとき;

$$g(t) = f(0) = 36$$

 $0 \le t \le 2$  のとき;g(t) = f(t)2  $\le t \le 3$  のとき;g(t) = f(t+1)ゆえに, $s = g(t) (-3 \le t \le 3)$  のグラフ は図における太実線である.

106 ABの中 点をOとし、Pか ら ABに下ろした 垂線の足を H と



する. OH=x とおくと

 $PH = \sqrt{r^2 - x^2}$ , PQ = 2x (0 < x < r) ゆえに、台形 ABQP の面積 S は

$$S = \frac{1}{2} (2x+2r)\sqrt{r^2 - x^2}$$

$$= \sqrt{(x+r)^2(r^2 - x^2)}$$

$$f(x) = (x+r)^2(r^2 - x^2)$$
 とおけば
$$f'(x) = 2(x+r)(r^2 - x^2) - 2x(x+r)^2$$

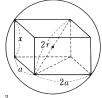
$$= 2(x+r)^2(r-2x)$$

	- (-		/ (-		/
$\boldsymbol{x}$	(0)		$\frac{r}{2}$		(r)
f'(x)		+	0	_	
f(x)		7		7	

増減表より、求める最大値は

$$\sqrt{f\left(\frac{r}{2}\right)} = \frac{3}{2}r\sqrt{\frac{3r^2}{4}} = \frac{3\sqrt{3}}{4}r^2$$

107 (1) 長方 形の2辺をa, 2a とおくと, 右図か ら (2r)<sup>2</sup>



$$(2r)^2 = (2a)^2 + a^2 + x^2$$

$$\therefore \quad a^2 = \frac{4r^2 - x^2}{5} \quad \cdots \quad \boxed{1}$$

: 
$$V = 2a^2x = \frac{2(4r^2 - x^2)x}{5}$$

(2) 
$$V' = \frac{2(4r^2 - 3x^2)}{5}$$

①より、0 < x < 2r V の増減表をつくると.

$\boldsymbol{x}$	(0)		$\frac{2\sqrt{3}}{3}r$		(2r)
V'		+	0	_	
V		7		/	

 $x=\frac{2\sqrt{3}}{3}r$  のとき Vは最大となり、最

#### 大値は

$$\begin{split} V_{x=\frac{2\sqrt{3}}{3}r} &= \frac{2}{5} \cdot \frac{2\sqrt{3}}{3} r \left( 4r^2 - \frac{4r^2}{3} \right) \\ &= \frac{32\sqrt{3} r^3}{45} \end{split}$$

$$x^3 - 3ax^2 + \frac{1}{2} = 0$$

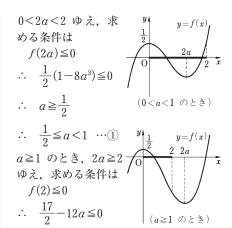
と変形できる.

 $f(x)=x^3-3ax^2+\frac{1}{2}$  とおき、f(x)=0 が、 $0 \le x \le 2$  で実数解をもつaの範囲を求める。

$$f'(x)=3x^2-6ax=3x(x-2a)$$
  $f(0)=\frac{1}{2}$  に注意する.

 $a \le 0$  のとき.

 $f'(x) \ge 0$   $(x \ge 0)$  より  $0 \le x \le 2$  において f(x) は単調増加であり、不適. 0 < a < 1 のとき、



$$\therefore a \ge \frac{17}{24}$$

- $\therefore a \ge 1 \quad \cdots (2)$
- ②より求めるaの範囲は.

$$a \ge \frac{1}{2}$$

①8-2) (1) 与えられた条件より 
$$\begin{cases} a+b+c=6\\ ab+bc+ca=9\\ abc=V \end{cases}$$

よって、a、b、c ( $0 < a \le b \le c$ ) はx の3 次方程式

$$x^3-6x^2+9x-V=0$$
  
 $\therefore x^3-6x^2+9x=V$   
の3つの正の実数  $y=f(x)$   
解である。  $4$   
 $f(x)=x^3-6x^2+9x$   $y=0$   
とおくと  $f'(x)$   
 $=3x^2-12x+9$   
 $=3(x-1)(x-3)$   
よって、 $y=f(x)$  のグラフは上図のようになる。

f(x)=V が3つの正の実数解をもつ条件は、 $0 < V \le 4$  で、V = 4 のとき、

$$x^{3}-6x^{2}+9x-4=0$$
  
 $\therefore (x-1)^{2}(x-4)=0$   
 $\therefore x=1.4$ 

ゆえに、各辺の長さの動き得る範囲は、 $0 < \alpha \le 1 \le b < 3 < c \le 4$ 

(2) (1)より, a=b=1, c=4 のとき, V は最大値 4 をとる.

109 
$$f(x)=(x-a_1)(x-a_2)(x-a_3)$$
 を微分して、

$$f'(x) = (x-a_2)(x-a_3) + (x-a_1)(x-a_3) + (x-a_1)(x-a_2)$$

であり.

$$f'(a_1)f'(a_2)f'(a_3)$$

$$=(a_1-a_2)(a_1-a_3)$$

$$\times (a_2-a_1)(a_2-a_3)$$

$$\times (a_3-a_1)(a_3-a_2)$$

$$=-(a_1-a_2)^2(a_2-a_3)^2(a_3-a_1)^2$$

$$\therefore D=(a_1-a_2)^2(a_2-a_3)^2(a_3-a_1)^2$$

$$=(-1)\times f'(a_1)f'(a_2)f'(a_3)$$

一方,

$$f(x) = (x - a_1)(x - a_2)(x - a_3)$$

$$= x^3 - (a_1 + a_2 + a_3)x^2$$

$$+ (a_1a_2 + a_2a_3 + a_3a_1)x$$

$$- a_1a_2a_3$$

$$= x^3 + px - q$$

であるから,

$$f'(x) = 3x^{2} + p$$

$$\therefore f'(a_{j}) = 3a_{j}^{2} + p \quad (j=1, 2, 3)$$

$$\sharp \, tz, \quad f(a_{j}) = a_{j}^{3} + pa_{j} - q = 0 \quad \sharp \quad \emptyset$$

$$a_{j}^{2} = -p + \frac{q}{a_{j}}$$

$$(\because q \neq 0 \quad \sharp \quad \emptyset) \quad a_{j} \neq 0$$

であり

$$f'(a_i) = 3\left(-p + \frac{q}{a_i}\right) + p$$
$$= -2p + \frac{3q}{a_i}$$

ここで,

$$(x - \frac{3q}{a_1})(x - \frac{3q}{a_2})(x - \frac{3q}{a_3})$$

$$= x^3 - \frac{3q(a_2a_3 + a_3a_1 + a_1a_2)}{a_1a_2a_3}x^2 + \frac{9q^2(a_1 + a_2 + a_3)}{a_1a_2a_3}x - \frac{27q^3}{a_1a_2a_3}$$

= 
$$x^3 + (-3p)x^2 + (0)x + (-27q^2)$$
以上より,

$$D = -f'(a_1)f'(a_2)f'(a_3)$$

$$= -\left(-2p + \frac{3q}{a_1}\right)\left(-2p + \frac{3q}{a_2}\right)\left(-2p + \frac{3q}{a_3}\right)$$

$$= \left(2p - \frac{3q}{a_1}\right)\left(2p - \frac{3q}{a_2}\right)\left(2p - \frac{3q}{a_3}\right)$$

$$= (2p)^3 - 3p(2p)^2 - 27q^2$$

$$= -4p^3 - 27q^2$$

(答) 
$$7 - 1$$
 イ  $-2p$  ウ  $3q$   
エ  $-3p$  オ  $0$  カ  $-27q^2$   
キ  $-4p^3 - 27q^2$ 

110-1) 
$$f(x)=x^3-ax+1$$
 とおく.  
 $f'(x)=3x^2-a$ 

(i)  $a \le 0$  のとき、つねに  $f'(x) \ge 0$  であり、f(x) は単調増加.

f(0)=1 であるから,  $x \ge 0$  においては,  $f(x) \ge 0$  であり,条件をみたす.

			_	
x	0		$\sqrt{\frac{a}{3}}$	
f'(x)		_	0	+
f(x)		7		7

$$\begin{split} f\left(\sqrt{\frac{a}{3}}\right) &= \frac{a}{3}\sqrt{\frac{a}{3}} - a\sqrt{\frac{a}{3}} + 1 \\ &= 1 - 2\left(\frac{a}{3}\right)^{\frac{3}{2}} \end{split}$$

であるから

 $x \ge 0$  において、つねに  $f(x) \ge 0$   $\iff x \ge 0$  における f(x) の最小値  $\ge 0$ 

$$\iff f\left(\sqrt{\frac{a}{3}}\right) \ge 0$$

a>0 であるから、この条件は

$$0 < a \le \frac{3}{\sqrt[3]{4}}$$
 と同値である.

(i), (ii)をまとめて 
$$\alpha \leq \frac{3}{\sqrt[3]{4}}$$

**110-2**  $f(x)=x^3-a(x^2-a)$  がすべて の  $x \ge 0$  について, 負とならない条件を考えればよい.

$$f'(x)=3x^2-2ax=x(3x-2a)$$

(i)  $a \le 0$   $\mathcal{O} \succeq \mathfrak{F}$ ,  $x \ge 0$   $\mathcal{C}$   $f'(x) \ge 0$ ,  $\sharp \mathcal{C}$   $f(0) = a^2 \ge 0$ 

よって、 $x \ge 0$  で  $f(x) \ge 0$  が成り立つ.

(ii) a>0 のとき、増減表は次のようになり

$\boldsymbol{x}$	0		$\frac{2}{3}a$	
f'(x)	0	_	0	+
f(x)		7		1

$$f\left(\frac{2}{3}a\right) = \frac{8}{27}a^3 - \frac{4}{9}a^3 + a^2$$
$$= \frac{4}{27}a^2\left(\frac{27}{4} - a\right)$$

これが  $x \ge 0$  における最小値で、これが 負でないことが条件である.

$$\therefore 0 < a \le \frac{27}{4}$$

(i), (ii)あわせて、
$$\alpha \leq \frac{27}{4}$$

### 第7章

114 条件(ii)より

$$f'(x) = ax(x-1)-3$$
  
=  $ax^2 - ax - 3$ 

と実数 $a(\pm 0)$ を用いて表すことができる。

条件(iii)より, f(x) は極大値,極小値をもつから, f'(x)=0 は異なる 2 つの実数解  $\alpha$ ,  $\beta(\alpha < \beta)$  をもつ. よって, (判別式)>0 であり

$$a^2 + 12a > 0$$

$$\therefore a < -12, 0 < a \qquad \cdots$$

また,  $|f(\beta)-f(\alpha)|=\beta-\alpha$  ·····②

$$f(\beta) - f(\alpha) = \int_{\alpha}^{\beta} f'(x) dx$$

$$= \int_{\alpha}^{\beta} a(x-\alpha)(x-\beta) dx = -\frac{a(\beta-\alpha)^3}{6}$$

であり

$$\begin{vmatrix} \beta - \alpha \\ = \left| \frac{a + \sqrt{a^2 + 12a}}{2a} - \frac{a - \sqrt{a^2 + 12a}}{2a} \right|$$

$$=\frac{\sqrt{a^2+12a}}{|a|}$$

である.これらを②に代入して

$$\frac{|a|(\beta-\alpha)^3}{6} = \beta - \alpha$$

$$|a|(\beta-\alpha)^2=6$$

$$\therefore$$
  $|a+12|=6$   $\therefore$   $a=-6$ ,  $-18$ 

①  $\sharp$   $\vartheta$  , a = -18

$$f'(x) = -18x^2 + 18x - 3$$

$$f(x) = \int f'(x) dx$$

$$= -6x^3 + 9x^2 - 3x + C$$
(Cは定数)

条件(i)より f(0)=1  $\therefore$  C=1 以上より  $f(x)=-6x^3+9x^2-3x+1$ 

116-1 (1) (i)  $t \le -1$  のとき、  $-1 \le x \le 1$  の全域で  $x \ge t$  となるから  $f(t) = \int_{-1}^{1} (x-t) dx = -\int_{-1}^{1} t dx = -2t$ 

(ii) -1 < t < 1 のとき、x が -1 から1まで変わるとき、途中で t との大小が 入れかわり.

$$f(t) = \int_{-1}^{t} (t - x) dx + \int_{t}^{1} (x - t) dx$$
$$= \left[ tx - \frac{x^{2}}{2} \right]_{-1}^{t} + \left[ \frac{x^{2}}{2} - tx \right]_{t}^{1}$$
$$= t^{2} + 1$$

(iii)  $1 \le t$  のとき、 $-1 \le x \le 1$  の全域  $r \leq t$ 

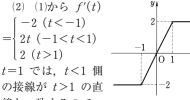
$$\therefore f(t) = \int_{-1}^{1} (t-x) dx = 2t$$

(i), (ii), (iii)から右図 の太線が得られる.  $y = t^2 + 1 \ge$ 

 $y=\pm 2t$  を連立すると  $(t \mp 1)^2 = 0$ 

 $t=\pm 1$  (重解) ゆえ,直線と放物線

は  $t=\pm 1$  で接する.



線と一致するので,

f'(1)=2 同様にして、f'(-1)=-2よって、y=f'(t) のグラフは上のよう になる.

(116-2)  $t^3-t=(t+1)t(t-1)$   $\emptyset \lambda$ ,  $t \le -1$ ,  $0 \le t \le 1$   $\circlearrowleft$   $t^3 - t \le 0$ ;  $-1 \le t \le 0$ ,  $t \ge 1$   $(t^3 - t) \ge 0$  $-1 \le x \le 1 \downarrow \emptyset$  $\begin{bmatrix} -1 \leq -x \leq 1 \end{bmatrix}$ 

である. 積分区間  $-x \le t \le 1-x$  の中 に t=0. 1 があるか否かで場合分けする.

(i)  $-1 \le -x \le 0 \le 1 - x \le 1$ (table 5) (ta

$$f(x) = \int_{-x}^{0} (t^3 - t) dt$$

$$+ \int_{0}^{1-x} -(t^3 - t) dt$$

$$= \left[ \frac{t^4}{4} - \frac{t^2}{2} \right]_{-x}^{0} + \left[ -\frac{t^4}{4} + \frac{t^2}{2} \right]_{0}^{1-x}$$

$$= -\frac{x^4}{4} + \frac{x^2}{2} - \frac{(x-1)^4}{4} + \frac{(x-1)^2}{2}$$

$$\therefore f'(x) = -x^3 + x - (x-1)^3 + (x-1)$$

$$= -x(x-1)(2x-1)$$
(ii)  $0 \le -x \le 1 \le 1 - x$ 

$$( -x \le 1 \le 1 - x \le 1)$$

$$f(x) = \int_{-x}^{1} -(t^3 - t) dt$$

$$+ \int_{1}^{1-x} (t^3 - t) dt$$

$$= \left[ -\frac{t^4}{4} + \frac{t^2}{2} \right]_{-x}^{1} + \left[ \frac{t^4}{4} - \frac{t^2}{2} \right]_{1}^{1-x}$$

$$= \frac{1}{2} + \frac{x^4}{4} - \frac{x^2}{2} + \frac{(x-1)^4}{4} - \frac{(x-1)^2}{2}$$

$$\therefore f'(x) = x^3 - x + (x-1)^3 - (x-1)$$

$$= x(x-1)(x+1) + (x-1)(x^2 - 2x)$$

$$= x(x-1)(2x-1)$$

よって、増減表は次のようになる。

,,,,,,,,,									
$\boldsymbol{x}$	-1		0		$\frac{1}{2}$		1		
f'(x)		_		_	0	+			
f(x)		7	$\frac{1}{4}$	×		7			

最小値は  $f\left(\frac{1}{2}\right)$ , 最大値は f(-1), f(1)のうち小さくない方である.

$$f(-1) = \frac{1}{2} + \frac{1}{4} - \frac{1}{2} + 4 - 2 = \frac{9}{4}$$

$$f(1) = -\frac{1}{4} + \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$$

$$f\left(\frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{64} + \frac{1}{8} - \frac{1}{64} + \frac{1}{8} = \frac{7}{32}$$

これより、f(x)の最大値は $\frac{9}{4}$ 、最小値

 $tt \frac{7}{32}$ 

**117** (1) 
$$\frac{1}{2}\int_0^1 f(x) dx = k$$
 (定数)

....(1)

とおくと

$$f(x) = x^3 - 2x + k \qquad \cdots \cdots 2$$

②を①に代入して,

$$k = \frac{1}{2} \int_0^1 (x^3 - 2x + k) dx$$
$$= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{4} - 1 + k \right)$$
$$\therefore \quad k = -\frac{3}{4}$$

$$f(x) = x^3 - 2x - \frac{3}{4}$$

$$(2) \quad 2\int_0^1 |f(t)| dt = k \qquad \cdots$$

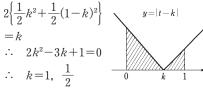
とおくと, k は  $k \ge 0$  である.

$$f(x) = x - k \qquad \cdots$$

②を①に代入して,

$$2\int_0^1 |t-k| dt = k \qquad \cdots (*)$$

 $0 \le k \le 1$  のとき、(\*)の左辺は下図の 2 つの三角形の面積の和なので



k>1 のとき、(\*)の左辺は下図の台形の面積なので

$$2 \cdot \frac{1}{2} \{k + (k-1)\} \cdot 1 = k$$
  $\therefore k=1$ 

これは k>1 をみた さないから不適.

$$f(x) = x - 1,$$

$$x - \frac{1}{2}$$

(3) 
$$\int_{-1}^{1} (x-t)^{2} f(t) dt$$

$$= x^{2} \int_{-1}^{1} f(t) dt - x \int_{-1}^{1} 2t f(t) dt$$

$$+ \int_{-1}^{1} t^{2} f(t) dt$$

であり  $\int_{-1}^{1} f(t) dt = a, \quad \int_{-1}^{1} 2t f(t) dt = b,$   $\int_{-1}^{1} t^{2} f(t) dt = c \quad \cdots \dots$  ひおくと

$$f(x) = x^3 + (1+a)x^2 - bx + c$$
  
これを用いると、①の 3 式は、  
 $a = \int_{-1}^{1} f(t) dt = 2 \int_{0}^{1} \{(1+a)t^2 + c\} dt$   
 $= \frac{2(1+a)}{3} + 2c$   
 $b = \int_{-1}^{1} 2t f(t) dt = 2 \int_{0}^{1} (2t^4 - 2bt^2) dt$   
 $= \frac{4}{5} - \frac{4}{3}b$   
 $c = \int_{-1}^{1} t^2 f(t) dt = 2 \int_{0}^{1} \{(1+a)t^4 + ct^2\} dt$   
 $= \frac{2(1+a)}{5} + \frac{2c}{3}$ 

となる

これから 
$$a=-\frac{46}{31}$$
,  $b=\frac{12}{35}$ ,  $c=-\frac{18}{31}$ 

$$\therefore f(x) = x^3 - \frac{15}{31}x^2 - \frac{12}{35}x - \frac{18}{31}$$

(4) 
$$\int_{-1}^{1} f(t) dt = k \cdots$$
①とおくと,
$$q(x) = x^{2} - x + k$$

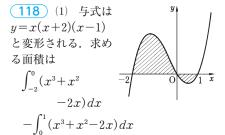
$$f(x) = 1 + \int_0^x (t^2 - t + k) dt$$
$$= \frac{1}{3} x^3 - \frac{1}{2} x^2 + kx + 1$$

これを①に代入して

$$k = \int_{-1}^{1} \left( \frac{1}{3} t^3 - \frac{1}{2} t^2 + kt + 1 \right) dt$$
$$= 2 \int_{0}^{1} \left( -\frac{1}{2} t^2 + 1 \right) dt = \frac{5}{3}$$

$$f(x) = \frac{1}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 + \frac{5}{3}x + 1,$$

$$g(x) = x^2 - x + \frac{5}{3}$$



119 (1) 直線の方程式は 
$$y-4=a(x-2)$$
 ∴  $y=ax+4-2a$ 

 $=\frac{9}{2}$ 

曲線の方程式  $y=(x-1)^2+2$  と直線の 方程式を連立すると

$$ax+4-2a=(x-1)^2+2$$
  
∴  $x^2-(a+2)x+(2a-1)=0$  ……①  
①の左辺を  $f(x)$  とおく、  
 $f(x)=0$  の方程式の判別式は

 $(a+2)^2-4(2a-1)=(a-2)^2+4>0$ よって、f(x)=0 の解  $\alpha$ .  $\beta$  はつねに異 なる実数である.  $\alpha < \beta$  とする.  $f(x) = -(x-\alpha)(x-\beta)$  と因数分解でき、  $\alpha \leq x \leq \beta$  で  $f(x) \geq 0$  ゆえ、求める面 積は  $S = \int_{-\beta}^{\beta} -(x-\alpha)(x-\beta) dx = \frac{1}{\beta} (\beta - \alpha)^3$  $\alpha$ ,  $\beta$  if  $\frac{\alpha+2\pm\sqrt{D}}{2}$   $\phi$   $\dot{ z}$ ,  $\beta-\alpha=\sqrt{D}$  $S = \frac{1}{c} \{ (\alpha - 2)^2 + 4 \}^{\frac{3}{2}}$ (2) (1)より S が最小となる a の値は, a=2(120) (1)  $Q_1(\alpha, \alpha^2), Q_2(\beta, \beta^2)$  $(\alpha < \beta)$  とおくと、点 Q<sub>1</sub> における接線の 方程式は  $y=2\alpha(x-\alpha)+\alpha^2$  $\therefore y = 2\alpha x - \alpha^2$ となり、これがP(a, a-1)を通るから  $a-1=2\alpha a-\alpha^{2}$ 点 Q2 についても同様に.  $a-1=2\beta a-\beta^2$ (1) -(2)  $\downarrow$  b  $\alpha + \beta = 2a$ ここで、直線 Q<sub>1</sub>Q<sub>2</sub> の方程式は  $y = \frac{\beta^2 - \alpha^2}{\alpha - \alpha}(x - \alpha) + \alpha^2$  $\therefore y = (\alpha + \beta)x - \alpha\beta$ よって.  $S = \int_{-\beta}^{\beta} \{ (\alpha + \beta) x - \alpha \beta - x^2 \} dx$  $=\int_{-\beta}^{\beta} -(x-\alpha)(x-\beta) dx = \frac{(\beta-\alpha)^3}{\beta}$ ③, ④よりα, βは, 2次方程式  $t^2 - 2at + a - 1 = 0$ の解であり  $t = a \pm \sqrt{a^2 - a + 1}$ 

であるから

 $\beta - \alpha = 2\sqrt{a^2 - a + 1}$ 

 $\therefore S = \frac{1}{6} (2\sqrt{a^2 - a + 1})^3$ 

$$= \frac{4}{3} (\sqrt{a^2 - a + 1})^3$$
(2)  $S = \frac{4}{3} \left\{ \sqrt{\left(a - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{3}{4}} \right\}^3$ 

$$\ge \frac{4}{3} \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^3 = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\left( \stackrel{\text{体: 무}}{\text{F}} \text{ は } a = \frac{1}{2} \text{ の } \text{ と } \text{き} \right)$$

これより、 $a=\frac{1}{2}$  のとき、S は最小値  $\frac{\sqrt{3}}{2}$  をとる.

121 (1) l の方程式を y=mx+n とおく. l の方程式と①を連立して  $(x+1)^2=mx+n$ 

 $x^2+(2-m)x+(1-n)=0$  …③接する条件は、(③の判別式)=0、すなわち

(⑤の判別式)=0 から m²+4m+4n+8=0 ······⑥ ⑥-④より

$$8m+8=0 \qquad \therefore \quad m=-1$$

$$\therefore \quad n=-\frac{5}{4} \qquad l: y=-x-\frac{5}{4}$$

(2) ③, ⑤の重解はそれぞれ  $x = \frac{m}{2} - 1 = -\frac{3}{2}, \quad x = \frac{m}{2} + 1 = \frac{1}{2}$ 

また, ①, ②の交点の x 座標は,

$$x = -\frac{1}{2}$$

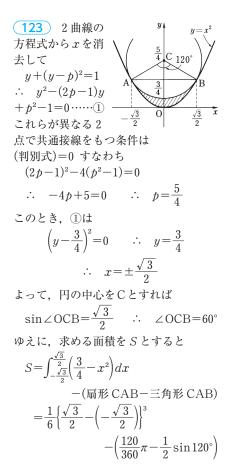
ゆえに、求める面積を S とすれば  $S = \int_{-\frac{3}{2}}^{-\frac{1}{2}} \{(x+1)^2 - (mx+n)\} dx$   $+ \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \{(x-1)^2 - 2 - (mx+n)\} dx$ 

$$\begin{split} &= \! \int_{-\frac{3}{2}}^{-\frac{1}{2}} \! \left( x \! + \! \frac{3}{2} \right)^{\!2} \! dx \! + \! \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \! \left( x \! - \! \frac{1}{2} \right)^{\!2} \! dx \\ &= \! \left[ \frac{1}{3} \! \left( x \! + \! \frac{3}{2} \right)^{\!3} \right]_{-\frac{3}{2}}^{-\frac{1}{2}} \! + \! \left[ \frac{1}{3} \! \left( x \! - \! \frac{1}{2} \right)^{\!3} \right]_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \\ &= \! \frac{2}{3} \end{split}$$

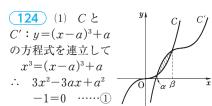
②別解) ①の  $x=\alpha$  における接線と②の  $x=\beta$  における接線:

$$y = 2(\alpha + 1)x - \alpha^2 + 1,$$
  
 $y = 2(\beta - 1)x - \beta^2 - 1$ 

が一致する条件を考え、係数を比較してもよい.



$$=\frac{\sqrt{3}}{2}-\left(\frac{\pi}{3}-\frac{\sqrt{3}}{4}\right)=\frac{3\sqrt{3}}{4}-\frac{\pi}{3}$$



よって、 $C \ge C'$  が異なる 2 点で交わる 条件は

$$D > 0 \qquad \therefore \quad -3(a^2 - 4) > 0$$

a>0  $\downarrow$  b 0<a<2

(2) ①の解 
$$\frac{3a \pm \sqrt{12-3a^2}}{6}$$

 $\epsilon \alpha$ ,  $\beta (\alpha < \beta)$   $\epsilon$ 

$$S = \int_{\alpha}^{\beta} \{(x-\alpha)^3 + a - x^3\} dx$$

$$= -3a \int_{\alpha}^{\beta} (x-\alpha)(x-\beta) dx$$

$$= -3a \cdot \frac{(\beta-\alpha)^3}{-6} = \frac{a}{2} \{(\beta-\alpha)^2\}^{\frac{3}{2}}$$

$$= \frac{a}{2} \left(\frac{12 - 3a^2}{9}\right)^{\frac{3}{2}} = \frac{\sqrt{3}}{18} a (4 - a^2)^{\frac{3}{2}}$$

(3) 
$$S = \frac{\sqrt{3}}{18} \sqrt{a^2 (4 - a^2)^3}$$
 において

 $4-a^2=t$  とおくと、0 < t < 4 であり、

$$S = \frac{\sqrt{3}}{18} \sqrt{(4-t)t^3}$$

となる. 
$$f(t)=(4-t)t^3$$
 とおくと  $f'(t)=12t^2-4t^3$   $=4t^2(3-t)$ 

f(t) の増減表は次のようになる.

t	(0)		3		(4)
f'(t)		+	0	_	
f(t)		1	27	7	

 $4-a^2=3$   $\geq t t \delta a$  if 0 < a < 2 if 0 < a < 2 if a = 1 c = 5.

$$a=1$$
 のとき、 $S$ の最大値は  $\frac{1}{2}$ 

(125-1) 
$$y = \frac{1}{18}x^3 - \frac{4}{3}x$$
 .....(1)  $y' = \frac{1}{6}x^2 - \frac{4}{3}$ 

 $x=\beta$  における①の接線を y=mx+n とすると、ある実数 $\alpha$ に対して

$$\frac{1}{18}x^3 - \frac{4}{3}x - (mx + n)$$

$$= \frac{1}{18}(x - \alpha)(x - \beta)^2$$

が成り立つ.  $x^2$  の 係数を比較すると  $0=\alpha+2\beta$ 

 $\alpha = -2\beta$ 



よって,  $x=\beta$ ,  $-2\beta$  における接線が直 交する条件は

$$\left(\frac{1}{6}\beta^2 - \frac{4}{3}\right)\left(\frac{2}{3}\beta^2 - \frac{4}{3}\right) = -1$$

 $\beta^4-10\beta^2+25=0$   $\beta=\pm\sqrt{5}$  ①は原点対称だから、 $\beta=\sqrt{5}$  のときを考えればよい.

ゆえに、求める面積Sは

$$S = \int_{\alpha}^{\beta} \left\{ \frac{1}{18} x^3 - \frac{4}{3} x - (mx + n) \right\} dx$$

$$= \frac{1}{18} \int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha) (x - \beta)^2 dx$$

$$= \frac{1}{18} \cdot \frac{(\beta - \alpha)^4}{12}$$

$$= \frac{(3\sqrt{5})^4}{3^3 \cdot 8} = \frac{75}{8}$$

(125-2)  $f(x)=x^3+ax^2+bx+c$  とおく.  $P(\alpha, f(\alpha))$  における接線 l を y=px+q, y=f(x) と l の交点 Q の座標を  $(\beta, f(\beta))$  とすると

 $f(x)-(px+q)=(x-\alpha)^2(x-\beta)$  となる実数  $\alpha$  が存在する.  $x^2$  の係数を比較すると

$$2\alpha+\beta=-a$$
 ……①  $l \geq C$  の囲む部分の面積  $S_1$  は  $S_1=\left|\int_{\alpha}^{\beta}\{(x^3+ax^2+bx+c)-(px+q)\}dx\right|$ 

$$= \left| \int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)^2 (x - \beta) dx \right| = \frac{(\beta - \alpha)^4}{12}$$

点Qにおける接線mがCと交わる点のx座標を $\gamma$ とすれば、 $\beta$ と $\gamma$ の間には①と同じように

$$2\beta + \gamma = -a$$
 ······(2)

が成り立つ. また,  $m \ge C$  が囲む部分の面積  $S_2$  は,  $S_1$  と同じように

$$S_2 = \frac{(\beta - \gamma)^4}{12}$$

① 
$$-$$
②から、 $\beta - \gamma = 2(\beta - \alpha)$   
したがって、 $S_2 = \frac{2^4(\beta - \alpha)^4}{12} = 16S_1$ 

$$\therefore \quad \frac{S_1}{S_2} = \frac{1}{16} \ (-\overrightarrow{E})$$

### 第8章

(127-1)  $a_n$  は n について単調であるから、 $S_n$  が n=8 で最大となることから  $S_7 < S_8$  かつ  $S_8 > S_9$ 

よって、 $a_8>0$  かつ  $a_9<0$  したがって、

a+7d>0 ......  $1 \Rightarrow a+8d<0$  .... 2

また、 $S_8=136$  より、 $\frac{8}{2}(2a+7d)=136$ 

$$\therefore 2a + 7d = 34 \qquad \cdots (3)$$

③から

$$a = 17 - \frac{7}{2}d$$
 .....3

③'を①, ②に代入すれば, 34 34

 $-\frac{34}{7} < d < -\frac{34}{9}$  d は整数であるから、d = -4

aは整数であるがら、a=-4このとき、a=31 (整数) となる. したがって、a=31, d=-4

**127-2**  $(x+1)^n$  の展開式の  $x^4$ ,  $x^5$ ,  $x^6$  の係数は、それぞれ  ${}_nC_4$ ,  ${}_nC_5$ ,  ${}_nC_6$  であり、この順に等差数列をなしていることより、

$$2_{n}C_{5} = {}_{n}C_{4} + {}_{n}C_{6}$$

$$\therefore 2 \cdot \frac{n!}{5!(n-5)!}$$

$$= \frac{n!}{4!(n-4)!} + \frac{n!}{6!(n-6)!}$$

両辺に  $\frac{6!(n-4)!}{n!}$  をかけて

 $2 \cdot 6(n-4) = 5 \cdot 6 + (n-5)(n-4)$ 4 > 7, (n-7)(n-14) = 0

したがって、n=7 または n=14

n=7 のとき、公差  $_{7}C_{5}-_{7}C_{4}=-14$ n=14 のとき、公差  $_{14}C_{5}-_{14}C_{4}=1001$ 

(128-1)

$$a_n = \overbrace{111\cdots 11}^{n}$$

$$= 10^{n-1} + 10^{n-2} + \cdots + 10 + 1$$

$$= 1 + 10 + \cdots + 10^{n-2} + 10^{n-1}$$

$$= \frac{10^{n} - 1}{10 - 1} = \frac{10^{n} - 1}{9}$$

$$S = \frac{1}{9} \sum_{k=1}^{n} (10^{k} - 1)$$

$$= \frac{1}{9} \left\{ \frac{10(10^{n} - 1)}{10 - 1} - n \right\}$$

$$= \frac{10^{n+1} - 9n - 10}{81}$$

$$\begin{array}{l} \begin{array}{l} \textbf{128-2} \quad a_n = (5^n + 4 \cdot 5^{n-1} + 4^2 \cdot 5^{n-2} + \cdots \\ \qquad \qquad + 4^{n-1} \cdot 5 + 4^n) + 4^{n+1} \\ = 5^n \left\{ 1 + \frac{4}{5} + \left(\frac{4}{5}\right)^2 + \cdots + \left(\frac{4}{5}\right)^n \right\} + 4^{n+1} \\ = 5^n \cdot \frac{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{n+1}}{1 - \frac{4}{5}} + 4^{n+1} \\ = (5^{n+1} - 4^{n+1}) + 4^{n+1} \\ = 5^{n+1} \end{array}$$

よって、数列 {a<sub>n</sub>} は初項 25、公比 5 で ある.

**128-3** *a*, *b*, *c* の順に等比数列である から

$$b^2 = ac$$
 ·····①

c. a. bの順に等差数列であるから 2a=c+b

a, b, cの和が6であるから a+b+c=6

①. ②. ③および. a. b. c が相異なるこ とから

$$(a, b, c)=(2, -4, 8)$$

(129-1) 積立金を a 円とする.

最初の年に預けた a 円は 10 年目の終わ りには

$$a(1+0.012)^{10}$$
 (円)

2 年目に預けた α 円は 10 年目の終わり には

$$a(1+0.012)^9$$
 (円)

10年目に預けた a 円は 10年目の終わり には

$$a(1+0.012)$$
 (円)  
となる、ゆえに、

$$a(1+0.012) + a(1+0.012)^2 + \cdots + a(1+0.012)^{10}$$

=1000000

左辺は初項 1.012a、公比 1.012 の等比数 列の第10項までの和であるから、

$$1.012a \times \frac{(1.012)^{10} - 1}{1.012 - 1} = 1000000$$

$$\therefore$$
 1.012 $a \times (1.13-1) = 12000$ 

$$\therefore a = \frac{12000}{1.012 \times 0.13} = 91213.1 \cdots$$

したがって、100円未満を切り上げると 91300 円積立てればよい.

(129-2) (1) 対数はすべて常用対数とす る.

$$\log 1.024 = \log \frac{1024}{1000} = \log \frac{2^{10}}{10^3} = 10 \log 2 - 3$$
$$= 10 \times 0.30103 - 3 = 0.0103$$

(2)  $1000 \times (1.024)^n > 2000$ 

$$\therefore (1.024)^n > 2 \qquad \cdots \cdot 1$$

をみたす最小の自然数 n が求めるもので ある.

①の両辺の常用対数をとり、(1)の結果を 用いると,

$$n \log 1.024 > \log 2$$

$$\therefore n > \frac{0.30103}{0.0103} = 29.2 \cdots$$

よって、負債が2000万円を超えるのは 30年後である.

(3) (借入金の元利合計)

≤(返済額の元利合計)

をみたす最小の自然数 n を求めればよい. (左辺)= $1000\times(1.024)^n$ 

$$+48 \times (1.024)^{n-1}$$

$$=48 \cdot \frac{(1.024)^n - 1}{1.024 - 1}$$

 $=2000\{(1.024)^n-1\}$ 

であるから、上の不等式は

 $(1.024)^n \ge 2$ 

となる。②は①と等号だけの違いなので、

(2)の結果と同じく,返済完了するのは **30 年後**である.

**別解** 漸化式を立ててもよい. n 年後の負債残高を  $a_n$  (万円) とすると

$$a_{n+1}=1.024a_n-48$$

これは  $a_{n+1}$ -2000=1.024( $a_n$ -2000) と変形される.  $a_0$ =1000 であるから  $a_n$ -2000=(1000-2000)(1.024) $^n$ 

$$=-1000(1.024)^n$$

 $a_n \le 0$  となるのは  $2000 - 1000 \times (1.024)^n \le 0$  $\therefore 2 \le (1.024)^n$ 

以下同じ.

①30-1 (1) 
$$k$$
 の恒等式  $(k+1)^5-k^5$  =  $5k^4+10k^3+10k^2+5k+1$  において、 $k=1$ 、2、3、…、 $n$  として 辺々加えると、

$$\sum_{k=1}^{n} \{(k+1)^5 - k^5\}$$

$$= \sum_{k=1}^{n} (5k^4 + 10k^3 + 10k^2 + 5k + 1)$$

これから,

$$(n+1)^5-1^5$$

$$=5\sum_{k=1}^{n}k^{4}+10\sum_{k=1}^{n}k^{3}+10\sum_{k=1}^{n}k^{2}+5\sum_{k=1}^{n}k+n$$
 \$\frac{1}{2}\gamma\tau\$,

$$5\sum_{k=1}^{n}k^{4}$$

$$= (n+1)^5 - 1 - 10 \sum_{k=1}^{n} k^3 - 10 \sum_{k=1}^{n} k^2 - 5 \sum_{k=1}^{n} k - n$$

$$= (n+1)^5 - 1 - 10 \cdot \frac{n^2(n+1)^2}{4}$$

$$-10 \cdot \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} - 5 \cdot \frac{n(n+1)}{2} - n$$

$$= n^5 + \frac{5}{2}n^4 + \frac{5}{3}n^3 - \frac{1}{6}n$$

したがって,

$$\sum_{k=1}^{n} k^{4} = \frac{1}{5} n^{5} + \frac{1}{2} n^{4} + \frac{1}{3} n^{3} - \frac{1}{30} n$$

(2) (1)と同様にして、 kの恒等式

$$(k+1)^6-k^6$$
  
= $6k^5+15k^4+20k^3+15k^2+6k+1$   
において  $k=1$ , 2, 3, …,  $n$  として  
辺々加えると,

$$(n+1)^{6} - 1^{6} = 6 \sum_{k=1}^{n} k^{5} + 15 \sum_{k=1}^{n} k^{4} + 20 \sum_{k=1}^{n} k^{3} + 15 \sum_{k=1}^{n} k^{2} + 6 \sum_{k=1}^{n} k + n$$

よって.

$$\sum_{k=1}^{n} k^{5} = \frac{1}{6} (n+1)^{6} - \frac{5}{2} \sum_{k=1}^{n} k^{4} + (n \mathcal{O} 4 次以下の式) \cdots ②$$

①と②より

$$\sum_{k=1}^{n} k^{5} = \frac{1}{6} (n^{6} + 6n^{5})$$

$$-\frac{5}{2} \cdot \frac{1}{5} n^{5} + (n \mathcal{O} 4 次以下の式)$$

$$= \frac{1}{6} n^{6} + \frac{1}{2} n^{5} + (n \mathcal{O} 4 次以下の式)$$

したがって、 $\sum_{k=1}^{n} k^5$  はn について6 次式であり、6 次の項の係数は $\frac{1}{6}$ 、5 次の項の係数は $\frac{1}{2}$  である.

(2) 
$$S(n) = \sum_{k=1}^{n} \frac{1}{k(k+1)(k+3)}$$
$$= \sum_{k=1}^{n} \left\{ \frac{1}{3} \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) - \frac{1}{6} \left( \frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+3} \right) \right\}$$
$$= \frac{1}{3} \left( 1 - \frac{1}{n+1} \right)$$
$$- \frac{1}{6} \left( \frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{n+2} - \frac{1}{n+3} \right)$$

$$= \frac{n}{3(n+1)} - \frac{5n^2 + 13n}{36(n+2)(n+3)}$$
$$= \frac{n(7n^2 + 42n + 59)}{36(n+1)(n+2)(n+3)}$$

$$\begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} 1 \\ \end{array}{\sqrt{k+2} + \sqrt{k+1}} \end{array} \end{array} \\ = \frac{\sqrt{k+2} - \sqrt{k+1}}{(k+2) - (k+1)} \\ = \sqrt{k+2} - \sqrt{k+1} \\ \downarrow 0 \end{array} \\ \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \end{array}{\sqrt{3} - \sqrt{2}} \\ \end{array} \\ \downarrow 0 \end{array} \\ \stackrel{\text{F-TL}}{\Rightarrow} \end{array} \\ = \sum_{k=1}^{n-2} (\sqrt{k+2} - \sqrt{k+1}) \\ = \sqrt{n} - \sqrt{2} \end{array} \\ \end{array} \\ \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \end{array}{\sqrt{n} - \sqrt{n-2}} \\ + \end{array} \\ \begin{array}{l} \begin{array}{l} \begin{array}{l} \end{array}{\sqrt{n} - \sqrt{n-1}} \end{array} \end{array} \\ - \sqrt{2} \end{array} \end{array}$$

$$S = \frac{3}{2} + \frac{6}{2^{2}} + \dots + \frac{3n}{2^{n}}$$

$$- \underbrace{\frac{1}{2}S} = \underbrace{\frac{3}{2^{2}} + \dots + \frac{3(n-1)}{2^{n}} + \frac{3n}{2^{n+1}}}_{2^{n+1}}$$

$$\frac{1}{2}S = \frac{3}{2} + \frac{3}{2^{2}} + \dots + \frac{3}{2^{n}} - \frac{3n}{2^{n+1}}$$

$$\vdots \supset \zeta,$$

$$S = 3\Big\{1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2^{2}} + \dots + \frac{1}{2^{n-1}}\Big\} - \frac{3n}{2^{n}}$$

$$= 3 \cdot \frac{1 - \frac{1}{2^{n}}}{1 - \frac{1}{2}} - \frac{3n}{2^{n}}$$

$$= 6 \cdot \frac{2^{n} - 1}{2^{n}} - \frac{3n}{2^{n}}$$

$$= \frac{3(2^{n+1} - n - 2)}{2^{n}}$$

131-2

$$S_{100} = 1 + 2 \cdot \frac{1}{2} + \dots + 100 \cdot \frac{1}{2^{99}}$$

$$- \underbrace{)\frac{1}{2}S_{100}} = 1 \cdot \frac{1}{2} + \dots + 99 \cdot \frac{1}{2^{89}} + 100 \cdot \frac{1}{2^{100}}$$

$$\frac{1}{2}S_{100} = 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2^{2}} + \dots + \frac{1}{2^{99}} - 100 \cdot \frac{1}{2^{100}}$$

$$\begin{split} &= \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^{100}}{1 - \frac{1}{2}} - \frac{100}{2^{100}} \\ &= 2 - \frac{51}{2^{99}} \end{split}$$

これより

$$S_{100} = 4 - \frac{51}{2^{98}}$$

$$0 < \frac{51}{2^{98}} < 1$$
 であるから

 $3 < S_{100} < 4$ 

よって、求める整数は3

$$\begin{array}{ll} \begin{array}{ll} \textbf{(131-3)} & (1) & 50 = 32 + 16 + 2 \\ = 2^5 + 2^4 + 2 \\ = 1 \cdot 2^5 + 1 \cdot 2^4 + 0 \cdot 2^3 + 0 \cdot 2^2 + 1 \cdot 2^1 + 0 \cdot 2^0 \\ & \downarrow \emptyset \\ & \begin{cases} a_1 = a_3 = a_4 = a_7 = a_8 = \mathbf{0}, \\ a_2 = a_5 = a_6 = 1 \end{cases} \end{array}$$

(2)  $a_1+a_2+\cdots+a_n=1$  となるのは、 $a_1$ ,  $a_2$ ,  $\cdots$ ,  $a_n$  のうちの1つが1で、他はすべて0のときである.

$$\sum_{i=1}^{n} a_i 2^{i-1} = 2^{k-1}$$

であるから、求める要素の和は,

$$\sum_{k=1}^{n} 2^{k-1} = 2^n - 1$$

(3)  $a_1+a_2+\cdots+a_n=2$  となるのは、 $a_1$ ,  $a_2$ , …,  $a_n$  のうちの 2 つが 1 で、他はすべて 0 のときである。 $a_j$ ,  $a_k$  のみ 1 とすると

$$\sum_{i=0}^{n} a_i 2^{i-1} = 2^{j-1} + 2^{k-1}$$

であるから、求める要素の和は

$$\sum_{\substack{1 \le j < k \le n \\ 1 \le j < k \le n}}^{n} (2^{j-1} + 2^{k-1})$$

$$= \sum_{j=1}^{n-1} \sum_{k=j+1}^{n} (2^{j-1} + 2^{k-1})$$

$$= \sum_{j=1}^{n-1} \left\{ (n-j)2^{j-1} + 2^{j} \cdot \frac{2^{n-j} - 1}{2 - 1} \right\}$$

$$= \sum_{j=1}^{n-1} \left\{ 2^n + (n-j-2)2^{j-1} \right\}$$

$$=(n-1)2^{n}+\sum_{j=1}^{n-1}(n-j-2)2^{j-1}$$
ここで、 $T_{n-1}=\sum_{j=1}^{n-1}(n-j-2)2^{j-1}$  とおくと
$$T_{n-1}=(n-3)+(n-4)2+(n-5)2^{2}$$

$$+\cdots+(-1)\cdot 2^{n-2}$$

$$2T_{n-1}= (n-3)2+(n-4)2^{2}$$

$$+\cdots+0\cdot 2^{n-2}+(-1)\cdot 2^{n-1}$$
2 式の差をつくると
$$-T_{n-1}=(n-3)-2-2^{2}-\cdots-2^{n-2}+2^{n-1}$$

$$=n-2-\frac{2^{n-1}-1}{2-1}+2^{n-1}=n-1$$

よって、求める和は $(n-1)2^n-(n-1)=(n-1)(2^n-1)$ 

②**別解**)  $a_j=1$  (j=1, 2, …, n) のとき,  $a_1+a_2+\dots+a_n=2$  をみたす  $S_n$  の要素の和は(2)より,

$$\{(2^{n}-1)-1 \cdot 2^{j-1}\} + (n-1)2^{j-1}$$

$$= (2^{n}-1) + (n-2)2^{j-1}$$

$$j を 1 \le j \le n の範囲で動かすと$$

$$\sum_{j=1}^{n} \{(2^{n}-1) + (n-2)2^{j-1}\}$$

$$= (2^{n}-1)n + (n-2)\frac{2^{n}-1}{2-1}$$

$$= 2(n-1)(2^{n}-1)$$

この和は、 $a_1+a_2+\cdots+a_n=2$  をみたす  $S_n$  の要素を 2 回ずつ加えたものであるから、求める和は  $(n-1)(2^n-1)$ 

与えられた数列を  $\{a_n\}$  とおく. 第 1 階差  $\{b_n\}$  は初項 2, 公差 1 の等差数 列であり、 $b_{44}$ =45 である. よって  $a_{45}$ = $a_1$ + $(2+3+4+\cdots+45)$ = $2+\frac{44(2+45)}{2}$ =1036

より数列 $\left\{\frac{1}{a_n}\right\}$ は初項3,公差1の等差

数列である.

よって、
$$\frac{1}{a_n}$$
=3+(n-1)·1=n+2 より 
$$a_n = \frac{1}{n+2}$$

(2) 
$$b_1 = a_1 a_2 = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{4} = \frac{1}{12}$$

$$b_{n+1}-b_n=a_{n+1}a_{n+2}=\frac{1}{(n+3)(n+4)}$$

より、
$$n \ge 2$$
 のとき

$$b_n = b_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{(k+3)(k+4)}$$

$$= \frac{1}{12} + \sum_{k=1}^{n-1} \left( \frac{1}{k+3} - \frac{1}{k+4} \right)$$

$$= \frac{1}{12} + \frac{1}{4} - \frac{1}{n+3} = \frac{n}{3(n+3)}$$

この結果は n=1 のときも成り立つ.

よって、
$$b_n = \frac{n}{3(n+3)}$$

133-1) 
$$a_1 = S_1 = -1 + 21 + 65 = 85$$
  $n \ge 2$  のとき

$$a_n = S_n - S_{n-1}$$

$$= -n^3 + 21n^2 + 65n$$

$$-\{-(n-1)^3 + 21(n-1)^2 + 65(n-1)\}$$

$$= -3n^2 + 45n + 43$$

--3n + 43n + 43この結果は、n=1 のときも成り立つ. よって、 $a_n=-3n^2+45n+43$ 

$$\therefore S_2(S_2-6)=0$$

各項が正より  $S_2 > S_1 = 2$  であり、  $S_2 = 6$ 

$$2(S_3+6)=(S_3-6)^2$$

$$(S_3-2)(S_3-12)=0$$

各項が正なので  $S_3>S_2=6$  であり、

$$S_3 = 12$$

(2)  $n \ge 2$  のとき

$$2(S_{n+1}+S_n)=(S_{n+1}-S_n)^2$$
 .....(1)

$$2(S_n + S_{n-1}) = (S_n - S_{n-1})^2 \qquad \cdots \cdots 2$$

$$2(a_{n+1}+a_n)=a_{n+1}^2-a_n^2$$

$$\therefore 2(a_{n+1}+a_n)=(a_{n+1}-a_n)(a_{n+1}+a_n)$$

$$a_{n+1}+a_n>0$$
  $\sharp$   $\mathfrak{h}$ 

$$a_{n+1}-a_n=2$$
 ······3

ここで、
$$a_2=S_2-a_1=6-2=4$$
 より

$$a_2 - a_1 = 4 - 2 = 2$$

よって、3は n=1 のときも成り立つ、 $\{a_n\}$  は初項 2、公差 2 の等差数列であるから

$$a_n = 2 + 2(n-1) = 2n$$

(別解) (1)の結果から,

 $S_n = n(n+1)$  ……(\*\*) と予想される. これを数学的帰納法によって示す.

(I) n=1 のとき,  $S_1=2$  より (\*\*) は成り立つ.

(II) n=k のとき (\*\*) が成り立つ, すなわち、 $S_k=k(k+1)$  であるとする.

$$S_{k+1}^2 - 2(S_k + 1)S_{k+1} + S_k(S_k - 2) = 0$$
  
これに(\*\*)を代入して、

$$S_{k+1}^2 - 2(k^2 + k + 1)S_{k+1} + k(k+1)(k-1)(k+2) = 0$$

よって.

 ${S_{k+1}-(k-1)k}{S_{k+1}-(k+1)(k+2)}=0$ 各項が正なので  $S_{k+1}>S_k=k(k+1)$  であり

$$S_{k+1} = (k+1)(k+2)$$

となり、n=k+1 のときも (\*\*) は成り立つ.

(I), (II)より、すべてのnについて(\*\*) は成り立つ。

 $n \ge 2$  のとき

$$a_n = S_n - S_{n-1}$$
  
=  $n(n+1) - (n-1)n$   
=  $2n$ 

この結果は n=1 のときも成り立つ. よって,  $a_n=2n$ 

(134-1)(1) 第 k 項は k なので.

$$\sum_{k=1}^{20} k^2 = \frac{1}{6} \cdot 20 \cdot 21 \cdot 41 = 2870$$

(2) 求める総和を S とする.

$$(1+2+\cdots+20)^2$$

$$=1^2+2^2+\cdots+20^2$$

$$+2\{1\cdot 2+1\cdot 3+\cdots+(n-1)\cdot n\}$$

$$=1^2+2^2+\cdots+20^2+2S$$

$$(1+2+\cdots+20)^2 = \left(\frac{20\cdot21}{2}\right)^2 = 44100$$

より

$$44100 = 2870 + 2S$$

よって、S=20615

(3) 求める総和を Tとする.

$$(1+2+\cdots+20)(1^2+2^2+\cdots+20^2)$$

$$= (1^3 + 2^3 + \dots + 20^3) + T$$

$$1^{3} + 2^{3} + \dots + 20^{3} = \frac{1}{4} \cdot 20^{2} \cdot 21^{2}$$

$$= 44100$$

$$\therefore$$
 210·2870=44100+ $T$   
 $\updownarrow$   $\supset$   $\lnot$   $\Tau$  =210·2870-44100  
=558600

 $a_1 = S_1 = 3 - 5 = -2$   $rac{5}{5}$ ,

$$k \ge 2$$
 のとき

$$a_k = S_k - S_{k-1}$$

$$= (3k^2 - 5k) - \{3(k-1)^2 - 5(k-1)\}$$

$$= 6k - 8$$

この結果は k=1 のときも成り立つ.

よって、
$$a_k=6k-8$$

$$b_1 = T_1 = 4 + 1 = 5$$
  $rac{7}{5}$   $rac{1}{5}$ 

 $k \ge 2$  のとき

$$b_k = T_k - T_{k-1}$$
=  $(4k^2 + k) - \{4(k-1)^2 + (k-1)\}$   
=  $8k - 3$ 

この結果は k=1 のときも成り立つ.

よって、
$$b_k=8k-3$$

また,

$$a_k b_k = 2(3k-4)(8k-3)$$
  
=  $2(24k^2-41k+12)$ 

よって.

$$\sum_{k=1}^{n} a_k b_k$$

$$= 2 \left\{ 24 \sum_{k=1}^{n} k^2 - 41 \sum_{k=1}^{n} k + 12n \right\}$$

$$= 8n(n+1)(2n+1) - 41n(n+1) + 24n$$

$$= n(16n^2 - 17n - 9)$$

次に,  $i \neq j$  とするとき, 求める和

$$\sum_{i=1,j=1}^{n} a_i b_j \, \text{ld}$$

$$(a_1 + a_2 + \dots + a_n)(b_1 + b_2 + \dots + b_n)$$

$$-(a_1 b_1 + a_2 b_2 + \dots + a_n b_n)$$

である. ここで.

$$\sum_{k=1}^{n} a_k = \sum_{k=1}^{n} (6k - 8)$$

$$= 3n(n+1) - 8n$$

$$= n(3n-5)$$

$$\sum_{k=1}^{n} b_k = \sum_{k=1}^{n} (8k - 3)$$

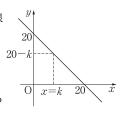
$$= 4n(n+1) - 3n$$

$$= n(4n+1)$$

(求める和)

$$= n(3n-5) \cdot n(4n+1) - n(16n^2 - 17n - 9)$$
  
=  $n(12n^3 - 33n^2 + 12n + 9)$ 

135 (1) 直線 x=k (k=0, 1, 2, …, 20) 上の格子点は  $0 \le y \le 20-k$  より (21-k) 個あ



る. よって、求める格子点の個数は

$$\sum_{k=0}^{20} (21-k) = \frac{21}{2} (21+1)$$

=231 (個)

(2) 右図にお y y=2x いて、 $\triangle AOC$  10 内 (周も含む) 8 において、直線 x=k (k=0, 1, …, 4) x=k (k=0) 公子 において、直線 を除く他の辺は含む)において、直線

$$y=i$$
  $(i=0, 1, \cdots, 7)$  上の格子点は  $5 \le x \le 20-2i$  より  $(20-2i)-4=16-2i$  (個) である. よって、求める格子点の個数は  $\sum_{k=0}^{4} (2k+1) + \sum_{i=0}^{7} (16-2i)$   $= \frac{5}{2}(1+9) + \frac{8}{2}(16+2) = 97$  (個)

**136** (1) a+b=k+1 となる組 (a, b) をまとめて第k群とよぶことにする.

|第1群| 第2群 |(1, 1)|(2, 1), (1, 2)| | 第3群 | ··· |(3, 1), (2, 2), (1, 3)|···

第k群にはk個の自然数の組があるから、200番目に現れる組が第k群にあるとすると

$$1+2+3+\dots+(k-1)<200$$

$$\leq 1+2+3+\dots+(k-1)+k$$

$$(k-1)k < 200 < k(k+1)$$

$$\therefore \frac{(k-1)k}{2} < 200 \le \frac{k(k+1)}{2}$$
$$\therefore (k-1)k < 400 \le k(k+1)$$

 $19 \cdot 20 = 380$ ,  $20 \cdot 21 = 420$  より, k = 20  $\frac{19 \cdot 20}{2} = 190$  より, 200 番目は第 20 群の

200-190=10(番目)にあるから、求める組は

(2) (m, n) は 第 (m+n-1) 群 の n 番目の組であるから、これは

$$\frac{1}{2}(m+n-2)(m+n-1)+n$$
 番目に現れる.

**137-1** 次のような群数列を対応させて 求める.

(1)  $a_{m,1}$  は第m群の初項である. 第k群にはk個の項があるから、

$$a_{m,1} = \{1 + 2 + \dots + (m-1)\} + 1$$

$$= \frac{1}{2}(m-1)m + 1$$

$$= \frac{1}{2}(m^2 - m + 2)$$

(2)  $a_{m,n}$  は第 m+n-1 群の n 番目であるから、

$$a_{m,n} = \{1 + 2 + \dots + (m+n-2)\} + n$$
  
=  $\frac{1}{2} (m+n-2)(m+n-1) + n$ 

 37 36 35 34 33 32 31

 38 17 16 15 14 13

 39 18 5 4 3 12

 40 19 6 1 2 11 28

 41 20 7 8 9 10 27

 $y_4$  43 44 45 46 47 48 (49)

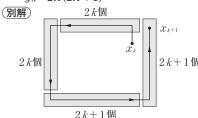
(42) 21 22 23 24 (25) 26

- (1) 1,  $1\sim9$ ,  $1\sim25$ ,  $1\sim49$ , … はそれぞれ1を中心に1辺に1個, 3個,5個,7個, …が並ぶ正方形内にあり、その右下端にその中の最大の数があるので、49の右斜め下の数は $9^2=81$
- (2) 1から $x_n$ は,横2n,縦2n-1の長方形内にあるので.

$$x_n = 2n(2n-1)$$

同様に、1から  $y_n$  は、横 2n+1、縦 2n の 長方形内にあるので、

$$y_n=2n(2n+1)$$



上図より,  $x_k$  から  $x_{k+1}$  までの間に 8k+2 増えるから,

 $n \ge 2$  のとき,

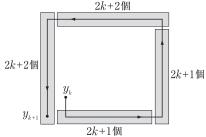
$$x_n = x_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (8k+2)$$

$$= 2 + \frac{(n-1)\{10 + (8n-6)\}}{2}$$

$$= 2 + (n-1)(4n+2)$$

$$= 4n^2 - 2n$$

この結果は n=1 のときも成り立つ. 同じく,  $y_k$  から  $y_{k+1}$  までの間に 8k+6 増えるから,



 $n \ge 2$  のとき,

$$y_n = 6 + \sum_{k=1}^{n-1} (8k+6)$$

$$= 6 + \frac{(n-1)\{14 + (8n-2)\}}{2}$$

$$= 6 + (n-1)(4n+6)$$

$$= 4n^2 + 2n$$

この結果は n=1 のときも成り立つ.

①38-1)与式は $a_{n+1}-6=\frac{1}{2}(a_n-6)$ 

と変形される.

数列  $\{a_n-6\}$  は、初項  $a_1-6=7-6=1$ ,

公比  $\frac{1}{3}$  の等比数列であるから,

$$a_n - 6 = 1 \cdot \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}$$
  
よって、 $a_n = 6 + \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1}$ 

(138-2) (1) 
$$S_n = -5 + 2n - a_n \ (n \ge 1)$$
 .....(1)  $S_{n+1} = -5 + 2(n+1) - a_{n+1} \ (n \ge 0)$ 

·····(2)

$$a_{n+1} = 2 - a_{n+1} + a_n$$

したがって、
$$a_{n+1}=\frac{1}{2}a_n+1$$
 ( $n \ge 1$ )

(2) ①において、n=1 とおくと、 $a_1=-5+2-a_1$ 

したがって、
$$a_1 = -\frac{3}{2}$$

(3) (1)の関係式は

$$a_{n+1}-2=\frac{1}{2}(a_n-2)$$
 と変形されるから、

$$a_n - 2 = (a_1 - 2) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} = -\frac{7}{2} \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}$$

したがって、
$$a_n=2-7\left(\frac{1}{2}\right)^n$$

**138-3** (1)  $a_1$ =1>0 であることと, 与えられた漸化式の形から, すべての n に対して  $a_n$ >0 である (厳密には数学的 帰納法を用いる).

両辺の逆数をとることができて.

$$\frac{1}{a_{n+1}} = \frac{3a_n + 2}{a_n}$$

$$\therefore \frac{1}{a_{n+1}} = 2 \cdot \frac{1}{a_n} + 3$$

よって、
$$b_n = \frac{1}{a_n}$$
 とおくと、

$$b_{n+1} = 2b_n + 3$$

(2) (1)の結果は  $b_{n+1}+3=2(b_n+3)$ 

と変形されるから,

$$b_n+3=(b_1+3)\cdot 2^{n-1}=4\cdot 2^{n-1}$$
  
 $1>7, b_n=2^{n+1}-3$ 

これより,

$$a_n = \frac{1}{2^{n+1}-3}$$

(139-1) (1)  $a_{n+1}-a_n=3^n+2n$  であるから、 $n \ge 2$  のとき、

$$a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (3^k + 2k)$$
$$= 1 + \sum_{k=1}^{n-1} 3^k + 2 \sum_{k=1}^{n-1} k$$

$$=1+\frac{3}{2}(3^{n-1}-1)+(n-1)n$$

$$=\frac{3^{n}}{2}+(n-1)n-\frac{1}{2}$$

この結果は n=1 のときも成り立つ. よって,

$$a_n = \frac{3^n}{2} + (n-1)n - \frac{1}{2}$$

(2) 与式の両辺を  $2^{n+1}$  で割ると,

$$\frac{a_{n+1}}{2^{n+1}} = \frac{a_n}{2^n} + \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\right)^n$$

となる. 
$$\frac{a_n}{2^n} = b_n$$
 とおくと,

$$b_{n+1} - b_n = \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\right)^n, b_1 = \frac{6}{2} = 3$$

よって、 $n \ge 2$  のとき、

$$b_n = 3 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\right)^k$$
$$= 3 + \frac{3}{4} \cdot \frac{\left(\frac{3}{2}\right)^{n-1} - 1}{\frac{3}{2} - 1}$$

$$=3+\left(\frac{3}{2}\right)^n-\frac{3}{2}$$

$$= \left(\frac{3}{2}\right)^n + \frac{3}{2}$$

この結果は n=1 のときも成り立つ.

$$a_n = 2^n \left\{ \left( \frac{3}{2} \right)^n + \frac{3}{2} \right\}$$
  
= 3^n + 3 \cdot 2^{n-1}

(別解) 1. 与式の両辺を  $3^{n+1}$  で割ると,

$$\frac{a_{n+1}}{3^{n+1}} = \frac{2}{3} \frac{a_n}{3^n} + \frac{1}{3}$$

となる.  $\frac{a_n}{3^n}=c_n$  とおくと,

$$c_{n+1} = \frac{2}{3}c_n + \frac{1}{3}$$

これは

$$c_{n+1}-1=\frac{2}{3}(c_n-1)$$

と変形される. 数列  $\{c_n-1\}$  は初項  $c_1-1=\frac{6}{2}-1=1$ , 公比  $\frac{2}{2}$  の等比数列で

あるから.

$$c_n - 1 = 1 \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$$

$$\therefore \frac{a_n}{3^n} - 1 = \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1}$$

$$\therefore a_n = 3^n + 3 \cdot 2^{n-1}$$

2. 
$$a_{n+1} = 2a_n + 3^n$$
 ......①  $\alpha 3^{n+1} = 2 \cdot \alpha 3^n + 3^n$  .....②

②がどんな自然数nに対しても成り立つのは

 $3\alpha = 2\alpha + 1$  より、 $\alpha = 1$  のときである。  $\alpha = 1$  として①、②の辺々をひくと  $a_{n+1} - 3^{n+1} = 2(a_n - 3^n)$ 

が得られる.

$$a_n - 3^n = (a_1 - 3) \cdot 2^{n-1} = 3 \cdot 2^{n-1}$$
 これより,

$$a_n = 3^n + 3 \cdot 2^{n-1}$$

**139-2**  $a_1$ =1>0 であることと、与えられた漸化式の形から、すべての自然数nに対して、 $a_n$ >0 である(厳密には数学的帰納法を用いる). よって、両辺の逆数をとることができて

$$\frac{1}{a_{n+1}} = \frac{na_n + 2}{a_n} = 2 \cdot \frac{1}{a_n} + n$$

$$\frac{1}{a_n} = b_n$$
 とおくと,

$$b_1=1, b_{n+1}=2b_n+n \cdots 0$$

次にすべての自然数nに対して

 $\alpha(n+1)+\beta=2(\alpha n+\beta)+n$  ……② となるように、 $\alpha$ 、 $\beta$  を定めると、

$$\alpha = -1$$
,  $\beta = -1$ 

①-②より、 $b_{n+1}=2b_n+n$  は  $b_{n+1}+(n+1)+1=2(b_n+n+1)$ と変形される.

よって、数列  $\{b_n+n+1\}$  は初項  $b_1+1+1=3$ 、公比 2 の等比数列であるから、

$$b_n + n + 1 = 3 \cdot 2^{n-1}$$
 $\therefore b_n = 3 \cdot 2^{n-1} - n - 1$ 
したがって、 $a_n = \frac{1}{3 \cdot 2^{n-1} - n - 1}$ 

$$(140)$$
 (1)  $a_{n+2} - pa_{n+1}$ 

$$=q(a_{n+1}-pa_n) \qquad \cdots (*)$$

 $a_{n+2}-(p+q)a_{n+1}+pqa_n=0$  であるから、どんなnに対しても成り立つ条件は、与式と比較して

$$p+q=2, pq=-1$$

である. p, q は、解と係数の関係より

$$t^2-2t-1=0$$
 の解  $t=1\pm\sqrt{2}$ 

であり、 *p*<*q* より

$$p=1-\sqrt{2}, q=1+\sqrt{2}$$

(2) (\*)より,

$$c_{n+1} = qc_n \quad (n=1, 2, 3, \cdots)$$
 が成り立つ。

また、(\*)において、 $p \ge q$  を入れかえた 等式も成り立つことから、

$$d_{n+1} = pd_n$$
 ( $n=1, 2, 3, \cdots$ )  
も成り立つ

これらより数列  $\{c_n\}$  は公比 q,

初項  $c_1=a_2-pa_1=2-p=q$  の等比数列,数列  $\{d_n\}$  は公比 p,初項 p の等比数列である.

よって,

$$c_n = q \cdot q^{n-1} = (1 + \sqrt{2})^n$$
  
 $d_n = p \cdot p^{n-1} = (1 - \sqrt{2})^n$ 

(3) (2)の結果から

$$\begin{cases} a_{n+1} - pa_n = q^n \\ a_{n+1} - qa_n = p^n \end{cases}$$

 $= 2n + p - q = q^n - p^n$ 

ここで、
$$-(p-q)=2\sqrt{2}$$
  
であるから、

$$a_n = \frac{(1+\sqrt{2})^n - (1-\sqrt{2})^n}{2\sqrt{2}}$$

$$\begin{array}{ll} (141-1) & (1) & a_{n+1} + tb_{n+1} \\ = (2a_n + b_n) + t(4a_n - b_n) \end{array}$$

$$=(2+4t)a_n+(1-t)b_n$$

より,

$$a_{n+1} + tb_{n+1} = k(a_n + tb_n)$$

 $\iff$ 

 $(2+4t)a_n+(1-t)b_n=ka_n+ktb_n$ これが任意のnに対して成り立つ条件は、

$$\begin{cases} 2+4t=k & \cdots \\ 1-t=kt & \cdots \end{cases}$$

①を②に代入して.

$$1-t=t(2+4t)$$

$$4t^2+3t-1=0$$

$$(t+1)(4t-1)=0$$

$$\therefore$$
  $t=-1, \frac{1}{4}$ 

これより、 $(t_1, k_1)$ 、 $(t_2, k_2)$  は (-1, -2)、 $\left(\frac{1}{4}, 3\right)$ 

(2) (1)で求めた組(t, k) に対して数列  $\{a_n+tb_n\}$  は公比kの等比数列であるから.

$$a_n + tb_n = (a_1 + tb_1)k^{n-1}$$
  
 $(t_1, k_1) = (-1, -2)$  に対し  
 $a_n - b_n = (a_1 - b_1) \cdot (-2)^{n-1}$   
 $= -3 \cdot (-2)^{n-1}$   
 $(t_2, k_2) = \left(\frac{1}{4}, 3\right)$  に対し  
 $a_n + \frac{1}{4}b_n = \left(a_1 + \frac{1}{4}b_1\right) \cdot 3^{n-1} = 2 \cdot 3^{n-1}$   
 $(3)$  (2)の結果を連立して、

$$a_n = \frac{1}{5} \{ 8 \cdot 3^{n-1} - 3 \cdot (-2)^{n-1} \}$$

$$b_n = \frac{4}{5} \{ 2 \cdot 3^{n-1} + 3 \cdot (-2)^{n-1} \}$$

#### 141-2

(1)  $a_{n+1}+2b_{n+1}$ 

$$=(a_n+4b_n)+2(a_n+b_n)=3(a_n+2b_n)$$
  
 $a_1=b_1=1$  より、数列  $\{a_n+2b_n\}$  は初項  $a_1+2b_1=1+2\cdot 1=3$ 、公比3の等比数列であるから、

$$a_n + 2b_n = 3 \cdot 3^{n-1} = 3^n$$

(2) 
$$b_n = \frac{3^n - a_n}{2} \notin a_{n+1} = a_n + 4b_n$$

$$a_{n+1} = a_n + 4 \cdot \frac{3^n - a_n}{2}$$

$$\therefore a_{n+1} = -a_n + 2 \cdot 3^n \qquad \cdots$$

$$t_n = u_n + 2 s$$
 すべての自然数 $n$ に対して

$$p3^{n+1} = -p3^n + 2 \cdot 3^n$$

が成り立つのは  $p=\frac{1}{2}$  のときであるか

ら、(\*)は、

$$a_{n+1} - \frac{1}{2} \cdot 3^{n+1} = -\left(a_n - \frac{1}{2} \cdot 3^n\right)$$

と変形できる.

よって、数列 
$$\left\{a_n-\frac{1}{2}\cdot 3^n\right\}$$
 は初項

$$a_1 - \frac{3}{2} = -\frac{1}{2}$$
, 公比  $-1$  の等比数列であるから.

$$a_n - \frac{1}{2} \cdot 3^n = -\frac{1}{2} \cdot (-1)^{n-1}$$
$$= \frac{1}{2} \cdot (-1)^n$$

よって 
$$a_n = \frac{3^n + (-1)^n}{2}$$

(別解) 1.  $a_{n+1} = -a_n + 2 \cdot 3^n$  の両辺を $3^{n+1}$  で割る、あるいは、 $(-1)^{n+1}$  で割ることにより(\*)を解くこともできる.

2.  $\alpha = \frac{\alpha+4}{\alpha+1}$  を解くと  $\alpha = \pm 2$  なので,

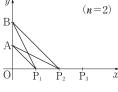
(1)の数列  $\{a_n+2b_n\}$  と数列  $\{a_n-2b_n\}$  をあわせて考える.

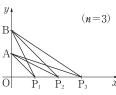
$$a_{n+1}-2b_{n+1}=-(a_n-2b_n)$$
 より、 $a_n-2b_n=(-1)^n$ . これと(1)の結果を連立して、 $a_n=\frac{3^n+(-1)^n}{2}$ を得る.

### 142

ら  $a_2=6$ ,  $a_3=10$  (2) 線分  $AP_1$ , …,  $AP_n$ ,  $BP_n$ , …,  $BP_n$  によって,第1象 限が $a_n$  個の 部分に分けられているとき, 線分  $AP_{n+1}$ 

(1) 右図か





をひけば、この線分はすでにあるn本の線分  $BP_1$ 、…, $BP_n$  と交わって,<math>n+1 個の部分に分けられる.このn+1 個の部

分1つ1つに対応して、第1象限の部分が1つずつ増える。 さらに  $BP_{n+1}$ をひくことで、第1象限の部分がさらに1個増える。よって、

$$a_{n+1}=a_n+(n+2)$$

(3)  $a_1=3$  である. (2)より、 $n \ge 2$  のとき

$$a_n = a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = 3 + \sum_{k=1}^{n-1} (k+2)$$
  
= 1 + 2 + {3 + 4 + \cdots + n + (n+1)}  
=  $\frac{1}{2}$  (n+1)(n+2)

この結果は n=1 のときも成り立つ.

**143-1** 最初に平面と接していた面を*A* とおく.

(1) n=1 のとき;1 回目の操作でA は底面でなくなるから.

$$p_1 = 0$$

n=2 のとき;1回目の操作でAは底面にないので,2回目の操作でAが底面にくるためには回転軸の選び方が3本のうちの1つに確定される.

$$p_2 = \frac{1}{3}$$

n=3 のとき;2回目の操作でAは底面になく,3回目の操作でAが底面にくるときであるから。

$$p_3 = (1 - p_2) \times \frac{1}{3} = \left(1 - \frac{1}{3}\right) \times \frac{1}{3} = \frac{2}{9}$$

(2) (n+1) 回目にAが平面と接するのは、n 回目の操作でAは底面になく、(n+1) 回目の操作でAが底面にくるときであるから、

$$p_{n+1} = (1-p_n) \times \frac{1}{3}$$

$$p_{n+1} = -\frac{1}{3}p_n + \frac{1}{3}$$

この漸化式は

$$p_{n+1} - \frac{1}{4} = -\frac{1}{3} \left( p_n - \frac{1}{4} \right)$$

と変形されるから,

$$p_n - \frac{1}{4} = \left(p_1 - \frac{1}{4}\right)\left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1}$$

$$= -\frac{1}{4} \left( -\frac{1}{3} \right)^{n-1}$$
  
よって,  $p_n = \frac{1}{4} \left\{ 1 - \left( -\frac{1}{3} \right)^{n-1} \right\}$ 

(143-2) 各列の $\bigcirc$ または $\times$ のつけ方は  $2^2=4$  (通り) あるから, $2\times n$  のマス目の  $\bigcirc$ または $\times$ のつけ方は  $4^n$  通りである. 少なくとも 1つの列に $\bigcirc$ が 2つ並ぶ並び 方  $P_1$ , $P_2$  は

n=1 のとき: $\bigcirc$  だけであり、 $P_1=1$ 

は任意に取れて4通り, さらに

×	0		×	0		0	0	<i>∞</i> 3
0	0	,	×	0	,	×	0	V) 3

通りがあるから、 $P_2$ =4+3=7 また、 $2 \times (n+1)$  のマス目の少なくとも 1つの列に○が2つ並ぶのは

- (i) 2×nのマス目の少なくとも1つの列に○が2つ並んでいるとき(第(n+1)列目は任意).
- (ii)  $2 \times n$  のマス目のどの列も $\bigcirc$ が 2 つ並ばず  $((4^n P_n)$  通り), 第 (n+1) 列目は $\bigcirc$ が 2 つ並んでいるとき. の 2 通りがある.
- (i). (ii) は排反であるから.

$$P_{n+1} = P_n \times 4 + (4^n - P_n) \times 1$$
  
=  $3P_n + 4^n$ 

である.  $\bigcirc$ と×をそれぞれ  $\frac{1}{2}$  の確率でつけるとすると,  $4^n$  通りは等確率で起こるから,  $q_n = \frac{P_n}{4^n}$  である.

 $q_{n+1}$  を  $q_n$  の式で表すと

$$q_{n+1} = \frac{3}{4}q_n + \frac{1}{4}$$

であり、この漸化式は

$$q_{n+1}-1=\frac{3}{4}(q_n-1)$$
 と変形される.

$$q_1 = \frac{1}{4} \ \mathcal{D} \mathcal{T}$$

$$q_{n}-1=(q_{1}-1)\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1}=-\left(\frac{3}{4}\right)^{n}$$

$$\therefore q_{n}=1-\left(\frac{3}{4}\right)^{n}$$
(答) ア  $4^{n}$  イ 1 ウ 7

 $\pm 3P_{n}+4^{n}$  オ  $\frac{3}{4}q_{n}+\frac{1}{4}$ 
カ  $1-\left(\frac{3}{4}\right)^{n}$ 

(144-1) 1度に3段おりてしまうことをしない場合の最上段からn段おりる場合の数を $a_n$ とすると

- (i) 最後に1段おりるとき 最上段からn段おりる場合の数は a<sub>n-1</sub>通り
- (ii) 最後に 2 段おりるとき 最上段からn 段おりる場合の数は  $a_{n-2}$  通り であるから、

$$a_n = a_{n-1} + a_{n-2} \quad (n \ge 3)$$
  
よって、 $a_1 = 1$ ,  $a_2 = 2$  とから  
 $a_3 = a_2 + a_1 = 3$   
 $a_4 = a_3 + a_2 = 5$   
 $a_5 = a_4 + a_3 = 8$   
 $a_6 = a_5 + a_4 = 13$   
 $a_7 = a_6 + a_5 = 21$   
 $a_8 = a_7 + a_6 = 34$   
 $a_9 = a_8 + a_7 = 55$ 

となる.

また、残りがちょうど 3 段となって、最後に 3 段おりるおり方の数は最上段から 9-3=6 (段) おりる場合の数  $a_6=13$  であるから、求める場合の数は

55+13=68 (通り)

#### 144-2

上図より  $u_3=2$ 

があり、それぞれの場合の数を加えると、 $u_4=3+6=9$ 

- (2) "球xを箱yに入れる"ことを f(x)=y と書く、f(1)=a ( $\pm 1$ ) とする とaのとり方は 2、3、…、n+1 のn 通り.
- (i) f(a)=1 のとき、球 1、a を除いた残り n-1 個の入れ方は  $u_{n-1}$  通り、
- (ii) f(a)  $\pm 1$  のとき、球a を箱1に入れることができないのだから、箱1を箱a と考え  $2\sim n+1$  のn 個の球の入れ方を考えればよいので $u_n$  通りある。よって、

$$u_{n+1} = n(u_{n-1} + u_n) = nu_n + nu_{n-1}$$

(3) 
$$u_{n+1} - (n+1)u_n = -u_n + nu_{n-1}$$
  
=  $-(u_n - nu_{n-1})$ 

であるから  $\{u_{n+1}-(n+1)u_n\}$ 

 $(n=1, 2, 3, \cdots)$  は公比 -1 の等比数列 であり、

$$u_{n+1}-(n+1)u_n=(u_2-2u_1)(-1)^{n-1}$$
  
 $u_1=0, u_2=1$  だから、

$$u_{n+1} = (n+1)u_n + (-1)^{n-1}$$

**参考** これは攪乱順列 (完全順列) とよばれているもので、 $u_n$  はモンモール数という

(3)の結果式において  $(-1)^{n-1}=(-1)^{n+1}$  より、両辺を (n+1)! で割ると

$$\frac{u_{n+1}}{(n+1)!} = \frac{u_n}{n!} + \frac{(-1)^{n+1}}{(n+1)!}$$

よって、 $n \ge 2$  のとき

$$\frac{u_n}{n!} = \frac{u_1}{1!} + \sum_{i=1}^{n-1} \frac{(-1)^{i+1}}{(i+1)!} = 0 + \sum_{k=2}^{n} \frac{(-1)^k}{k!}$$

$$(k=i+1) \ge 3$$

$$\therefore u_n = n! \sum_{k=0}^{n} \frac{(-1)^k}{k!} \quad (n \ge 2)$$

145 (1) 
$$(x+1)^n$$
  
 $=(x^2-2x-2)Q(x)+a_nx+b_n$  ……①  
とおく、①の両辺に  $(x+1)$ をかけて  $(x+1)^{n+1}$   
 $=(x^2-2x-2)(x+1)Q(x)$   
 $+a_nx(x+1)+b_n(x+1)$   
 $=(x^2-2x-2)(x+1)Q(x)$ 

$$=\frac{k^2+3k+1}{k^2(k+1)^3}>0$$

よって、n=k+1 のときも成り立つ。 (I)、(II)よりすべての自然数nに対して与式が成り立つ。

(146-2) (1) 
$$a_1=4$$
,  $a_{n+1}=\frac{4}{n+1}+\frac{1}{a_n}$ 

$$a_{2} = \frac{4}{1+1} + \frac{1}{4} = \frac{9}{4},$$

$$a_{3} = \frac{4}{2+1} + \frac{4}{9} = \frac{16}{9},$$

$$a_{4} = \frac{4}{2+1} + \frac{9}{16} = \frac{25}{16}$$

これより,  $a_n = \left(\frac{n+1}{n}\right)^2$  と予想される.

(2) (I) 
$$n=1$$
 のときは  $\left(\frac{1+1}{1}\right)^2 = 4$ 

となり、成り立つ.

(II) 
$$n=k$$
 で成り立つと仮定すると 
$$a_k = \left(\frac{k+1}{b}\right)^2$$

n=k+1 のとき.

$$a_{k+1} = \frac{4}{k+1} + \frac{1}{a_k}$$

$$= \frac{4}{k+1} + \left(\frac{k}{k+1}\right)^2$$

$$= \frac{4(k+1) + k^2}{(k+1)^2}$$

$$= \left(\frac{k+2}{k+1}\right)^2$$

(I), (II)より、すべての自然数nに対して (1)の予想が正しいことが示された.

**147-1** (1)  $\alpha$ ,  $\beta$ は  $x^2 - kx + 2 = 0$  の 2 解であるから.

$$\alpha^2 = k\alpha - 2$$
$$\beta^2 = k\beta - 2$$

2式の両辺にそれぞれ  $\alpha^n$ ,  $\beta^n$  をかけて 加えると,

$$\alpha^{n+2} + \beta^{n+2} = k(\alpha^{n+1} + \beta^{n+1}) - 2(\alpha^n + \beta^n)$$
  

$$\therefore a_{n+2} = ka_{n+1} - 2a_n$$

よって、 $a_{n+2}=ra_{n+1}+sa_n$  をみたす定数r. s の組の1つは

$$(r, s) = (k, -2)$$

(2) • *a<sub>n</sub>* (*n*=1, 2, …) は整数であること:

(I) n=1, 2 のとき,  $a_1=\alpha+\beta=k$   $a_2=\alpha^2+\beta^2=k(\alpha+\beta)-4=k^2-4$ より成り立つ.

(II) n=k, k+1  $0 \geq 3$ ,

 $a_k$ ,  $a_{k+1}$  が整数であるとすると、

$$a_{k+2} = ka_{k+1} - 2a_k$$

であるから ακ+2 も整数.

(I), (II) より n=1, 2, … に対して  $a_n$  は整数である.

• k が偶数ならば  $a_n$  は偶数であること:

(I) n=1, 2 のときは  $a_1=k$ ,  $a_2=k^2-4$  は偶数である.

(II) n=k, k+1  $0 \geq 3$ ,

 $a_k$ ,  $a_{k+1}$  が偶数であるとすると、

 $a_{k+2} = ka_{k+1} - 2a_k$ 

の右辺は2で割り切れるから,

 $a_{k+2}$ も偶数.

(I), (II)より n=1, 2, … に対して  $a_n$  は偶数.

• k が奇数ならば  $a_n$  は奇数であることも同様に示せる.

①47-2 与えられた等式に n=1 を代入して

 $3(a_1^2) = a_1 a_2$ ,  $a_1 = 2$  より,  $a_2 = 6$  n = 2 を代入して

 $3(2^2+6^2)=2\cdot 6a_3$  よって,  $a_3=10$  n=3 を代入して

 $3(2^2+6^2+10^2)=3\cdot10a_4$  よって、 $a_4=14$  以上から、数列  $\{a_n\}$  は、初項 2、公差 4 の等差数列、すなわち、

 $a_n=4n-2$  ······(\*) であると推測される.

以下(\*)がすべての自然数nで成り立つことを示す。

(I) n=1 のとき,  $a_1=2$  より(\*)は成

り立つ.

(II)  $n=1, 2, \dots, k$  のとき、(\*)の成立を仮定する。

 $1 \le m \le k$  のとき,

$$a_m=4m-2$$

であるから,

$$\sum_{m=1}^{k} a_m^2$$

$$=\sum_{m=1}^{k}4(4m^2-4m+1)$$

$$=4\left\{\frac{2}{3}k(k+1)(2k+1)-2k(k+1)+k\right\}$$

$$= \frac{4}{3}k(2k-1)(2k+1)$$

よって、与えられた等式に n=k を代入すると

$$4k(2k-1)(2k+1)=k(4k-2)a_{k+1}$$
  
したがって、

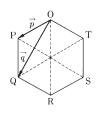
$$a_{k+1}=4k+2=4(k+1)-2$$

よって、n=k+1 のときも(\*)は成り立つ。

(I), (II)よりすべての自然数nで(\*)が成り立つ。

#### 第9章

$$\begin{array}{l}
(148-1) \quad \overrightarrow{OR} = 2\overrightarrow{PQ} \\
= 2(\overrightarrow{q} - \overrightarrow{p}) \\
\overrightarrow{OS} = \overrightarrow{OR} + \overrightarrow{RS} \\
= 2(\overrightarrow{q} - \overrightarrow{p}) - \overrightarrow{p} \\
= 2\overrightarrow{q} - 3\overrightarrow{p} \\
\overrightarrow{OT} = \overrightarrow{QR} = \overrightarrow{OR} - \overrightarrow{OQ} \\
= 2(\overrightarrow{q} - \overrightarrow{p}) - \overrightarrow{q} \\
= \overrightarrow{q} - 2\overrightarrow{p}$$



$$\overrightarrow{CD} = \frac{1}{\sqrt{2} + 1} (\overrightarrow{OE} - \overrightarrow{OB})$$

$$= (\sqrt{2} - 1)(-\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB})$$

$$= (1 - \sqrt{2})\overrightarrow{OA} + (1 - \sqrt{2})\overrightarrow{OB}$$

$$\ddagger \not \succsim, \overrightarrow{EH} = \left(1 + 2 \times \frac{1}{\sqrt{2}}\right) \overrightarrow{CB}$$

$$= (1 + \sqrt{2}) \{\overrightarrow{OB} - (-\overrightarrow{OA} + \sqrt{2}\overrightarrow{OB})\}$$

$$= (1 + \sqrt{2}) \overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB}$$

①48-3 (1) △BAC は底角 36°の二等辺 三角形であり、 $AC=2\times AB\cos 36^\circ$   $=\frac{\sqrt{5}+1}{2}$ 



2 DE # CA,
DE=1 であるから,  $\overrightarrow{DE} = \frac{\overrightarrow{CA}}{|\overrightarrow{CA}|} = \frac{2}{\sqrt{5}+1} \overrightarrow{CA}$   $= \frac{1-\sqrt{5}}{2} (\overrightarrow{a} + \overrightarrow{b})$ また,  $\overrightarrow{CE} = \frac{\sqrt{5}+1}{2} \overrightarrow{BA} = -\frac{\sqrt{5}+1}{2} \overrightarrow{a}$ 

であるから

$$\overrightarrow{EA} = \overrightarrow{CA} - \overrightarrow{CE} = -(\vec{a} + \vec{b}) + \frac{\sqrt{5} + 1}{2}\vec{a}$$
$$= \frac{\sqrt{5} - 1}{2}\vec{a} - \vec{b}$$

(149-1) 
$$\vec{r} = \alpha \vec{p} + \beta \vec{q}$$
 とすると  
(10, 15)= $\alpha$ (-1, 3)+ $\beta$ (4, 1)  
= $(-\alpha + 4\beta, 3\alpha + \beta)$   
∴  $\begin{cases} -\alpha + 4\beta = 10 \\ 3\alpha + \beta = 15 \end{cases}$   
∴  $\alpha = \frac{50}{13}, \beta = \frac{45}{13}$   
よって、 $\vec{r} = \frac{50}{12} \vec{p} + \frac{45}{12} \vec{q}$ 

$$\vec{u} = \frac{2\vec{a} + \vec{b}}{3} = \left(\frac{5}{3}, \frac{8}{3}\right)$$

$$\frac{\cancel{0} - \cancel{0}}{-3} \downarrow 0, \ \vec{v} = \frac{\vec{a} - \vec{b}}{-3} = \left(\frac{2}{3}, \frac{2}{3}\right)$$

であるから  $|\vec{b}|^2 = 3^2 + (3 - 2k)^2 = 4k^2 - 12k + 18$  $=4\left(k-\frac{3}{2}\right)^2+9$ 

 $1 \le k \le 3$  であるから,  $|\vec{p}|$  は k=3 のと き, 最大値  $3\sqrt{2}$  をとる.

$$=\frac{1}{1-x}\left(-x\vec{b}+\frac{m}{m+n}\vec{a}\right)$$

3点O, S, Tが一直線上にあるから  $\overrightarrow{OS} = k\overrightarrow{OT}$ 

をみたす実数 k が存在する.

$$(1) \iff -x\vec{a} + \frac{n}{m+n}\vec{b}$$
$$= k\left(\frac{m}{m+n}\vec{a} - x\vec{b}\right)$$

 $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  は 1 次独立なので (標問 **154** 参照)

$$\begin{cases}
-x = k \frac{m}{m+n} \\
\frac{n}{m+n} = -kx
\end{cases}$$

kを消去すると.

$$-x = -\frac{n}{x(m+n)} \times \frac{m}{m+n}$$

$$\therefore x^2 = \frac{mn}{(m+n)^2} \quad \therefore \quad x = \frac{\sqrt{mn}}{m+n}$$

$$0 \cdot t = \frac{1}{2}$$
 となる.

これは不合理である.  $1-2a \neq 0$  であり  $t = \frac{1-a}{1-2a}$ 

さらに、QがPTの中点であるのは、 t=2 のときであるから、①より

$$-a+2(1-a)=1$$
 :  $a=\frac{1}{3}$ 

BがATの中点であるのは、TがAB を2:1に外分するときであるから、

$$t(1-a):a(1-t)=2:(-1)$$

$$\therefore 2a(1-t) = -t(1-a)$$

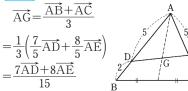
$$\therefore 2a + (1-3a)t = 0$$

$$t=\frac{1-a}{1-2a}$$
 を代入して整理すると、

$$a^2 + 2a - 1 = 0$$

$$a^2 + 2a - 1 = 0$$
 :  $a = -1 \pm \sqrt{2}$ 

(151-2) △ ABC の重心をGとすると、



Gは線分 DE を 8:7

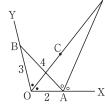
に内分する点である. すなわち、線分 DE は重心Gを通っている.

(1)  $\frac{a}{|\vec{a}|}$ ,  $\frac{\vec{b}}{|\vec{b}|}$ はともに単位 ベクトルであるか ら. 始点をそろえ ると、この2つの

ベクトルを2辺とする平行四辺形はひし 形である.  $\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} + \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|}$  はひし形の対角線 であり、角を二等分している.

よって、点Cが∠XOYの二等分線上に あるとき、 $\overrightarrow{c} = \overrightarrow{OC}$  はある実数 t を用い て  $\vec{c} = t \left( \frac{\vec{a}}{|\vec{a}|} + \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|} \right)$  と表せる.

(2) P 11 ∠XOYの二等分 線上の点なので、  $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$  はある実 数 t を用いて  $\vec{p} = t \left( \frac{\vec{a}}{2} + \frac{\vec{b}}{3} \right)$ 



と表せる. また. P は ∠XAB の二等分 線上の点なので、ある実数 s を用いて

$$\vec{p} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP}$$

$$= \vec{a} + s \left( \frac{\vec{a}}{2} + \frac{\overrightarrow{AB}}{4} \right)$$

$$= \vec{a} + s \left\{ \frac{\vec{a}}{2} + \frac{1}{4} (\vec{b} - \vec{a}) \right\}$$

$$= \left( 1 + \frac{s}{4} \right) \vec{a} + \frac{s}{4} \vec{b} \qquad \dots \dots 2$$

と表せる.

 $\vec{a}$ .  $\vec{b}$  は 1 次独立なので、①、②から (標間 154 参照)

$$\begin{cases} \frac{t}{2} = 1 + \frac{s}{4} \\ \frac{t}{3} = \frac{s}{4} \end{cases} \quad \therefore \quad t = 6, \quad s = 8$$

 $\ddot{b} = 3\vec{a} + 2\vec{b}$ 

(153-1) 点 A, B, C, P の位置ベクトル  $\vec{e}$   $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ ,  $\vec{b}$  とすると  $2(\vec{a}-\vec{b})+3(\vec{b}-\vec{b})+4(\vec{c}-\vec{b})=\vec{0}$ 

$$\vec{p} = \frac{2\vec{a} + 3\vec{b} + 4\vec{c}}{9} = \frac{2\vec{a} + 7 \times \frac{3\vec{b} + 4\vec{c}}{7}}{9}$$

したがって、D は線分 BC を 4:3 に内分 する点である.

(別解) 始点をAにそろえると. もっと スッキリする.

$$-2\overrightarrow{AP} + 3(\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AP}) + 4(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AP})$$

$$= \overrightarrow{0} \quad & \checkmark \circ \circ \circ$$

$$\overrightarrow{AP} = \frac{3\overrightarrow{AB} + 4\overrightarrow{AC}}{9}$$

$$= \frac{7}{9} \times \frac{3\overrightarrow{AB} + 4\overrightarrow{AC}}{7}$$

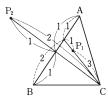
**153-2** 点 A, B, C, P の位置ベクト ルを $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ ,  $\vec{p}$  とする.

$$(1) \quad 2(\vec{p} - \vec{a}) + (\vec{p} - \vec{b}) + (\vec{p} - \vec{c}) \\ = \vec{0}$$

$$\text{$\sharp$ > 7$ $\vec{p} = \frac{2\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{4} = \frac{3 \times \frac{2\vec{a} + \vec{b}}{3} + \vec{c}}{4}$}$$

これより点Pは右 図のP<sub>1</sub>にある.

 $(2) \quad (\vec{p} - \vec{a}) \\ + (\vec{p} - \vec{b}) \\ - (\vec{p} - \vec{c}) = \vec{0}$ 



$$\begin{array}{l}
\vec{b} = \vec{a} + \vec{b} - \vec{c} \\
= 2 \times \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} - \vec{c}
\end{array}$$

よって、外分点の公式より点Pは上図の $P_2$ にある。

 $\begin{array}{ll}
(53-3) & 3\overrightarrow{PA} + x\overrightarrow{PB} + 2\overrightarrow{PC} = \overrightarrow{0} \\
 & \cancel{x} \circ \cancel{C} \\
 & -3\overrightarrow{AP} + x(\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AP}) \\
 & + 2(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AP}) \\
 & = \overrightarrow{0} \\
 & \therefore \overrightarrow{AP} \\
 & = \frac{x\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}}{x+5} \\
 & = \frac{x+2}{x+5} \times \frac{x\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}}{x+2}
\end{array}$ 

点Pは上図の位置にあるから,

$$\triangle$$
ABC:  $\triangle$ PBC=4:1  
 $\therefore$  (x+5): 3=4:1  
 $\therefore$  x=7

(154-1) 背理法を使う.

 $m \neq 0$  とすると,  $\vec{a} = -\frac{n}{m}\vec{b}$ 

 $\vec{a} + \vec{0}$  ゆえ, n + 0 であり,  $\vec{a} / / \vec{b}$  これは  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  が平行でないことに矛盾. したがって, m = 0. 同様にして, n = 0 でもある.

**154-2** Lは BN 上の点であるから, ある実数 *t* を用いて

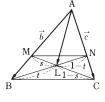
$$\overrightarrow{AL} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AN}$$
  
=  $(1-t)\overrightarrow{b} + \frac{2t}{3}\overrightarrow{c}$ 

と表せる.

また, Lは CM 上の 点でもあるので, あ る実数 s を用いて

$$\overrightarrow{AL} = (1 - s)\overrightarrow{AM} + s\overrightarrow{AC}$$

$$=\frac{2(1-s)}{3}\vec{b}+s\vec{c}$$



と表せる.  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  は 1 次独立であるから,

$$\begin{cases} 1 - t = \frac{2(1 - s)}{3} \\ \frac{2t}{3} = s \end{cases} \quad \therefore \quad t = \frac{3}{5}, \quad s = \frac{2}{5}$$

よって、
$$\overrightarrow{\mathrm{AL}} = \frac{2}{5}(\overrightarrow{b} + \overrightarrow{c})$$

(155-1) (1)  $\alpha + \beta = k$  とおくと,  $\alpha + \beta = k$  とおくと,  $\alpha + \beta = k$  とおくと,  $\alpha = \beta = 0$   $\alpha =$ 

$$\overrightarrow{\mathrm{OP}} \!=\! \frac{\alpha}{k} (k \overrightarrow{\mathrm{OA}}) \!+\! \frac{\beta}{k} (k \overrightarrow{\mathrm{OB}})$$

$$\overrightarrow{OA'} = k\overrightarrow{OA}$$
,  $\overrightarrow{OB'} = k\overrightarrow{OB}$  とおくと  $\frac{\alpha}{k} + \frac{\beta}{k} = 1$ ,  $\frac{\alpha}{k} \ge 0$ ,  $\frac{\beta}{k} \ge 0$  であるから,

Pは線分 A'B' 上 (両端含む) を動く.次 にk を動かすことにより、Pは図の斜線 部分を動く (原点Oは除く).

以上より、k=0 のときもあわせると、 Pの存在範囲は図の斜線部分の三角形全体である。この面積は

$$\frac{1}{2}|2\times2-6\times6|=16$$

(2) 
$$\beta' = -\beta \ \xi \ \exists \zeta \ \xi$$
  
 $\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + \beta' \overrightarrow{OB},$   
 $\alpha \ge 0. \ \beta' \ge 0. \ \alpha + \beta' \le 1$ 

となり、(1)と同様に考えると、Pの存在 範囲は $\triangle$  OAB の周および内部である。 この面積は

$$\frac{1}{2}|1\times 1-3\times 3|=4$$

155-2 
$$\overrightarrow{OP} = (x-y)\overrightarrow{OA} + (x+y)\overrightarrow{OB} = x(\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB}) + y(\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA})$$
 である.
 $\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OC}$ ,  $\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OD}$   $\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \overrightarrow{AB}$   $\overrightarrow{OD} = \overrightarrow{OD}$   $\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \overrightarrow{AB}$   $\overrightarrow{OD} = \overrightarrow{OD}$   $\overrightarrow{OD} = x\overrightarrow{OC} + y\overrightarrow{OD}$ ,  $-1 \le x \le 1$ ,  $-1 \le y \le 1$   $0\overrightarrow{C} + \overrightarrow{OD} = 2\overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OE}$ ,  $\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OD} = 2\overrightarrow{OA} = \overrightarrow{OF}$ ,  $-\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OD} = -2\overrightarrow{OA} = \overrightarrow{OH}$   $2\overrightarrow{CA} = \overrightarrow{OH}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{CA}$   $2\overrightarrow{$ 

156 
$$lP\vec{A} + mP\vec{B} + nP\vec{C} = \vec{0}$$
 に
 $n = 1 - l - m$ 
を代入して
 $lP\vec{A} + mP\vec{B}$ 
 $+ (1 - l - m)P\vec{C} = \vec{0}$ 
∴  $\vec{CP}$ 
 $= l(\vec{P}\vec{A} - \vec{P}\vec{C}) + m(\vec{P}\vec{B} - \vec{P}\vec{C})$ 
 $= l\vec{C}\vec{A} + m\vec{C}\vec{B}$ 

(i)  $\overrightarrow{CA}$  は  $\overrightarrow{CB}$  と平行ではないから, Pが辺 BC 上にある条件は,

#### $l=0, 0 \le m \le 1$

 $\overrightarrow{\text{157-1}}$   $\overrightarrow{\text{BH}} = \overrightarrow{\text{BC}} + \overrightarrow{\text{CD}} + \overrightarrow{\text{DH}}$ 

(ii) Pが直線 BC に関してAと同じ側にある条件は、l>0

 AB, AE, AD は1次独立であるから、

 ①、②より

$$\begin{cases} u_1 + u_2 = -1 \\ u_2 + u_3 = 1 \\ u_3 + u_1 = 1 \end{cases}$$

$$\therefore (u_1, u_2, u_3)$$

$$= \left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right)$$

である. L は直線 OH 上にあるので、ある実数 k を用いて  $\overrightarrow{OL}=k\overrightarrow{OH}=k\overrightarrow{a}+k\overrightarrow{b}+2k\overrightarrow{c}$  と表せる. L が平面 ABC 上にある条件 は

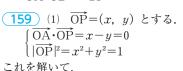
$$k+k+2k=1 \qquad \therefore \quad k=\frac{1}{4}$$
$$\therefore \quad \overrightarrow{OL} = \frac{\overrightarrow{a}+\overrightarrow{b}+2\overrightarrow{c}}{4}$$

(158-1)  $\overrightarrow{AD} \perp \overrightarrow{BF}$  ゆえ、 $\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{BF} = 0$   $\angle ADB = 30^{\circ}$  であるから、 $\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{BD} = \overrightarrow{DA} \cdot \overrightarrow{DB}$ 

 $=2a \times \sqrt{3} a \times \cos 30^{\circ} = 3a^{2}$ 正六角形の中心を O とすると,  $\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{CF} = 2\overrightarrow{OD} \cdot 2\overrightarrow{OF}$ 

$$=2a\times2a\times\cos120^{\circ}=-2a^{2}$$

$$\begin{array}{c|c}
\hline{(58-2)} & |\overrightarrow{AB}| \\
= |\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}| \not D \cdot \overrightarrow{DB} \\
|\overrightarrow{AB}|^2 \\
= |OB|^2 - 2\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} \\
+ |\overrightarrow{OA}|^2 \\
\therefore 16^2 \\
= 12^2 - 2\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} + 8^2 \\
\therefore \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = -24
\end{array}$$



$$\overrightarrow{OP} = \left(\pm \frac{1}{\sqrt{2}}, \pm \frac{1}{\sqrt{2}}\right)$$
 (複号同順)

(2) 
$$\vec{b} = (x, y)$$
 とすると、  
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos 60^{\circ}$ 、 $|\vec{b}| = 2|\vec{a}|$  より  
 $4x + 3y = 5 \times 10 \times \cos 60^{\circ}$  ......①  
 $x^2 + y^2 = (2 \times 5)^2$  .....②

①, ②より, 
$$x^2 + \left(\frac{25-4x}{3}\right)^2 = 100$$

(複号同順)

(3) 
$$\cos \theta = \frac{1+0+2}{\sqrt{1+1+4}\sqrt{1+0+1}} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

 $0^{\circ} \le \theta \le 180^{\circ}$   $\emptyset \gtrsim$ ,  $\theta = 30^{\circ}$ 

$$\cos \theta = \frac{x^2 - 6x + 6}{\sqrt{x^2 - 6x + 18}\sqrt{x^2 - 6x + 18}}$$
$$= \frac{x^2 - 6x + 6}{x^2 - 6x + 18} = 1 - \frac{12}{(x - 3)^2 + 9}$$

x が実数全体を動くとき.  $(x-3)^2+9$ は9以上の実数をすべて動く.

$$\frac{12}{(x-3)^2+9}$$
 のとり得る値の範囲は

$$0 < \frac{12}{(x-3)^2 + 9} \le \frac{12}{9} = \frac{4}{3}$$

よって、 $\cos\theta$ のとり得る値の範囲は

$$-\frac{1}{3} \le \cos \theta < 1$$

160 
$$|\vec{a}+c\vec{b}| \ge |\vec{a}|$$
 は  $(\vec{a}+c\vec{b})\cdot(\vec{a}+c\vec{b}) \ge \vec{a}\cdot\vec{a}$  は  $(\vec{a}+c\vec{b})\cdot(\vec{a}+c\vec{b}) \ge \vec{a}\cdot\vec{a}$  ∴  $|\vec{a}|^2 + 2c\vec{a}\cdot\vec{b} + c^2|\vec{b}|^2 \ge |\vec{a}|^2$  ∴  $|\vec{b}|^2c^2 + 2(\vec{a}\cdot\vec{b})c \ge 0$  と同値である.これがすべての実数の成り立つ条件は  $|\vec{b}|^2 > 0$  ト  $|\vec{a}\cdot\vec{b}|$ 

と同値である. これがすべての実数cで 成り立つ条件は、 $|\vec{b}|^2 > 0$  より  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$ すなわち  $\vec{a} \perp \vec{b}$ 

162-1 
$$\overrightarrow{PO} + \overrightarrow{PA} + 4\overrightarrow{PB}$$
  
 $= -6\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OA} + 4\overrightarrow{OB}$   
 $= -6\left(\overrightarrow{OP} - \frac{\overrightarrow{OA} + 4\overrightarrow{OB}}{6}\right)$   
であるから  $|\overrightarrow{PO} + \overrightarrow{PA} + 4\overrightarrow{PB}| = 30$  は

6|(x, y)-(3, 4)|=30 $tx + (x-3)^2 + (y-4)^2 = 5^2$   $tx = 5^2$ 

**162-2** A, B, C, Pの位置ベクトルを それぞれ $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ ,  $\vec{p}$  とし, 与式を  $\overrightarrow{PB}$ でまとめると.

$$-3\overrightarrow{PB} \cdot (\overrightarrow{PA} + 2\overrightarrow{PC}) + \overrightarrow{PA} \cdot (\overrightarrow{PA} + 2\overrightarrow{PC}) = 0$$

$$\therefore (\overrightarrow{PA} - 3\overrightarrow{PB}) \cdot (\overrightarrow{PA} + 2\overrightarrow{PC}) = 0$$

$$\therefore (2\vec{p} + \vec{a} - 3\vec{b}) \cdot (-3\vec{p} + \vec{a} + 2\vec{c}) = 0$$

$$\therefore \left(\vec{p} - \frac{3\vec{b} - \vec{a}}{2}\right) \cdot \left(\vec{p} - \frac{\vec{a} + 2\vec{c}}{3}\right) = 0$$

よって、PはABを 3:1 に外分する点 X. ACを2:1に内分 する点Yを直径の両 端とする円をえがく.



(163) BC & OA の交点をHとすると  $\vec{c} = \overrightarrow{OB} + 2\overrightarrow{BH}$  $=\overrightarrow{OB}+2(\overrightarrow{OH}-\overrightarrow{OB})$  $=2\overrightarrow{OH}-\overrightarrow{OB}$  $\exists c. \overrightarrow{OH} \overrightarrow{a} \overrightarrow{b} \overrightarrow{o} \overrightarrow{a}$ への正射影ベクトルであり,

$$\overrightarrow{OH} = \frac{\overrightarrow{OB} \cos \angle AOB}{\overrightarrow{OA}} \overrightarrow{OA}$$

$$= \frac{|\vec{b}| \cos \angle AOB}{|\vec{a}|} \vec{a}$$

$$= \frac{|\vec{a}||\vec{b}| \cos \angle AOB}{|\vec{a}|^2} \vec{a} = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}|^2} \vec{a}$$

$$\therefore \vec{c} = 2 \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}|^2} \vec{a} - \vec{b}$$